

WEB公開版

平成28年度

学部FD推進事業

成果報告書

教育開発推進機構 教育開発センター

「学部 FD 推進事業」成果報告書の刊行にあたって

國學院大學
教育開発推進機構長
教育開発センター長
柴崎和夫

各学部が「学部 FD 推進事業」を実施した成果については、これまで成果報告書と言う形で報告していただいていた。けれども、平成 27 年度の教育開発センター委員会における議論で、「学部 FD 推進事業」実施から 5 年目に入ることからより一層の事業発展のために、成果報告会という形で学内に事業の成果を示し、情報共有をする方向がまとまりました。また、同年度の基準協会による認証評価を受審した際においても、このような優れた活動の成果は全学的に共有して有効に活かすべきではないか、さらに大学外部にも公表できる事柄ではないか、という意見が得られました。そこで、教育開発センター委員会では今年度全学的な成果報告会を開催することを決定しました。今回が初めての試みでしたので、実施に当たっての学内への周知方法、報告会日程の設定に関してなど、幾つか課題も浮かびあがっています。こうした点については、次年度以降に改善していくことにしたいと考えています。

報告会にご出席いただいた方々の数はかぎられてしまいましたが、出席して報告を聞いた方々からは、非常に有益であったとのコメントをいただきました。どのような事業、活動であっても、その成果に関しては第三者による評価が重要です。外部から意見を述べてもらう事で、多くの気づきが生まれる可能性が高くなります。それに、どの学部の FD であろうと、我々が教育の対象としているのは要するに國學院大學の学生で有り、FD を担っているのは國學院大學の教員です。したがって、一つの学部での FD の成果は他の学部の教員にも本来的に役立つ情報ですし、我々教員もその成果を活かすことができると考えています。

今回は、報告会に準備された資料を一つにまとめて「報告書」として皆様に提示することにしました。報告書を読んだだけでは分からない、理解しがたいことも、実際に報告会に出席していただければ納得できることが多く、また直接当事者に尋ねることもできた訳なのです、少なくとも報告書と言う形で皆様に提供いたしますので、是非ご一読いただき役立ててほしいと思います。同じ学内の教員同士ですので、もし気づいた点や疑問が生じたならば、積極的に直接お声がけをして下さるようお願いいたします。

次年度の成果報告会は、「学部 FD 推進事業」だけでなく、「グループ FD 推進事業」の成果も合わせて報告していただく機会とする予定です。今後とも、皆様お誘い合わせてこの報告会に参加していただけることを期待しています。

目 次

「学部 FD 推進事業」 成果報告書の刊行にあたって	i
はじめに	1
平成 28 年度「学部 FD 推進事業」 実施までの経過	3
学部 FD 推進事業の改定から実施までの審議経過	4
平成 28 年度「学部 FD 推進事業」 採択一覧	6
平成 28 年度「学部 FD 推進事業」 申請書一覧	7
平成 28 年度「学部 FD 推進事業」 中間報告一覧	20
平成 28 年度「学部 FD 推進事業」 報告書及び成果報告会資料一覧	26
文学部	28
法学部	78
経済学部	79
神道文化学部	84
人間開発学部	106
参考資料	115

はじめに

本報告書は、平成 28 年度國學院大學 FD 推進事業のうち、学部 FD 推進事業の成果をとりまとめたものである。ここでは報告書内容に先立ち、本学 FD 推進事業の概要と平成 28 年度からの変更点について説明を行っておく。

学士課程教育の質保証・学修成果の向上が期待される中、これまで國學院大學では学長のリーダーシップにより 2 つの FD 推進事業を実施してきた。1 つは平成 24 年度に開始した「学部 FD 推進事業」であり、もう 1 つは平成 14 年度に開始した「特色ある教育研究事業」である。両者はともに教員の教育力向上を目的とする事業であって、教員が自主的に企画・実施する点でも違いはない。だが両者では、助成対象と審査・予算管理組織に違いがあった。前者の助成対象となる取組は、学部単位で企画・実施する取組であり、審査及び予算管理は、教育開発推進機構内に設置された教育開発センター委員会が担当していた。他方で後者の助成対象は、本学に所属する専任教員個人を単位として、共通の関心・目的を有す専任教員が学部学科等の垣根なく連携して行う取組であり、審査及び予算管理は教務部委員会及び教学事務部が担当していた。

上記の FD 推進事業は、双方ともに、教員の教育力向上と本学学士課程教育の質保証・学修成果の向上に一定の貢献を果たした。だが事業開始から数年が経ち、PDCA サイクルによる検証を行った結果、さらなる充実が期待できることも明らかになった。そこでとりあえず学部 FD 推進事業を審査・管理する教育開発センター委員会では、同事業が平成 28 年度に 5 年目を迎えるにあたり、今後の本学における FD 実質化の重要性に鑑みて、平成 27 年 7 月 22 日開催第 4 回教育開発センター委員会から学部 FD 推進事業の今後の在り方に関する将来構想の検討を開始した。以後、数回の議論を経て、同年 11 月 18 日開催第 7 回教育開発センター委員会において平成 28 年度以降の「学部 FD 推進事業」の実施方針とモデルが示され、発展的に改定した新しい学部 FD 推進事業の実施が了承されるに至った。以上の議論の経過については、次頁以降で詳述するが、それまでの学部 FD 推進事業から大きく変更した点は 2 つであり、①申請書形式の改定、②成果の共有・検証の機会の設定と学内外への情報発信であった。①については、従来の申請書が 4 つの指標から説明を求めたのに対し、改定した申請書では 7 指標とした。これは申請書の段階から PDCA サイクルによる改善をより重視したものとすること、そして特定の学部限定しない、学士課程教育全体の向上に資する汎用的な取組を促すことを意図したものであった。そして②については、中間報告書の提出に加え、年度末に全学教職員を対象に成果報告会を開催し、その成果を報告書として発信することで、学部学科の垣根を超えた大学内での有機的な成果の共有と、大学外のステークホルダーによる再検証の機会を提供することを期したのである。以上の改定を行った上で、平成 27 年 12 月 4 日に平成 28 年度「学部 FD 推進事業」の募集が開始され、年が明けた平成 28 年 2 月 10 日の教育開発センター委員会で審議を行い、平成 28 年 4 月より事業を実施したのである。

一般に FD (Faculty Development : ファカルティ・ディベロップメント) の定義は多様であり、一義的なものではない。大学によっては独自の FD の定義 (ポリシー) を掲げている例も散見される。ただ

し多義的な中であって共通するのは、「教員の教育能力の開発・向上」と、それを「不断の自主的な組織的取組」とする点である。今回の変更は、後者の「不断の自主的な組織的取組」の実質化により注力したものである。つまり①によって PDCA サイクルを実質化しやすい事業計画を期待するものであり、②によって共有の場・機会を提供することで、教職員による自主的な関係性を構築してもらうことで、不断の自主的な組織的取組の実質化を目指したのである。

本報告書は、こうした意図のもとで実施された平成 28 年度学部 FD 推進事業の成果報告書である。同年 4 月に開始された各学部の取組は、年度途中の 9 月 28 日に中間報告に対する検討が行われ、平成 29 年 3 月 10 日に成果報告会（22 名が参加。内訳は教員 20 名、職員 2 名）を実施するに至った。本報告書は、以上の一連の取組・成果をまとめたものであり、結果として 200 頁近い大部なものとなった。あらためて平成 28 年度学部 FD 推進事業を担当された各学部の実務担当者ならびに従事された教員の方々、そして審査にあられた教育開発センター委員諸氏にお礼申し上げる次第である。本報告書が國學院大學の教育改善の一助となることを期待するとともに、今後も教育開発推進機構では本学 FD のさらなる実質化に向けた取組を実施していきたいと考えている。

平成 29 年 4 月 26 日

教育開発推進機構

教育開発センター

平成 28 年度「学部 FD 推進事業」実施までの経過

学部 FD 推進事業の改定から実施までの審議経過

年	月日	検討事項
平成 27 年	7 月 22 日	第 4 回教育開発センター委員会 <ul style="list-style-type: none"> 審議事項「平成 28 年度学部 FD 推進事業に関する件」を審議。
	9 月 30 日	第 5 回教育開発センター委員会 <ul style="list-style-type: none"> 審議事項「次年度以降の学部 FD 推進事業に関する件」を審議。各学部からは事業の実施・継続を求めるとの意見が寄せられ、学部における FD 助成の継続が承認。
	10 月 28 日	第 6 回教育開発センター委員会 <ul style="list-style-type: none"> 審議事項「次年度以降の学部 FD 推進事業に関する件」を審議。前回承認事項（学部における FD 助成の継続）の確認が行われた。また実施方針については、PDCA サイクルによる学部 FD を促進するため、改定案を教育開発推進機構内で作成した上で、次回センター委員会に諮ることです承を得た。
	11 月 18 日	第 7 回教育開発センター委員会 <ul style="list-style-type: none"> 審議事項「次年度以降の学部 FD 推進事業に関する件」を審議。資料「平成 28 年度「学部 FD 推進事業」について（案）」により、これまでの検討課題を踏まえ、①申請書の形式の改定、②成果の共有・検証と学外への情報発信を追加した改善案が提示され、審議の結果、承認。それを受けて「平成 28 年度以降の「学部 FD 推進事業」のモデル」を考慮して同事業を実施することも承認。 平成 28 年度学部 FD 推進事業の予算執行方式及び申請書式改訂版が提示され、適宜修正を加えた上で、それに従い実施することが承認。
	12 月 4 日	平成 28 年度「学部 FD 推進事業」の募集を開始（締切平成 28 年 1 月 29 日）
平成 28 年	2 月 10 日	第 8 回教育開発センター委員会 <ul style="list-style-type: none"> 審議事項「平成 28 年度学部 FD 推進事業の審査に関する件」を各学部から提出された申請書にしたがって審議。審議の結果、申請内容・申請金額等の修正を行い、申請書を再提出することで事業実施を承認。
	4 月	平成 28 年度「学部 FD 推進事業」の開始
	9 月 28 日	第 5 回教育開発センター委員会 <ul style="list-style-type: none"> 報告事項「平成 28 年度学部 FD 推進事業中間報告について」を報告。

		各学部から提出された中間報告にもとづいて報告され意見交換が行われた。
	10月26日	<p>第6回教育開発センター委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 審議事項「「特色ある教育研究」FDプログラムに関する件」を審議。本学のFD推進事業である「学部FD推進事業」と「特色ある教育研究」の今後の在り方を検討。「國學院大學FD推進事業」として、「学部FD推進事業」と「特色ある教育研究」を機能的に統合した「國學院大學FD推進事業の助成に関する規程（案）」を提示し、審議。審議の結果、次回センター委員会で修正を加えた規程案を提示することで了承。
	10月27日	平成29年度「学部FD推進事業」の募集を開始（締切平成29年1月31日）
	11月24日	平成29年度「グループによるFD推進事業」の募集を開始（締切平成29年1月31日）
平成29年	2月8日	<p>第7回教育開発センター委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 審議事項「平成29年度「学部FD推進事業」の審査に関する件」を審議。審議の結果、申請内容・申請金額等の修正を行い、申請書を再提出することで事業実施を承認。 審議事項「平成29年度「グループによるFD推進事業」の審査に関する件」を審議（本事業は従来の「特色ある教育研究」を発展的に改定したもの）。それと合わせて、前回センター委員会での議論を踏まえて修正した「國學院大學FD推進事業の助成に関する規程」を再提示し、承認。 報告事項「平成28年度学部FD推進事業について」を報告。同事業の報告書締切を平成29年3月3日（金）までとし、成果報告会を平成29年3月10日（金）に実施することが決定
	3月10日	平成28年度「学部FD推進事業」成果報告会を開催
	4月	<p>平成29年度「学部FD推進事業」の開始</p> <p>平成29年度「グループによるFD推進事業」の開始</p>

平成 28 年「学部 FD 推進事業」採択一覧

項目	詳細
申請学部	文学部
事業名称	カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討
申請者	野呂 健
実務担当者	金杉武司
申請額	800,000 円
申請学部	法学部
事業名称	法学部におけるアクティブラーニング導入および初年次教育手法の研究
申請者	宮内靖彦
実務担当者	川合敏樹
申請額	797,600 円
申請学部	経済学部
事業名称	基礎演習 A・B における外部評価を通じた授業改善
申請者	尾近裕幸
実務担当者	細井 長
申請額	1,000,000 円
申請学部	神道文化学部
事業名称	学生に対する効率的なアンケート・学力調査ならびに有識者の外部評価による授業運営・学部運営の改善化
申請者	武田秀章
実務担当者	遠藤 潤
申請額	798,000 円
申請学部	人間開発学部
事業名称	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発
申請者	新富康央
実務担当者	伊藤英之
申請額	969,500 円

*申請総額 4,365,100 円

平成 28 年度「学部 FD 推進事業」申請書一覧

文学部

法学部

経済学部

神道文化学部

人間開発学部

平成 27 年 12 月 4 日

各位

委員長 柴崎 和夫

平成 28 年度「学部 FD 推進事業」の申請について（ご案内）

標記の件につき、平成 28 年度につきましても本年度同様予算申請を行い、事業を募集いたします。
つきましては、下記により 28 年度の申請を受付いたしますので、申請をお考えの学部におかれましては、下記要領をご一読いただき、ご申請くださいますようお願いいたします。

記

- 1) 事業内容：「組織的な職能開発」に関する事業で、原則として単年度で完了するものとする。
ただし別紙にあるとおり、最長 2 年の事業計画を策定することも可能。
- 2) 申請件数：各学部 1 件とする（申請者は学部長とする）。
- 3) 一事業の予算上限：一事業の予算は 100 万円を限度とする。
- 4) 事業期間：平成 28 年 4 月上旬～平成 29 年 1 月中旬（出金手続の完了）
- 5) 申請方法：所定の申請用紙【様式 1～5】に必要事項を記入の上、教育開発推進機構事務課（渋谷キャンパス 3 号館 3 階 3311）へ提出。なお今年度より **データでの提出も必須**とする。
【申請締切】平成 28 年 1 月 29 日（金）正午（厳守）
- 6) 審査：教育開発センター委員会が行う。
- 7) 事業終了後の報告：事業報告書（指定書式）を、次年度 5 月初旬を目処に提出。パブリックフォルダにて学内限定で公開する。さらに成果報告会（仮称）での発表内容については適宜取りまとめ、教育開発推進機構 Web ページで学外へ公開する予定である。

◎申請に際しては、別紙「学部 FD 事業支援経費の申請及び予算執行について」の諸注意を踏まえて行ってください。

以上

学部 FD 事業支援経費の申請及び予算執行について（別紙）

【事業内容の注意点】

「FD」である以上、学生に直接働きかけるものではなく、教員自身の資質・教育力向上（ブラッシュアップ、スキルアップ）や授業改善を通じて学生に還元しうるものであり、「教員」が主語となる事業（学生への直接的な教育の研究費である「特色ある教育研究」とは異なる）。

なお今年度からは学部FD事業のさらなる発展を企図し、①当該学部学科の枠組みを超えた本学学士課程教育全体への汎用性が意図されており、②本事業の成果の共有・検証と学外への情報発信に積極的に取り組むことを申請時の条件とします。

【事業の例】

- EX1：学生への直接的な教育・指導を目的とした研究会や合宿等・・・×
- 教員同士が授業効果向上等について勉強するための研究会や合宿等・・・○
- EX2：学生を対象とした講演会の開催や講師等の招へい・・・×
- 教員を対象とした、よりよい教育提供を学ぶための講師等の招へい・・・○
(ただし、あまりに専門研究に偏った内容は避ける)
- EX3：授業効果や教員の努力、改善点を測定・検証するためのアンケート実施と分析・・・○
- EX4：学生へ配布し、学生が使用する教材やEラーニング等の作成・開発・・・×
- 学生等へ配布する『独自アンケート分析書』作成・・・○
- EX5：教員がFDや高等教育を学ぶための研修等参加・・・○

【事業推進・予算執行上の注意点】

- ・ 審査・決定以降の経費の移動（付け替え）は、原則として認められませんので、計画策定にあたっては、十分ご注意ください。ただし、前期終了時点での執行状況に鑑み、減額補正を行うことは可能です（その場合は所定の書式【様式6】を使用して申請して下さい）。
- ・ パソコン及び周辺機器、iPad等の多機能携帯端末、撮影・録音機材など物品の購入については、新規の購入は極力避け、学部等で所有しているものが使用可能であれば、そちらを利用してください。
- ・ 本事業は学部等の組織的取組という点に鑑み、原則として購入した物品は所属教員が共同で等しく利用できるようにしてください。
- ・ 事業は原則として単年度で完了するものとしますが、「教育内容・方法等の不断の改善」という視点から、単年度での予算措置及び申請書作成を求めるものの、最長2年の事業計画を策定することも可能です。
- ・ 次年度以降のメンテナンス費用等が発生するものは認められません。
- ・ 本事業の実務は、様式①下欄に記載された担当者（教員）が責任をもって遂行してください。

－お問い合わせ－

教育開発推進機構事務課（担当：中條）

TEL 03-5466-2496（内線 420） Email:kyouikukaihatsujim@kokugakuin.ac.jp

平成28年度 「学部FD推進事業」申請書

平成28年 1月 28日提出

申請者氏名 (学部長申請)	文学部長 野呂 健	
課題名	カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討	

事業の概要(計画期間全体)(各400字程度)

○目的:現状認識を踏まえた事業の目的

文学部独自の授業評価アンケートを継続的に実施し、カリキュラムおよび授業の改善の指針を検討するための材料とする。過去3年間のアンケート実施の結果、アンケートをどのような方法(質問項目、回収方法等)で実施するのが望ましいかが大体定まってきた。平成28年度も引き続き同様の方法でデータの蓄積を行うとともに、調査結果を学部内で共有し、カリキュラムおよび授業改善の具体的な検討作業に入りたい。とくに昨年度のアンケートでは、それ以前に比べ、ディプロマポリシーを学生に対してどのように徹底させるかに関する項目を追加した。この点を踏まえて、引き続きアンケートを実施しつつ、授業改善の具体的策を検討していきたい。

○内容:目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。

- ①文学部独自のアンケート(「FDアンケート」)の実施 ②研修会の実施

○計画:どのような計画で、当該事業を実施するのか。

①アンケート:これまでの経験に鑑み、アンケートの実施は昨年度と同様に早めに(可能であれば前期中に)行いたい。5-6月にはアンケート項目や実施方法を文学部教務委員会で確定し(基本的にはデータの継続性のために平成27年度の質問項目を引き継ぐが、平成27年度の回答状況を見て、文言の修正など多少行う可能性がある)、前期末に実施したい。その後、夏休み期間中に業者にデータの分析を行ってもらおう。

②研修会:データにもとづいて後期中に研修会を実施する。また、アンケート調査によって浮かび上がった本学独自の状況を、戦後日本の大学教育をめぐる歴史的状況に照らし合わせて考察する。特に、人文系の学士課程教育にどのような教育が求められているのか、掘り下げて考察したい。なお、平成27年度は予算内で依頼できたデータは1200件であった。この数をもう少し増やし1500件程度とするために、アンケートの委託費として800千円を申請する(平成27年度は648千円)。研修会は外部委託せずに学内で行う予定なので、研修会用の費用は今回申請しない。平成28年度に文学部内で行う研修会の結果により、必要な専門的知識をもった講師などを依頼するかどうか、翌年度に向けて検討する。

○点検・評価:本事業の実施状況並びに成果をどのように点検・評価するのか。

本事業の成果は、研修会を通じた調査結果の学部内共有によって実際にどれくらいカリキュラムや授業が改善されたか、によって点検・評価される。カリキュラムや授業の改善の程度は、過去に実施されたアンケートのデータに基づいて学生のカリキュラム満足度等の経年比較を行うことによって測定される。とりわけ過去のアンケートを通じてわかってきたことは、履修制限やキャップ制に対する学生の不満が相当に大きいということである。この点については、早急に改善策を検討し、成果を現実化・具体化することに努めていきたい。

○改善・期待される効果:今後の当該学部の教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述してください。

①FDアンケート:各教員が実感として持っているカリキュラムや授業の質(長所と問題点)を、授業を受ける側の学生の視点および数量的データと比較できる。この作業により、授業を行う側には気づかれにくい問題点を明らかにするきっかけができる。また、これまでのデータの蓄積に加えることによって、一貫して見られる傾向が判明すると同時に、学生の側の変化しつつある要望なども浮かび上がる可能性がある。

②研修会:授業改善のための具体的な課題を学部内で広く共有する。また、日本の大学(特に人文科学系の私立大学)の学士課程教育が直面している課題に照らし合わせて、本学の抱える問題が明らかにされることで、カリキュラムおよび授業改善のための検討課題がより明確かつ具体的になる。

○汎用性（波及効果）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。

アンケートの質問項目は学部固有の内容を含んだものが多い。しかし、カリキュラムや授業の改善のための材料を、アンケートを通じて獲得するという本事業の形態や成果は、全学で共有できるものがあると考えている。とくに学生の意見を踏まえながら授業改善等を行っていくこと、あるいは学部のポリシーを教員と学生との間で共有することなどの点は、全学的に共有性が高い事柄であると思われる。

○経費の妥当性・必要性：教育研究費支出、人件費支出、設備関係支出のそれぞれについて、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述してください。

本事業の支出は、アンケートの委託費からなる教育研究費支出のみである。アンケート結果の精度を高めるためにデータ数を増やす必要があるため、平成28年度はデータ数1500件程度を想定している。平成27年度はデータ数1200件で648千円の支出であったことから、平成28年度は800千円程度の支出が見込まれる。

事業の実務担当者
（教員）

金杉 武司（文学部哲学科 准教授）

平成28年度 「学部FD推進事業」 申請書

平成28年1月29日提出

申請者氏名 (学部長申請)	法学部長 宮内 靖彦
課題名	法学部におけるアクティブラーニング導入および初年次教育手法の研究

事業の概要(計画期間全体)(各400字程度)

○目的:現状認識を踏まえた事業の目的

法学部では、これまで「教育の質保証体制の構築(PDCAサイクルの実行的稼働)」のための各種作業を行ってきており、専攻ごとの教育目標やカリキュラムマップ等の(一応の)完成を経て、平成27年度からはカリキュラム改定を目指したFD活動を実施している。こうしたFD活動の眼目は、アクティブラーニングの導入と初年時教育の改革にあり、現在、初年次教育のあり方について検討が進められるとともに、より効果的な教育を実現するためのカリキュラム改定についても検討が始まったところである。平成28年度のFD推進事業では、従来実施されてきたPDCAサイクルの具体的検証およびアクティブラーニングに関する研究をさらに継続・深化させるとともに、初年次教育のための教材作成を押し進めることとし、平成29年度からの新カリキュラム導入(予定)に向けた各種作業を加速させることとしている。

○内容:目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。

(1) PDCAサイクルの具体的な検証 教育の質保証体制としてのPDCAサイクルについての具体的な検証を踏まえた上で、これまでの授業方法やカリキュラムに潜む問題点を洗い出し、より効果的な教育を実現させるために教育手法の改善やカリキュラム改定に関する検討を実施する。
 (2) アクティブラーニングの導入に関する研究 以前より法学部で検討されてきたアクティブラーニングの導入とその実効的運用などについて、研究を深化させる。
 (3) 初年次教育のための教材作成と教育方法の研究 初年次教育の拡充の一環として、平成29年度(予定)から入門系科目(公法入門・民事法入門・刑事法入門)を導入することを視野に入れながら、担当教員による部会を開催し、その教材を完成させるとともに、その実効的な教育方法を検討する。

○計画:どのような計画で、当該事業を実施するのか。

(1) 学部FD研究会および各部会の実施 アクティブラーニングの導入とその実効的運用、カリキュラム改定の可否・可否やその実効的運用、初年次教育の拡充に向けて、平成27年度に引き続き、各種情報の収集・検討・分析を行い、研究会や部会を通じてその共有・実現を図る。
 (2) アクティブラーニング導入大学・学部や入門系科目導入大学・学部への視察、講師の招聘 すでに法学教育にアクティブラーニングや入門系科目を導入して一定の成果をあげている大学・法学部への視察を行ったり、講師を招いて研究会を実施したりすることにより、情報や知識の収集・共有を図る。
 (3) 学部生を対象とした実験やアンケートの実施 アクティブラーニングの導入および初年次教育の拡充について、その実効的運用や教育効果を総合的に判定するため、学部生を対象とした模擬授業等の実験やアンケートを実施する。
 (4) WG(ワーキンググループ)の組織化 特に初年次教育用の教材作成を目的としてWGを組織化する。学部生から意見を聞く機会を適宜設けるなど教員と学部生の「共同」で教材作成を図る。

○点検・評価:本事業の実施状況並びに成果をどのように点検・評価するのか。

アクティブラーニングの導入については、すでに導入されている科目の履修者にアンケート調査を実施し、伝統的な講義型の授業と比べてどれだけ学習成果や満足度などが上がっているかを測定・確認する。
 初年次教育科目の導入については、学部生を対象としてサンプルとなる教材案をもとに模擬授業等の実験を行い、その感想や評価を収集することで、その成果を測定・確認する。また、平成29年度(予定)以降に初年次教育科目が新たに導入された場合には、履修者に対して継続的な調査を行って、その学習成果を測定・確認する。
 上記いずれについても、従来の授業評価アンケートでもこうした測定・確認は可能であったが、加えて学部独自にアンケート調査を実施したい。また、研究会等を通じて上記の成果等を全教員で共有することによって、教員相互で点検・評価が可能となるようにする。

○改善・期待される効果:今後の当該学部の教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述してください。

アクティブラーニングによる教育方法の開発・深化によって、各教員が(学部レベルでの)法学教育の特性に合わせた双方向型教育をより実効的に実施することが可能となるし、また、今後も依然必要であろう講義型授業とアクティブラーニングとの「役割分担」・「共存」も図られ、このことの結果として、ひいては履修者の理解度や応用力が高まることが期待される。

初年次教育科目用の教材の開発によって、とりわけ初学者にとって難解と感じられる法学の教育について、各教員が初学者にとってもより理解可能な形で教授できるようになる。また、このことの結果として、ひいては履修者が法学に積極的に興味を持ち、より自主的・能動的に学習を進めることができるようになることが期待される。

○汎用性（波及効果）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。

アクティブラーニングの有用性は、もちろん法学教育に限られるものではなく、経済学をはじめとする他の教育分野にも応用できると考えられるし、さらに、例えば経済学部でのアクティブラーニングに関する経験を法学教育に応用するなど、学部および学問分野を横断した教育方法の開発・深化が可能である（例えば事例をベースとした問題解決型アプローチなど）。

また、入初年次教育科目に関して得られる情報や成果は、専門知識や専門教育に必ずしも慣れていない初学者にどのように教育を展開していくべきなのかという普遍的課題に関する貴重な示唆を与えるものと考えられるため、やはり学部および学問分野を横断した有用性が肯定される。

○経費の妥当性・必要性：教育研究費支出、人件費支出、設備関係支出のそれぞれについて、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述してください。

教育研究費支出として、（１）本研究課題の遂行に不可欠な事務用品の購入（消耗品費）、（２）初年次教育用教材としてビデオ教材を作成するためのビデオカメラや映像編集ソフトの購入（用品費）、（３）アクティブラーニングや初年次教育の実施に必要な基礎的および発展的な知識の取得のための書籍の購入（図書費）、（４）他大学への視察および意見交換のための出張（旅費交通費）、（５）FD研究会に招聘した講師への謝礼（報酬・支払手数料）、をそれぞれ予定している。

人件費支出として、（１）初年次教育用の教材の開発・深化に向けて学部生への模擬授業の実施と学部生からの意見提供の依頼、（２）法学部で独自に実施するアンケート調査の集計に関する単純作業の依頼、をそれぞれ予定している。特に前者は、前例がないかもしれないが、初年次教育用教材の実際上の効果等を測定する必要があるため、必要不可欠である。

事業の実務担当者
（教員）

川合敏樹（法学部／准教授） ※法学部FD委員の決定後、同委員に変更予定。

平成28年度 「学部FD推進事業」申請書

平成28年1月29日提出

申請者氏名 (学部長申請)	経済学部長 尾近 裕幸
課題名	基礎演習A・Bにおける外部評価を通じた授業改善

事業の概要(計画期間全体)(各400字程度)

○目的:現状認識を踏まえた事業の目的

経済学部では平成28年度から、1年前期必修科目「基礎演習A」ならびに1年後期義務履修科目「基礎演習B」において、全23クラスがアクティブラーニングのひとつであるグループワーク形式の授業を導入することになった。平成27年度の基礎演習ではトライアルとして24クラス中15クラスがグループワーク形式で行い、FA(学生ファシリテーター&アドバイザー)を1名ずつクラスに配置したが、統一内容で授業を行っているにもかかわらず、各教員ならびにFAの間での様々な「ばらつき」が目立った。初めて経験する教員も多い中、全クラスにグループワーク形式を導入するにあたって、こうした「ばらつき」を少なくし、より授業の内容や質を向上させるために、当該形態の教育手法に実績のある第三者によって授業内容や運営に対して評価を行ってもらい、助言を受けることにより各教員・FAがより一層の能力とスキルを向上させ、経済学部の初年次教育として重要な位置付けである基礎演習の改善を目指すものである。

○内容:目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。

立教大学等でグループワーク形式授業の支援実績があり、平成27年度の「基礎演習A・B」や「経営学特論(リーダーシップ)」において支援を依頼した株式会社イノベストに以下の内容を委託し、授業内容の改善と各教員・FAの授業運営能力とスキルの向上を図るものである。

- ①授業・会議見学を通じて授業評価を受ける。
- ②毎月の授業改善レポートを提出してもらう。
- ③授業総括レポートを提出してもらう。
- ④外部アドバイザーとしての役割を担ってもらう。

○計画:どのような計画で、当該事業を実施するのか。

本事業の計画は以下のように進める。

- ①授業期間中、全23クラスの授業を見学してもらい、授業内容や運営、FAの活用について評価してもらうとともに、改善のためのアドバイスを受ける。
 - ②毎月の授業改善レポートを提出してもらい、毎月1回実施予定の基礎演習担当者会議(教員・FA双方が参加)において助言を行ってもらう。
 - ③学期末に総括レポートを提出してもらう。
- 以上のプロセスを通じて、授業運営の課題を第三者の視点で指摘してもらい、直近ないしは次年度以降に向けた「基礎演習A・B」の授業改善を図る。

○点検・評価:本事業の実施状況並びに成果をどのように点検・評価するのか。

本事業の実施状況・把握方法として、毎月および学期末のレポート提出をうけ、担当者会議においてその内容を提示し、担当者全員で改善方法を議論し、それぞれの授業に取り入れていくことになる。担当教員が互いに他者の利点を知り、弱点についてのアドバイスを受けることによって授業を改善し、基礎演習の質が向上し、「ばらつき」が低減していくことを経済学部教務委員会が点検を行う。そうした改善を通じて履修学生の満足度が高まり、学習に対する意欲を向上させていくことを学期末の学生に対するアンケート調査で確認する。

○改善・期待される効果:今後の当該学部の教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述してください。

従来の基礎演習は必修科目であり、学生が(ゼミと異なって)教員を選択できないにもかかわらず、各教員が独自のやり方で行っており、担当者による「ばらつき」が非常に大きく、学生の満足度や2年時以降の学習態度の形成に大きな差が見られた。全担当者の状況を全員で共有し、第三者の視点から助言を受けることにより、必修かつ初年次教育として重要な科目の質にかんする「均質化」を図る。また、FAの効果的な活用方法についても助言を受けて改善していくことが期待されよう。

○汎用性（波及効果）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。

現在、「アクティブラーニング」が教育界で注目されている。國學院大學において経済学部「基礎演習A・B」の取り組みは、新入生全員を必修科目で「アクティブラーニング」を取り入れている先進的な取り組みであると言えよう。しかしながら、より進んでいる大学も多々、存在している。そうした状況に詳しい外部事業者から助言を受け、経済学部が自己改善を加えていくことで、國學院大學全体における初年時教育や「アクティブラーニング」についてのノウハウを蓄積し、全学的に波及させることが可能であろう。

○経費の妥当性・必要性：教育研究費支出、人件費支出、設備関係支出のそれぞれについて、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述してください。

本事業で申請する経費は労務委託費のみである。競合社があまり存在せず、平成27年度に同様の支援を依頼した事業者（株式会社イノベスト）と年間の事業内容について事前に見積もり（見積書を添付）を提出してもらった金額が申請金額である。

事業の実務担当者
(教 員)

細井 長 (経済学部/教授)

平成28年度 「学部FD推進事業」 申請書

平成28年 1月29日提出

申請者氏名 (学部長申請)	神道文化学部長 武田 秀章
課題名	学生に対する効率的なアンケート・学力調査ならびに有識者の外部評価による授業運営・学部運営の改善化

事業の概要(計画期間全体)(各400字程度)

○目的:現状認識を踏まえた事業の目的

神道文化学部は、学生の4年間の学修をよりよいものにするには、授業運営の指針として、学生の学修と奉職・就職の指向性の十分な把握が必要であると考え。具体的には、①1年次における基礎学力の充実、②学生の奉職・就職の指向性とカリキュラムや授業内容のマッチング③卒業延期率の継続的な改善、休退学者数の減少、が目標であり、このためにアンケートや学力調査を実施してデータを把握し、それにもとづいて授業および学部のオリエンテーションや諸講座・行事などの改善の基礎としたい。また、大学基準協会の指摘をふまえて学部運営についての外部評価の導入もこの事業によって行いたい。

神道文化学部では、過年度の学部FD推進事業において同様の事業を遂行し、授業の改善や学部の諸行事の企画をおこなってきた。その結果、卒業延期率は改善をみている。ただ、今後もさらに卒業延期率の改善は求められ、また修学状況のよくない学生への対応も必要であり、この事業で学生の状況を把握したい。昨年度、大学基準協会からは別科・専攻科の自己点検体制の不備を指摘された。制度的な整備ももちろん必要であるが、すでに学部として遂行しているアンケートを別科・専攻科においても実施することによって改善をはかりたい。また、課題となっていた外部評価についても、神道・宗教に関する大学教育を熟知した外部研究者による評価を実施したい。

○内容:目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。

下記のアンケート・調査を実施する。

- ①学生アンケートの実施…新入生意識調査、オリエンテーション・アンケート、2年次の進路希望調査、院友神職会からの教育補助費で実施している課外講座でのアンケート、卒業生アンケート
これらのアンケートでは、学生の今後の大学生活や奉職・就職といった、将来的な指向性を把握することと、講座終了後や卒業時に大学生活をふりかえるなど、経験した大学生活・企画についての学生による評価の二種の把握を目指すものである。
- ②神道に関する基礎学力診断(試験)…新入生(編入生・社会人等含む)の神道における基礎学力診断と1年後の到達度(入試形態別による分析等)調査。1年次において複数の科目によって基本的知識がどれくらい向上したかを計測するために、学生が解答する形態(試験形態)の神道に関する基礎学力調査を行う。

○計画:どのような計画で、当該事業を実施するのか。

A 下記のアンケート・調査を当該時期に実施する。

- ①学生アンケートの実施
- ・新入生意識調査(入学時)
 - ・オリエンテーション・アンケート(オリエンテーション終了後)
 - ・2年次の進路希望調査(後期「神道文化演習」における奉職・就職ガイダンス時)
 - ・院友神職会からの教育補助費で実施している課外講座でのアンケート(適宜)
 - ・卒業生アンケート(卒業時)
- ②神道に関する基礎学力診断(試験)…新入生(編入生・社会人等含む)の神道における基礎学力診断と1年後の到達度(入試形態別による分析等)調査。

○点検・評価:本事業の実施状況並びに成果をどのように点検・評価するのか。

このFD推進事業については、神道文化学部教務委員会が主体となって実施する。実施状況については、定期的に開かれる教務委員会においてその進行状況を報告し点検するとともに、学部教授会でも実施状況の報告をおこない、学部の教員からの意見を聴取することで十分な点検を果たしたい。また、成果については、適宜報告書の形にまとめて教務委員会・学部教授会で中間報告を行うとともに、特に教務委員会では授業設計や授業運営に関する基礎資料として、具体的な内容を検討する。

○改善・期待される効果:今後の当該学部の教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述してください。

新入生の意識調査については、大学入学時にどのような指向性を持っているのか把握することによって、その後実際に受ける授業とのギャップを教員が理解することが可能になり、そのデータに対応しつつ授業の設計・運営を具体的に改善することが可能になる。オリエンテーションならびに課外活動ではその後の円滑な学生生活のために友人関係が重要だという位置づけから実施しているアイスブレイクをはじめ、学部が用意した諸企画が学生にどのように受けとめられているか、学生のさらなるニーズはどこにあるのかを把握することで、その後の企画立案の基礎とすることができる。基礎学力診断は、具体的な学修項目に即した成績を調査することで、1年次の基礎的な科目の授業設計・運営を具体的に検討・改善することが可能になる。

○汎用性（波及効果）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。

神道文化学部は、1年次学生の習熟度を測る基準として、神道関係の基礎知識を用いることが可能であるが、他学部が同じ指標を用いることはできない。ただ、初年次学修の習熟度を測る指標なり試験なりを用意することで、ある程度の客観的なデータが把握できるという手法は、全学で共有可能である。

また、対費用効果ということでは、神道文化学部が採用している集計手法は、通常の業者委託アンケートと比較して、対費用効果がかなり高いと考えられる。全く同じ方法を採用する必要はないが、学生のアンケート・調査を年に複数回実施することで把握されるデータもあると考えられるので、この事業における費用を低く抑えつつ実施回数を確保するという手法は、全学でも参考になるのではないかと考える。

○経費の妥当性・必要性：教育研究費支出、人件費支出、設備関係支出のそれぞれについて、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述してください。

このFD推進事業は、上記の目標・内容・計画などに示したように、複数回のアンケートによって、学生のこれからの大学生活や将来設計についての指向性や学生生活・学部の諸企画に対する評価を知るもの、および学生に対する複数回の学力調査を行って習熟度を知るといったものである。調査対象となる学生の数が1学年全体となることも多く、教員自身が集計作業を行うということは困難なので、アンケート・調査に関する業者委託を行うことは妥当であろうかと考える。業者委託も、教員でできる部分は負担し、通常の業者アンケートとは異なる低費用での実施が可能になる手法を想定している。アンケートの実施に伴う準備・整理作業、業者から出てきたアンケート結果を学部教員の必要な形に整える作業、教員の分析を補助する作業は必要であり、作業協力者の人件費としてこれを計上している。外部評価については、現在のところ中京地区の2名の外部研究者に依頼する予定で、その報酬と國學院への旅費（各1回ずつ）を計上している。

事業の実務担当者
（教員）

遠藤 潤（神道文化学部神道文化学科／准教授）

平成28年度 「学部FD推進事業」申請書

平成28年 1月 29日提出

申請者氏名 (学部長申請)	人間開発学部学部長 新富 康央
課題名	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発

事業の概要(計画期間全体)(各400字程度)

○目的:現状認識を踏まえた事業の目的

本学部では、「人間開発」という新しい理念の下、高度な教育力と指導力を備えた保育者や教員および地域、企業における教育や健康指導を担うスペシャリスト、すなわち「人づくりのプロ」を育てることを主眼とした教育を行っている。本事業では、保育者および教員の養成に焦点を当て、学生が在学中に身につけておくべき資質・能力、そして、しておくべき経験を明らかにし、学部としてその養成のあり方を構築することを目的とする。平成25年度に新設された子ども支援学科が、昨年度保育実習に学生を送り出し、初等教育学科・健康体育学科を含め3学科全ての保育・教育実習における事前事後調査により、本学部の教職課程のカリキュラムおよび指導内容の改善点が少しずつ明らかになってきており、今年度は、指導内容の見直しを実施し効果を検証したい。

○内容:目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。

本学部は、3つの学科がそれぞれ異なる学校種の教員あるいは保育者を養成している。すなわち、各学校種で必要となる資質・能力は若干異なる。昨年度、各学科が明らかにした指導内容の改善点を踏まえ、導入基礎演習や演習などの学部の専門科目および教職・教育実習科目の双方の指導内容について改善を図る。

3学科の実践と振り返りについては、FD協議会を開催し、学部教員全員で情報の共有を図り、意識の向上や指導技能の開発・向上に資するようにする。

また、本学部の課題について先進的な取り組みを行っている教育機関を視察あるいは専門家を招聘して講演会を開催し、情報収集を行っていく。

○計画:どのような計画で、当該事業を実施するのか。

初等教育学科では、昨年度のFDより「礼儀作法やマナー、コミュニケーションに関する技能」の学習ニーズが最も高いと推測されたため、導入基礎演習のシラバスに入れ込み実施、並びに導入基礎演習の課題把握のための調査をする。

健康体育学科では、昨年度のFDより「学生の学習ニーズと教員の考え方の間のズレ」がみられたため、教育実習に関する学生・本学部教員・中学高校の教員の三者の捉え方について明らかにするための調査を実施する。

子ども支援学科では、昨年度のFDより「教育実習事後指導の実施時期が遅い」という課題が挙げられたため、事後指導の実施時期を教育実習終了後直ちに開始する。

外部の視察あるいは専門家を招聘して講演会を開催し、情報収集を行っていく。

○点検・評価:本事業の実施状況並びに成果をどのように点検・評価するのか。

本事業の実施状況および成果の点検・評価は、学部FD協議会を開催し、学部教員に途中経過および研究成果を報告・討議することで実施する。本事業の成果については、実施した内容に関して学部教員および学生に対して調査を実施し、評価していく。

○改善・期待される効果:今後の当該学部の教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述してください。

初等教育学科では、教職では主として小学校教員を目指していく初等教育学科生としての導入基礎演習に向けての授業改善につながっていくと考えられる。

健康体育学科では、本事業の成果に基づいて、今後の健康体育学科の教職課程における指導方針を考え改善していくための知見が得られると考えられる。

子ども支援学科では、教育実習や保育実習の事後指導の効果的な実施方法について考えていくための知見が得られると考えられる。

○汎用性（波及効果）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。

本学部のFD事業の成果の全学での共有は、以下のような効果が想定される。

1. 学部や学科ごとの導入教育のあり方について考えるきっかけ作りになり得る。
2. 教職課程や教職科目における指導方針や指導内容の改善の一助になると考えられる。

○経費の妥当性・必要性：教育研究費支出、人件費支出、設備関係支出のそれぞれについて、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述してください。

消耗品は、情報収集のための文献複写代や調査に必要な心理検査紙、封筒、印刷用品を計上した。用品は、授業内容のフィードバックに使用するための大量のアンケート用紙を処理するためのスキャナーを計上した。図書費は、言語データの要因分析をするためのPCソフトと実施する心理検査紙のマニュアルを計上した。通信運搬費は、調査紙を郵送にて実施する予定があるため、200名分の往復の郵送費を計上した。旅費交通費・報酬・支払い手数料は、外部講師を招いての講演会を実施する際に使用する予定である。人件費は、学生アルバイトにアンケートの下処理を依頼する際に使用する予定である。95時間分の予算を計上した。

事業の実務担当者
(教 員)

伊藤 英之 (人間開発学部健康体育学科/職位助教)

平成 28 年度「学部 FD 推進事業」中間報告一覧

文学部

法学部

経済学部

神道文化学部

人間開発学部

平成28年度「学部FD推進事業」中間報告

平成28年 9月 20日提出

申請者氏名 (学部長申請)	文学部長 野呂 健	
課題名	カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討	

平成28年4月から現在(9月末)までにおける当該申請事業の進展状況について、申請書に記載した「目的」「内容」「計画」を考慮しつつ、いつ、どこで、だれが、何を実施したかを考慮して、その概要を簡潔に説明してください(枠内書式自由)。

本事業は、文学部独自の授業評価アンケートを実施し、その結果を、カリキュラムおよび授業の改善指針を検討するための材料とすることを目的としている。その目的を達成するために、「可能であれば前期中にアンケートを実施し、後期中に研修会を開催する」という事業計画の下、現在まで以下のような事業を実施した。

①アンケート質問項目および実施方法の確定

4月から6月の文学部教務委員会において、本事業実務担当者である金杉を中心として、今年度のアンケートの質問項目および実施方法を検討し、その内容を確定した。

②アンケート調査票の作成

7月から8月上旬にかけて、アンケート調査票作成委託業者の候補二社に対して、実務担当者である金杉および教育開発推進機構事務課職員、管財課職員の立ち会いの下、見積もり合わせ説明会を実施し、委託業者を決定した。

8月中旬から9月上旬にかけて、委託業者に調査票の作成を依頼し、校正を経て、版下の完成に至った。(後期授業が開始され次第、調査票を印刷し、アンケートを実施する予定である。)

現在までの進展状況から、申請書に記した「計画」「点検・評価」「改善・期待される効果」に変更が生じる見込みであれば、その理由とどのような変更を見込まれるかについて簡潔に記述してください。

申請書では、可能であれば前期中にアンケートを実施することが計画されていたが、アンケート質問項目等の確定および委託業者の決定が予想以上に時間を必要とするものであったため、前期中にアンケートを実施することはできなかった。しかし、現在の進展状況から、後期開始時に実施することは可能であり、後期中に研修会を実施するという計画に支障は出ていない。現在の進展状況では、12月中の文学部教務委員会で研修会を実施することが可能である。

経費の執行状況

- 当初計画通りの見込み
- 減額補正を申請する見込み

事業の実務担当者 (教員)	金杉 武司(文学部哲学科 教授)
------------------	------------------

平成28年度「学部FD推進事業」中間報告

平成28年9月23日提出

申請者氏名 (学部長申請)	法学部長 宮内 靖彦
課題名	法学部におけるアクティブラーニング導入および初年次教育手法の研究

本事業は、平成 29 年度からの新カリキュラム実施との関連において計画・申請したものであるが、本年度になり、新カリキュラムそれ自体を平成 30 年度から実施することに予定を変更した。これは、平成 29 年度からの実施とすれば入試広報が全く間に合わないこと、および、本学法科大学院廃止が新カリキュラムに及ぼす影響を予測できていないことによる。そのため、これまでの時点では、FD委員会、新カリキュラム検討委員会、担当者会議（特に法律専門職専攻対象）を、4月から9月にかけて数回開催したにとどまり、本事業を具体的に進展させて成果を得たと言える状況にはない。

とはいえ、新カリキュラムを平成 30 年度から実施するとしても、その具体的な検討のほとんどは、本年度中に済ませておく必要があり、そのためにも、本年度中に本事業を具体的に進展させる必要がある。そこで、計画の一部は変更するものの、今後、本事業を具体的に進展させていく予定である。

先に述べたように、今後、本事業を具体的に進展させていく予定であるが、計画中にある「講師を招いて研究会を実施したりすること」については、適任の講師を探すことができていないことから、本年度は実施しないよう変更する。

経費の執行状況

- 当初計画通りの見込み
- 減額補正を申請する見込み

事業の実務担当者 (教員)	森川 隆 (法学部法律学科/教授)
------------------	-------------------

平成28年度「学部FD推進事業」中間報告

平成28年9月20日提出

申請者氏名 (学部長申請)	経済学部長 尾近 裕幸
課題名	基礎演習A・Bにおける外部評価を通じた授業改善

平成28年4月から現在(9月末)までにおける当該申請事業の進展状況について、申請書に記載した「目的」「内容」「計画」を考慮しつつ、いつ、どこで、だれが、何を実施したかを考慮して、その概要を簡潔に説明してください(枠内書式自由)。

経済学部では1年前期必修科目「基礎演習A」において、アクティブラーニングのひとつであるグループワーク形式の授業を平成28年度より全クラスで導入し、さらにFAを各クラス1名ずつ配置している。本事業はこの「基礎演習」における教員ならびにFAの「ばらつき」を少なくし、授業内容や質の向上を図るために当該形態の教育手法に実績のあるイノベスト社に外部評価を行ってもらうことを目的としている。

イノベスト社には前期期間中に全クラスの授業を見学してもらい、授業内容や運営、FAの活用などについて評価し、改善のためのアドバイスを受けることになっていた。イノベスト社による見学の後、毎月、授業改善レポートを提出してもらっている。それを受け、教員とFA双方が参加する担当者会議において助言をもらった。また、「基礎演習A」の総括レポートを8月に提出してもらい(別添)、イノベスト社担当者より経済学部教務委員が直接報告を受ける機会を設けた(平成28年9月16日に実施)。

同社から提出された総括によると、平成27年度に実施した基礎演習より受講生が活発に授業に取り組んでいることが報告され、こうした受講態度が大きく改善した要因として①教員とFAのファシリテーション能力向上、②教員とFAのコミュニケーション機会増加、③FAによる授業改善提案の3点が指摘された。加えて今後の改善のためには、基礎演習の目指すゴールイメージの明文化、教員・FA間での認識共有、基礎演習受講生の学習意欲と効果を高めるためのさらなる知見・ノウハウ・スキル修得の必要性が重要との提案を受けた。

引き続き、イノベスト社には後期「基礎演習B」の外部評価を依頼し、FA制度化・組織化の支援を受けることになっている。前期「基礎演習A」における指摘を、後期ならびに次年度の授業改善に活かす方策を経済学部教務委員会では検討中である。

現在までの進展状況から、申請書に記した「計画」「点検・評価」「改善・期待される効果」に変更が生じる見込みであれば、その理由とどのような変更を見込まれるかについて簡潔に記述してください。

特段の変化が生じる見込みはなく、引き続き当初計画に従って本事業を遂行する予定である。

経費の執行状況

- 当初計画通りの見込み
- 減額補正を申請する見込み

事業の実務担当者 (教員)	細井 長(経済学部/職位教授)
------------------	-----------------

平成28年度「学部FD推進事業」中間報告

平成28年9月26日提出

申請者氏名 (学部長申請)	神道文化学部長 武田 秀章
課題名	学生に対する効率的なアンケート・学力調査ならびに有識者の外部評価による授業運営・学部運営の改善化

平成28年4月から現在(9月末)までにおける当該申請事業の進展状況について、申請書に記載した「目的」「内容」「計画」を考慮しつつ、いつ、どこで、だれが、何を実施したかを考慮して、その概要を簡潔に説明してください(枠内書式自由)。

神道文化学部は、学生の4年間の学修をよりよいものにするためには、授業運営の指針たる学生の学修と奉職・就職の指向性の十分な把握が必要である。具体的には、①1年次における基礎学力の充実、②学生の奉職・就職の指向性とカリキュラムや授業内容のマッチング、③卒業延期率の継続的な改善、休退学者数の減少を目標として、アンケートや学力調査を実施してデータを把握することがこの申請事業の大きな柱の一つである。また、大学基準協会の指摘をふまえて学部運営についての外部評価の導入を実施することもこの申請事業の内容である。

このうち、9月末までの進展状況は次の通りである。

- 4月4日、新入生を対象とした「神道文化学部ガイダンス」時に新入生全員に対して「新入生アンケート」を実施した。
- 4月17日に明治神宮にて実施した神道文化学部主催の新入生オリエンテーション(アイスブレイク)時に「新入生オリエンテーションアンケート」を実施した。
- 1年生の必修科目である「神道概論」の4月の授業時に「神道に関する基礎学力診断」(試験)を実施した。これは新入生(編入生・社会人等含む)の神道に関する基礎学力診断であり、入試形態など諸属性による分析を行っている。
- これらのアンケート・学力診断については、回答結果を業者委託によって処理した上で、担当教員が作業協力者とともに情報整理・分析を進めている。学部教務委員会で随時中間報告を行うとともに、事業期間終了後には「平成28年度FD推進事業報告書」にまとめて開示することによって学部の教員間で情報共有をすする。

なお、10月以降、2年次の進路希望調査、院友神職会からの教育補助費で実施している課外講座でのアンケート、卒業生アンケート、2年生を対象とした「神道に関する基礎学力診断」(2年間の神道関係の学修結果の把握)を実施する。また、学部のカリキュラム、運営のあり方、学部行事などに関する外部研究者による総合的な評価(外部評価)も今後実施する。

現在までの進展状況から、申請書に記した「計画」「点検・評価」「改善・期待される効果」に変更が生じる見込みであれば、その理由とどのような変更を見込まれるかについて簡潔に記述してください。

特になし。

経費の執行状況

当初計画通りの見込み

減額補正を申請する見込み

事業の実務担当者 (教員)	遠藤 潤(神道文化学部神道文化学科/職位 准教授)
------------------	---------------------------

平成28年度「学部FD推進事業」中間報告

平成28年 9月 21日提出

申請者氏名 (学部長申請)	人間開発学部長 新富 康央
課題名	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発

平成28年4月から現在（9月末）までにおける当該申請事業の進展状況について、申請書に記載した「目的」「内容」「計画」を考慮しつつ、いつ、どこで、だれが、何を実施したかを考慮して、その概要を簡潔に説明してください（枠内書式自由）。

人間開発学部は、各学科が昨年度の本事業にて得られた課題を解決するために、本事業の課題に対して学科ごとにアプローチしている。各学科の現在までの進捗状況は以下のとおりである。

初等教育学科では、平成27年度のFDにおける学生に対するアンケートの分析結果を検討し、「礼儀作法・マナー、コミュニケーションに関する技能」の学習ニーズが最も高いことが推測された。この点について、学科教員による討議を行い、導入基礎演習等の少人数講義を利用して指導する必要性が指摘された。そこで、平成28年度は「初等教育教員養成における初年次教育の役割－導入基礎演習・総合講座で初等教育学科学生は何を学んでいるのか？」という学科テーマを設定し、「礼儀作法・マナー、コミュニケーションに関する技能」に及ぼす導入基礎演習と総合講座の効果を検証する。そして、初等教育学科の初年次教育の現状と課題を明らかにする。現在、導入基礎演習で学ぶ前の「大学生活不安」「コミュニケーションスキル」「社会考慮（マナーの基礎概念）」について調査を実施し、その結果を分析しているところである。

健康体育学科では、「教育実習生が実習までに持つべき資質・能力とは？」という学科テーマを設定し、現職の中学・高等学校の保健体育科教員に調査をするために質問紙を作成し、現在、教育実習の実施校や教育インターンシップ実施校を中心に、調査に協力してくれる中学・高等学校を探しているところである。

子ども支援学科では、平成27年度のFDにおいて、実習後の効力感の向上要因を探るべく、実習後の効力感と事前指導の修得度および実習についての自己評価、園評価について相関分析を行った。その結果として、事前指導の修得度と実習の自己評価との関連は見られたが、効力感についてはどの項目とも相関は見られず、先行研究で示される効力感の値よりも本学の学生が低い傾向を示すことがあきらかになった。本年度においては、実習後上がらなかった効力感の向上を目指し、実習後の指導の在り方を模索するため、実習後の効力感と事後指導後の効力感との関係について調査を行い、その結果について分析を行っている。

現在までの進展状況から、申請書に記した「計画」「点検・評価」「改善・期待される効果」に変更が生じる見込みであれば、その理由とどのような変更を見込まれるかについて簡潔に記述してください。

経費の執行状況

当初計画通りの見込み

減額補正を申請する見込み

事業の実務担当者
(教員)

伊藤 英之（人間開発学部健康体育学科／職位助教）

平成 28 年度「学部 FD 推進事業」報告書及び成果報告会資料一覧

文学部

法学部

経済学部

神道文化学部

人間開発学部

平成 28 年度「学部 FD 推進事業」成果報告会

日 時： 平成 29 年 3 月 10 日（金） 13:30～15:30

会 場： 若木タワー地下 1 階 02 会議室

○開会の辞

○文学部事業報告

「カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討のためのアンケート実施」

報告者：金杉 武司 教授

○法学部事業報告

「法学部 FD 推進事業 ——前提となる新カリキュラムの導入も含めて——」

報告者：高橋 信行 教授

○経済学部事業報告

「経済学部平成 28 年度学部 FD 推進事業の成果 ～外部評価からみた基礎演習の課題～」

報告者：細井 長 教授

○神道文化学部事業報告

「学生に対する効率的なアンケート・学力調査ならびに有識者の外部評価による授業運営・学部運営の改善化」

報告者：遠藤 潤 准教授

○人間開発学部事業報告

「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発」

報告者：伊藤 英之 助教

○全体コメント

教育開発推進機構長 柴崎和夫教授

○閉会の辞

※ 1 学部あたり 15～20 分の報告+質疑 5 分で進行となります。

平成 28 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	文学部
事 業 名	カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討
平成 28 年度実務担当者名	金杉 武司
事 業 の 概 要	
<p>以下、<u>本年度実施した推進事業の概要</u>について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>本事業は、文学部独自の授業評価アンケートを継続的に実施し、カリキュラムおよび授業の改善の指針を検討するための材料とすることを目的としている。事業の内容は、①文学部独自のアンケート（「FD アンケート」）の実施 ②アンケート結果の分析に基づく研修会の実施、である。</p> <p>アンケートをどのような方法（質問項目、回収方法等）で実施するかに関しては、過去 2 年間（申請書には「過去 3 年間」と表記してしまっていたが、正しくは「過去 2 年間」であった）のアンケート実施の結果、望ましいあり方が大体定まってきた。それゆえ、平成 28 年度も引き続き同様の方法でデータの蓄積を行うとともに、調査結果を学部内で共有し、カリキュラムおよび授業改善の具体的な検討作業に入ることを目標とした。</p> <p>これまでの経験に鑑み、アンケートの実施は昨年度と同様に早めに（可能であれば前期中に）行うことを計画した。具体的には以下の①～④を、実務担当者を中心として文学部教務委員会全体で実施することを計画した。①5-6 月にはアンケート項目や実施方法を文学部教務委員会で確定し（基本的にはデータの継続性のために平成 27 年度の質問項目を引き継ぐが、平成 27 年度の回答状況を見て、文言の修正など多少行う可能性がある）、前期末にアンケートを実施する。②その後、夏休み期間中に業者にデータの分析を行ってもらう。③業者によるアンケート結果の分析に基づいて後期中に研修会を実施する。④研修会の内容を受けて、アンケート結果を学部内で共有するとともに、文学部教務委員会において、カリキュラムおよび授業の改善の指針を検討する。</p> <p>なお、平成 27 年度は予算内で依頼できたデータは 1200 件であった。この数をもう少し増やし 1500 件程度とするために、アンケートの委託費として 800 千円（平成 27 年度は 648 千円）を申請した。しかし、業者選定の結果、アンケートの委託費を減額することが可能だと判明したため、550 千円に減額補正申請した。また、研修会はアンケートの集計及び分析を委託した業者による報告を中心とするものを計画し、アンケート委託費とは別の費用は申請しなかった。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、本年度実施した推進事業の結果について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

当初の予定では、可能であれば前期末にアンケートを実施するということがあったが、アンケートの質問項目の決定や委託業者の選定に若干の遅れが生じ、アンケートの実施は後期授業開始直後の9月21日（水）～10月14日（金）となった（文学部5学科で1500枚を配布・1077枚を回収）。しかし、この時期は授業評価アンケート実施との重なりがなく、結果的にはアンケートを実施しやすい時期であった。その後の業者によるアンケート結果の分析も順調に進み、研修会は予定通り後期中（12月7日（水）の文学部教務委員会前）に実施することができた。

今年度のアンケートでは、人文系の学士課程教育にどのような教育が求められているかを明らかにするという観点から、質問項目に以下の変更を加えた。①テーマ別講義の満足度およびその理由についての質問を追加。②全学オープン科目の満足度およびその理由についての質問を追加。③授業満足度を測定する際に重視する項目として「授業の履修者数（多人数か少人数かなど）」を追加。④事前登録が必要な科目の数についての質問を追加。

アンケートの結果の詳細は、別紙資料にある通りである。ここでは、研修会でも議論の対象となった特記すべき点のみを以下に記し、研修会を通して浮かび上がってきた、カリキュラムの見直しや授業改善の方向性を示す。

（1）学生の満足度が高い／低い授業の傾向

別紙資料「文学部 FD アンケート」スライド14にある通り、文学部全体では、学科専門科目の満足度が最も高く、回答者の61.7%が「満足度が高い」授業として選択した（なお外国語文化学科でのみ選択必修外国語の満足度が専門科目の満足度を上回った）。それに続いて満足度が高かったのはテーマ別講義だった（同40.3%）。テーマ別講義は共通教育改革により来年度カリキュラムから廃止となるが、昨年度の同26.0%から大きく上昇した（ちなみに学科専門科目は62.6%からほとんど変化していない）。

満足度を測定する際に重視する項目としては、別紙資料「文学部 FD アンケート」スライド16にある通り、「授業のテーマに興味をもてること」が最も多く選ばれ（「重視する」「やや重視する」をあわせて90.5%）、「驚きや発見があること」（同78.9%）、「担当教員の人柄や教え方」（同75.4%）がそれに続く。それに対して、「卒業後の進路に直結していること」（同43.8%）や「授業の履修者数」（同25.8%）は思いの外、多くなかった。以上から、文学部の学生は、学びたい内容を学ぶために入学する傾向が強く、専門志向が強いと推測される（もっとも、学科による差異はあり、「卒業後の進路に直結していること」は中国文学科（同51.6%）・外国語文化学科（同51.8%）・史学科（同55.1%）では相対的に高い割合が示された）。また、昨年度のアンケートでは授業形態に関して自由記述で回答を求めたところ、「少人数制」や「ディスカッション形式」「演習形式」を歓迎する内容が多く見られたのに対して、今年度は以上のような結果が得られたことから、学生は履修者数そのものではなく授業の形式や教員の教え方を重視していると推測される。

なお、以上の点は、別紙資料「追加資料」シート2-10に見られるように、学生が入学した入試制度により多少の違いが見られる（たとえば、推薦系入試で入学した学生では、満足度を測定する際に重視する項目として「授業内容が簡単で理解しやすいこと」や「単位が取得しやすいこと」などが比較的多く選ばれている）。

るなど、専門志向がやや低いと解釈できるような違いが見られる)が、全体的な傾向としては大きな違いはないことがわかる。

以上から、文学部の教育では今後も、学生の志向性に応えるべく「専門性」を維持発展させることが望ましいだろう。また、テーマ別講義の満足度の高さは、隣接領域への興味関心の高さ、多角的な学びを重視する姿勢を示すものでもあり、文学部内での学科横断的なカリキュラムの構築も模索するべきかもしれない。この点については、今後の文学部教務委員会で検討していきたい。なお、卒業後の進路や授業形態に関する学生の意識も軽視できない。社会人にとって基礎的で汎用的な能力の向上も念頭において、カリキュラムの見直し、授業改善を進めていくべきだろう。

他方、学部全体として満足度が最も低かったのは、英語(教養総合)科目であり、回答者の32.3%が「満足度が低い」授業として選択した。来年度から開講される学科独自の英語科目は、学生の専門志向とも一致する内容の授業となるため、満足度の上昇が期待される。また、今回から全学オープン科目を項目として加えたが、満足度は高くも低くもないという予想外の結果だった。

(2) カリキュラム満足度

本事業では、カリキュラムや授業の改善の程度は、過去に実施されたアンケートのデータに基づいて学生のカリキュラム満足度等の経年比較を行うことによって測定され、本事業の点検・評価はまさにこの点において行われると考えている。本格的な経年比較は、4年分のデータが蓄積される次年度以降に行うとして、ここでは簡単な経年比較を行うと(別紙資料「文学部FDアンケート」スライド74参照)、中国文学科のカリキュラム満足度(「満足」と「おおむね満足」をあわせた割合)は昨年度の31.0%から今年度の40.3%へ、同じく外国語文化学科の満足度は20.3%から28.0%へ、史学科の満足度は50.7%から57.7%へ、哲学科の満足度は38.2%から42.1%へと上昇した(学部全体としては、42.0%から45.1%へ上昇/日本文学科は51.0%から48.9%へとわずかに下降したが他学科に比べて高い満足度を維持)。特に、中国文学科の学科専門科目が「満足度が高い」に選ばれた割合が55.2%から66.1%に上昇(学部全体としては62.6%から61.7%へとわずかに下降)し、「満足度が低い」に選ばれた割合が18.4%から9.7%に下降(学部全体としては9.3%から8.1%へとわずかに下降)したこと、同じく外国語文化学科の学科専門科目が「満足度が高い」に選ばれた割合が26.0%から33.0%に上昇し、「満足度が低い」に選ばれた割合が17.3%から11.9%に下降したことにも、この変化が顕著に表れている(別紙資料「文学部FDアンケート」スライド26・32参照。この変化の要因には、2年間継続して実施してきたアンケートの結果を、文学部教務委員を通して各学科で共有してきたことも含まれると思われる。また、外国語文化学科では、少人数のディスカッション形式の授業を重視する形での大幅なカリキュラム改定を次年度に実施する。その成果もまた、経年比較を通して確認していきたい。

(3) 課題

今年度のアンケートでは、別紙資料「文学部FDアンケート」スライド8にあるように、回答者の学年比率が不均等になってしまった。これはアンケートを実施する際に注意をすれば防げた問題であった。また、アンケート結果の分析を業者に依頼する際に、クロス分析の対象となる属性に、学生が入学した入試制度を加えていなかったため、そのクロス分析を追加で依頼することになってしまった。今後は、どのようなクロス分析が必要であるかを事前に文学部教務委員会として検討した上で、業者に分析を依頼する必要がある。

なお、質問項目はこれまで全学年に共通のものを設定してきたが、今後もこの形を踏襲する必要はないと思われる。学年別に質問項目を変えた方が有益なデータが得られないかどうか次年度以降の検討材料としたい。

今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

申請書に記した通り、本事業によって期待される効果の一つは、各教員が実感として持っているカリキュラムや授業の質（長所と問題点）を、授業を受ける側の学生の視点および数量的データと比較できるという点である。多くの点で教員の実感とアンケート結果との一致が見られたと思われるが、その一方で、教員の実感とは一致しない点（たとえば、学生は授業満足度を測る際に授業の履修者数をそれほど重視しないことなど）も発見された。まず、これらの一致点・不一致点が客観的に確認できることそれ自体が、本事業で得た知見が効果的であると判断した理由の一つである。なお、これらの点は、アンケートを継続的に実施し、一貫してみられる傾向や学生の側の変化を確認することで、客観性を増すと考えられる。それゆえ、次年度以降もアンケートを継続して実施するとともに、より厳密な経年比較を行う予定である。

また、以上の一致点・不一致点を含め、アンケートの結果を学部全体で共有することにより、授業改善につなげることができる。「事業の結果」に記した通り、中国文学科と外国語文化学科では学科専門科目の満足度が昨年度に比べて上昇し、それらを含む 4 学科でカリキュラム満足度が昨年度に比べて上昇したが、この変化の要因の一つは、アンケート結果の共有にあると考えられる。この点も、本事業で得た知見が効果的であると判断した理由の一つである。これまでは、実際に授業を運営する個々の教員レベルでの授業改善によるところが大きかったかもしれないが、今後はカリキュラムの見直しを通して本事業の効果が現れることを期待したい（上記の通り、外国語文化学科が次年度に大幅なカリキュラム改定を実施する）。また、文学部としても上記の通り、文学部教務委員会を中心として、学科横断的なカリキュラムの構築を検討していく予定である。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

申請書にも記載した通り、カリキュラムや授業の改善のための材料を、アンケートを通じて獲得するという本事業の形態や成果は、全学で共有できると考えられる。特に学生の意見を踏まえながら授業改善等を行っていくこと、あるいは学部のポリシーを教員と学生との間で共有することなどの点は、全学的に共有性が高い事柄であると思われる。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

【中間報告前】「事業の結果」に記した通り、アンケートを、予定していた前期末には実施できなかった。

【中間報告後】アンケートを予定よりも遅れて後期に実施したが、全事業を執行計画通りに終えた。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

①本報告書に基づき、本事業の概要を説明し、事業の結果を報告する。

②アンケート用紙やアンケート結果報告書を補助資料とし、本事業の成果を全学的に共有する。

文学部FDアンケート

2016年11月30日(水)

目次

- 調査概要・・・P4～P6
 - 回答者属性・・・P8～P12
 - 調査結果・・・P14～P48
 - ・全体・・・P14～P18
 - ・日本文学科・・・P20～P24
 - ・中国文学科・・・P26～P30
 - ・外国語文化学科・・・P32～P36
 - ・史学科・・・P38～P42
 - ・哲学科・・・P44～P48
 - 調査詳細・・・P50～P78
-
-

調査概要

調査概要

●【目的】

國學院大學文学部の在校生を対象としたアンケートを実施し、学科毎のカリキュラム満足度や、理想とする授業・満足度の低い授業の傾向等を明らかにする。
そして、その結果を今後の学習環境整備の為の検討材料とする。

※今回の調査では“「満足度が高い授業」は「学生が重視しているもの」が満たされている為「理想とする授業」である”と定義づけを行い集計調査した。
また、“「満足度が低い授業」を明らかにし、「その授業では何が重視されているか」”を集計調査した。

【理想とする授業】を明らかにするために・・・

・「特定の満足度の高い授業」×「学生の重視するもの」をクロス集計する。
⇒理想とする授業の傾向が明らかになる

【満足度が低い授業】を明らかにするために・・・

・「特定の満足度の低い授業」×「学生の重視するもの」をクロス集計する。
⇒「学生の重視している項目が満たされていない」という事が明らかになる。

調査概要

- 【対象者】
2016年度國學院大學文学部の学生(1年～4年)
- 【調査期間】
2016年9月21日(水)～10月14日(金)
- 【調査方法】
調査票(紙) 配布・回収
- 【調査ボリューム】
A4 1ページ(裏表)
- 【回収数】
1077枚
- 【設定方法】
各設問の全体(TOTAL行)に対して各セルのポイント差を比較した。
数表において以下の色づけされているセルにポイント差がみられる。
+10ポイント差以上 | -10ポイント差以上
+5ポイント差以上 | -5ポイント差以上
- 【調査実施機関】 株式会社インテージテクノスフィア

調査概要

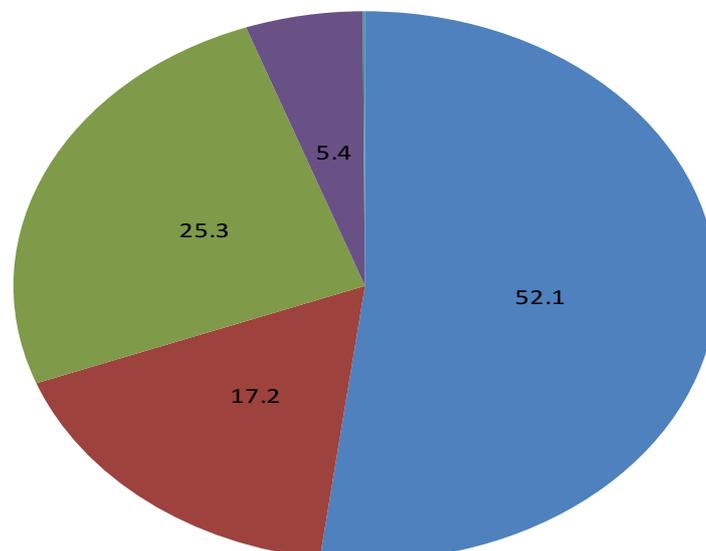
- 集計方法
 - ・回答が記入された調査票について確認の上、回答内容の入力を行った。
 - ✓SA(シングルアンサー＝回答は一つ)設問に複数回答されている場合やマークが判断できない場合、「不明」として集計する。
 - ✓SA設問・MA(マルチアンサー＝複数回答)設問ともに回答記入がない場合、「不明」として集計する。
 - ✓「満足度が高い」「満足度が低い」のそれぞれの中で、「特になし」の選択肢と、それ以外の選択肢が同時に回答されている場合、特になしの回答を無効とする。
 - ✓関連する設問(Q5-1、Q5-2・Q12、Q13-1)で、整合性が取れない回答が選択されていた場合、その回答は消込処理を行った。
 - ✓選択肢の排他項目(例:「特に無い」など)がある、複数回答の設問は、排他項目とそれ以外の選択肢が同時に選択されていた場合、排他項目の選択は消込処理を行った。
 - ✓集計は、単一回答、複数回答共に、回答者をベースとして集計した。
(複数回答の設問については、選択肢の割合を足しあげても100%にならない)

回答者属性

あなたの学年を教えてください。

TOTALでは、1年生が「52.1%」と最も多く、次いで3年生が「25.3%」となっている。

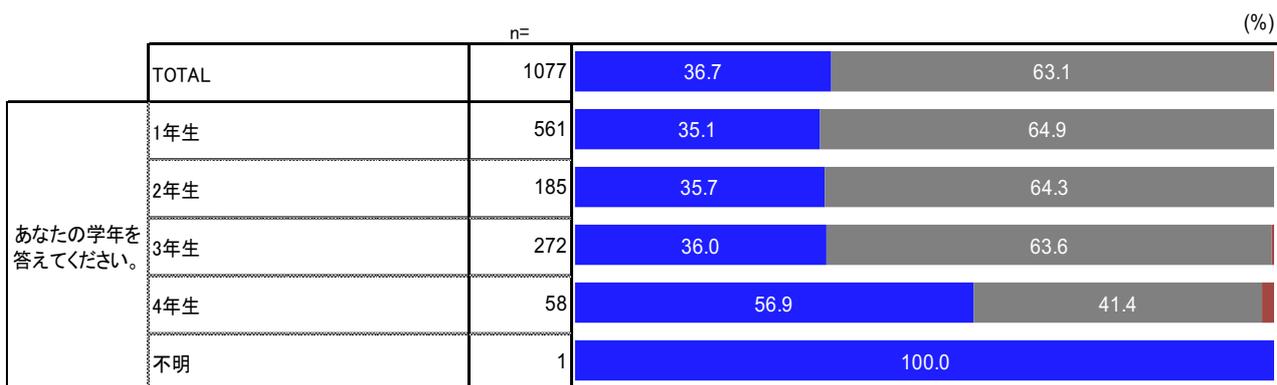
■ 1年生 ■ 2年生 ■ 3年生 ■ 4年生 ■ 不明



あなたの性別を教えてください。

- 表側：あなたの学年を教えてください。
- TOTALでは、「女性」が63.1%と最も高く、次いで「男性」が36.7%となっている。

■ 男性 ■ 女性 ■ 不明

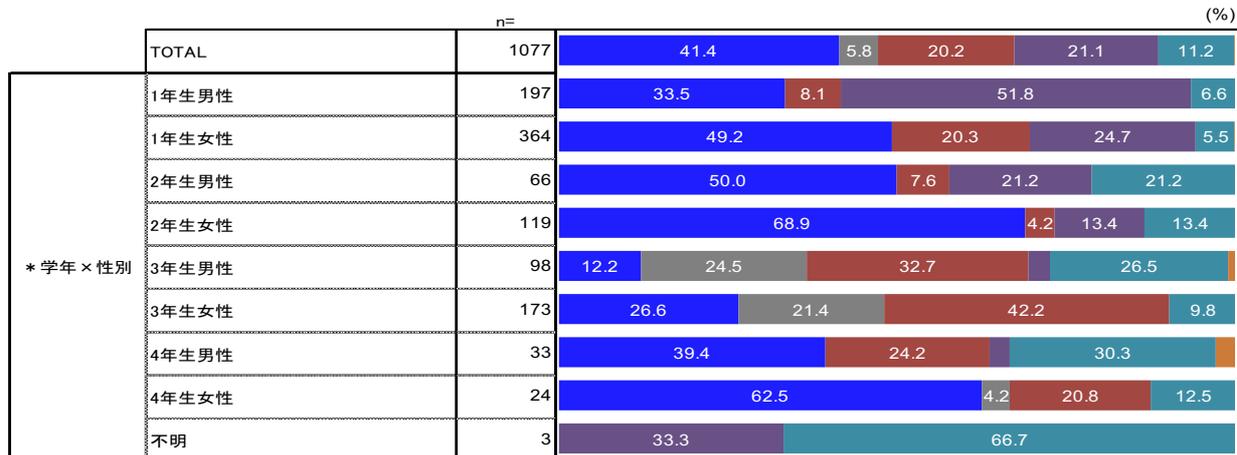


※4%未満は表示していません

* 学科別

- 表側：* 学年 × 性別
- TOTALでは、「日本文学科」が41.4%と最も高く、次いで「史学科」が21.1%、「外国語文化学科」が20.2%となっている。

■ 日本文学科 ■ 中国文学科 ■ 外国語文化学科 ■ 史学科 ■ 哲学科 ■ 不明

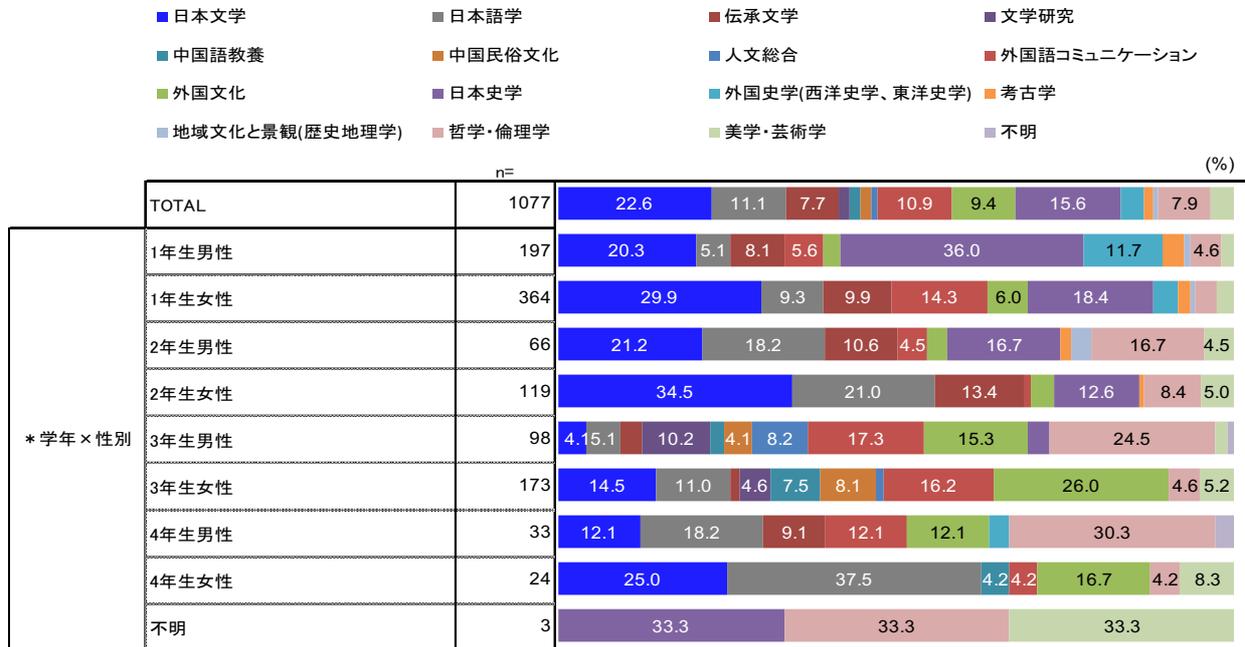


※4%未満は表示していません

あなたの所属する専攻・コース・プログラムを教えてください。

●表側：* 学年 × 性別

●TOTALでは、「日本文学」が22.6%と最も高く、次いで「日本史学」が15.6%、「日本語学」が11.1%となっている。

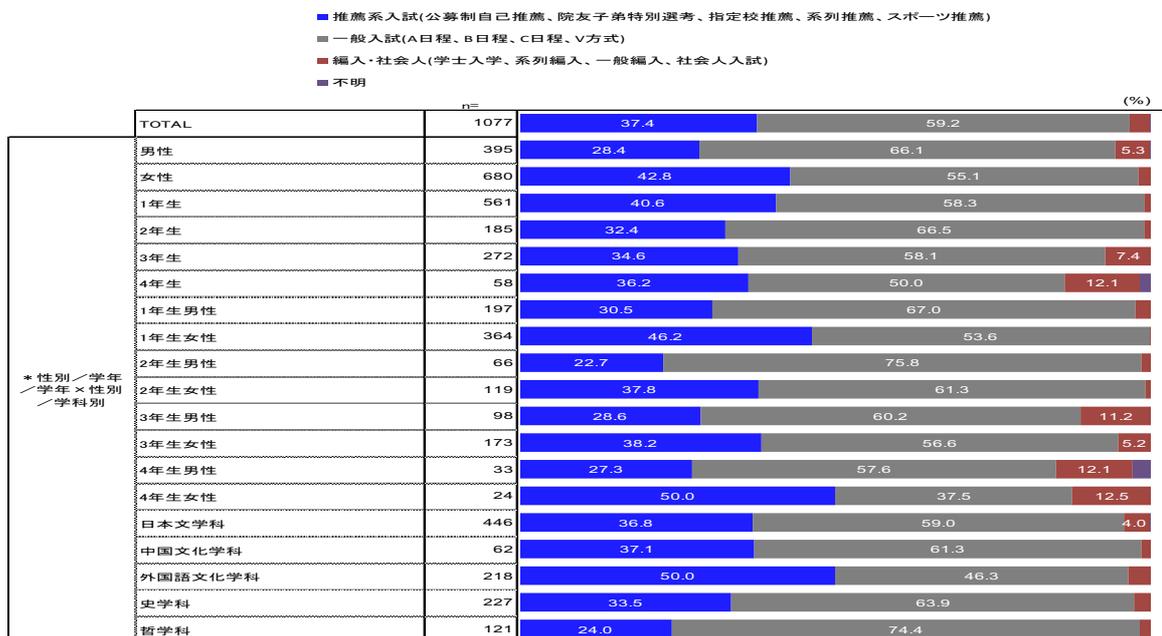


※4%未満は表示していません

あなたが入学した入試制度を教えてください。

●表側：* 性別 / 学年 / 学年 × 性別 / 学科別

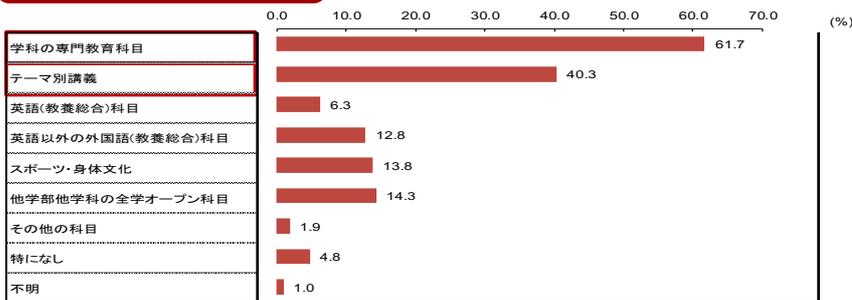
●TOTALでは、「一般入試(A日程、B日程、C日程、V方式)」が59.2%と最も高く、次いで「推薦系入試(公募制自己推薦、院友子弟特別選考、指定校推薦、系列推薦、スポーツ推薦)」が37.4%、「編入・社会人(学士入学、系列編入、一般編入、社会人入試)」が3.2%となっている。



全体・調査結果

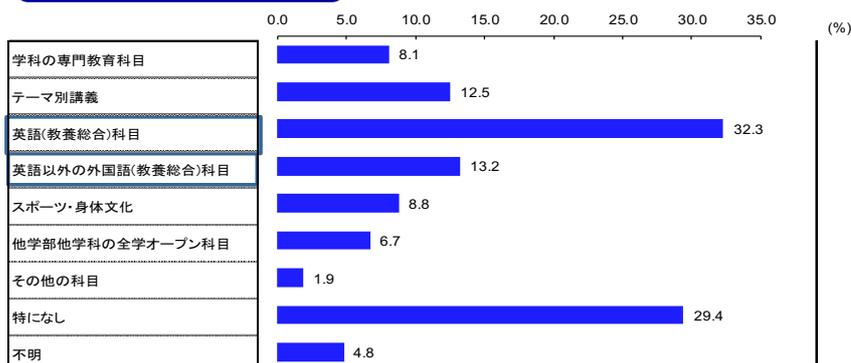
本学の授業の中で、満足度の高いもの・低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



	TOTAL
n=	1077
学科の専門教育科目	61.7
テーマ別講義	40.3
英語(教養総合)科目	6.3
英語以外の外国語(教養総合)科目	12.8
スポーツ・身体文化	13.8
他学部他学科の全学オープン科目	14.3
その他の科目	1.9
特になし	4.8
不明	1.0

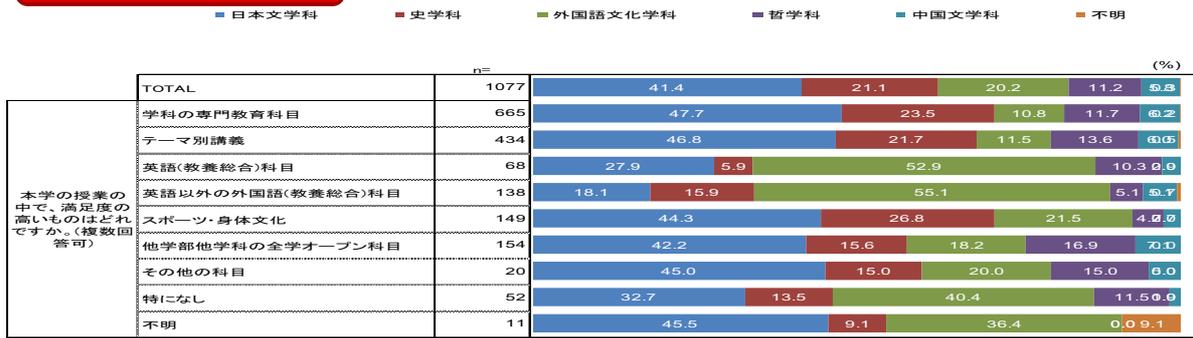
満足度低い



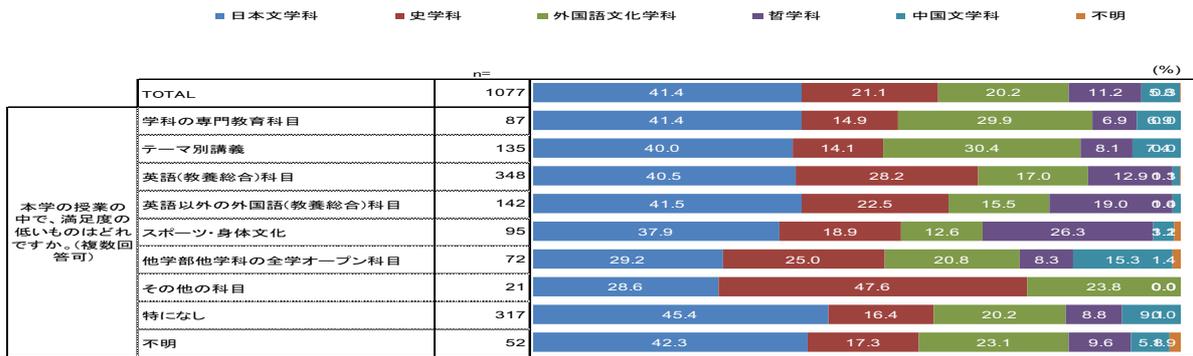
	TOTAL
n=	1077
学科の専門教育科目	8.1
テーマ別講義	12.5
英語(教養総合)科目	32.3
英語以外の外国語(教養総合)科目	13.2
スポーツ・身体文化	8.8
他学部他学科の全学オープン科目	6.7
その他の科目	1.9
特になし	29.4
不明	4.8

学科別の満足度の高いもの・低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



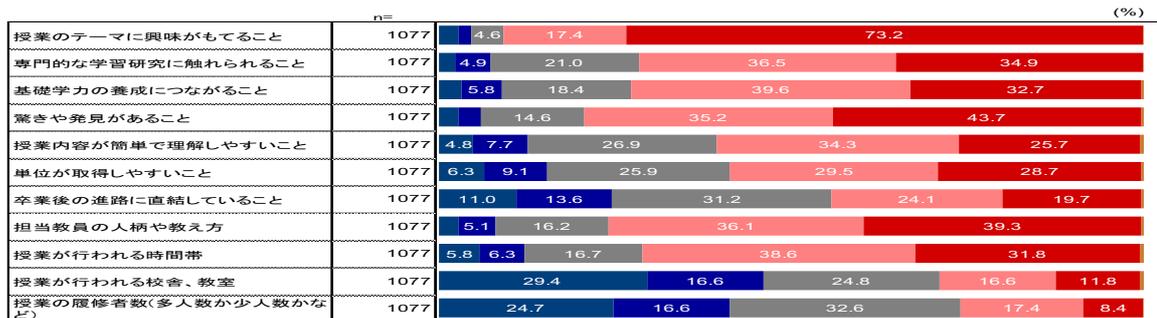
満足度低い



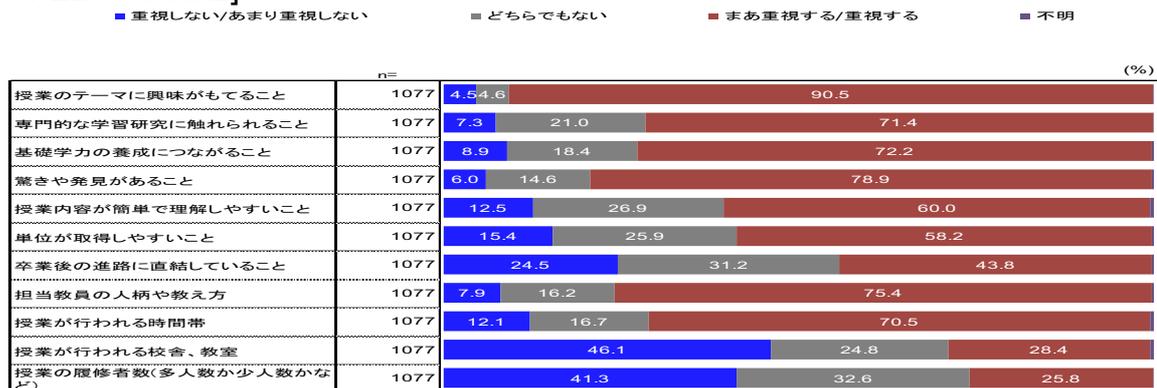
※4%未満は表示していません

授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。

■ 重視しない ■ あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する ■ 重視する ■ 不明



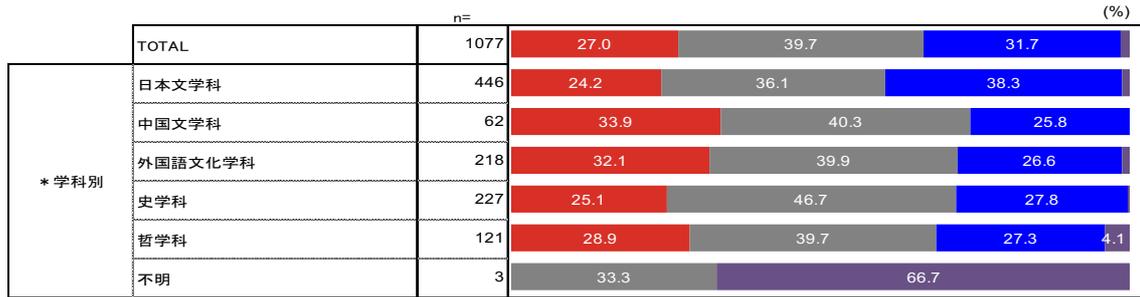
[TOP2BOTTOM2]



※4%未満は表示していません

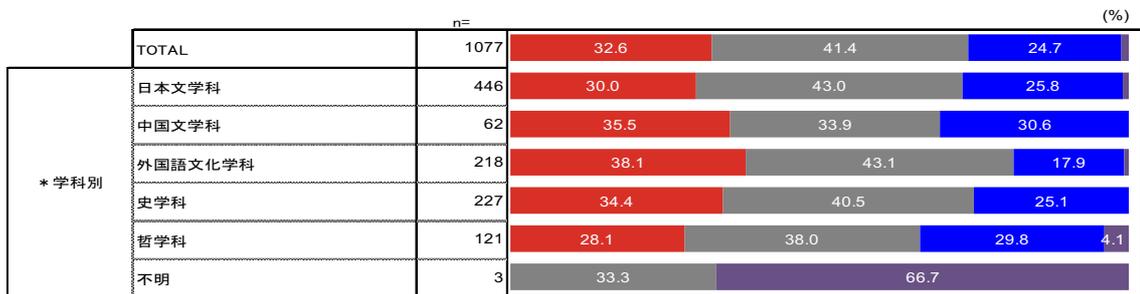
履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な教養総合科目(外国語科目を除く)や専門教育科目の数について、どのように感じますか。

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる ■ 不明



CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。

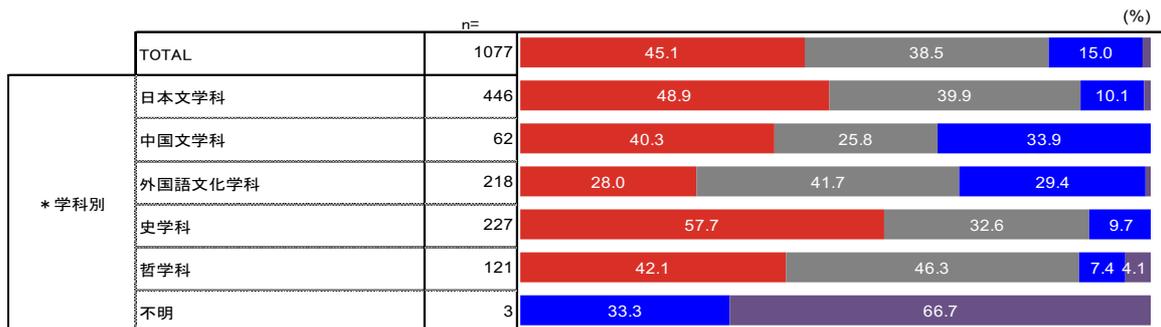
■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる ■ 不明



※4%未満は表示していません

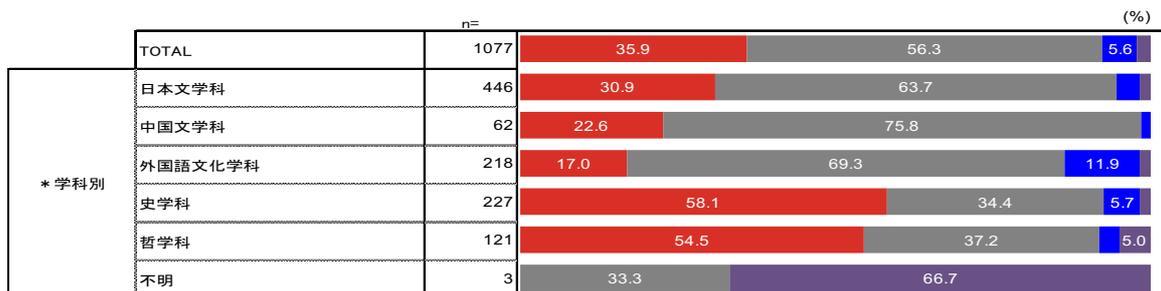
あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



卒業論文について、どのように感じますか。

■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明

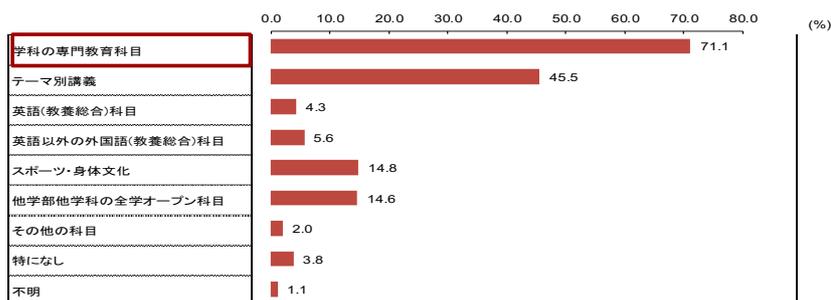


※4%未満は表示していません

日本文学科・調査結果

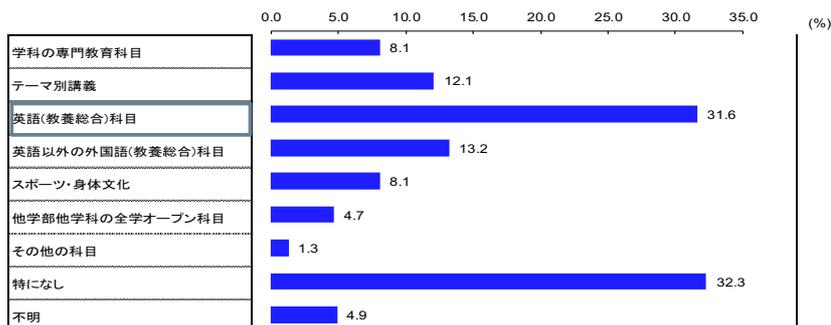
本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



授業の種類	* 学科別	
	TOTAL	日本文学科
TOTAL	446	446
学科の専門教育科目	71.1	71.1
テーマ別講義	45.5	45.5
英語(教養総合)科目	4.3	4.3
英語以外の外国語(教養総合)科目	5.6	5.6
スポーツ・身体文化	14.8	14.8
他学部他学科の全学オープン科目	14.6	14.6
その他の科目	2.0	2.0
特になし	3.8	3.8
不明	1.1	1.1

満足度低い



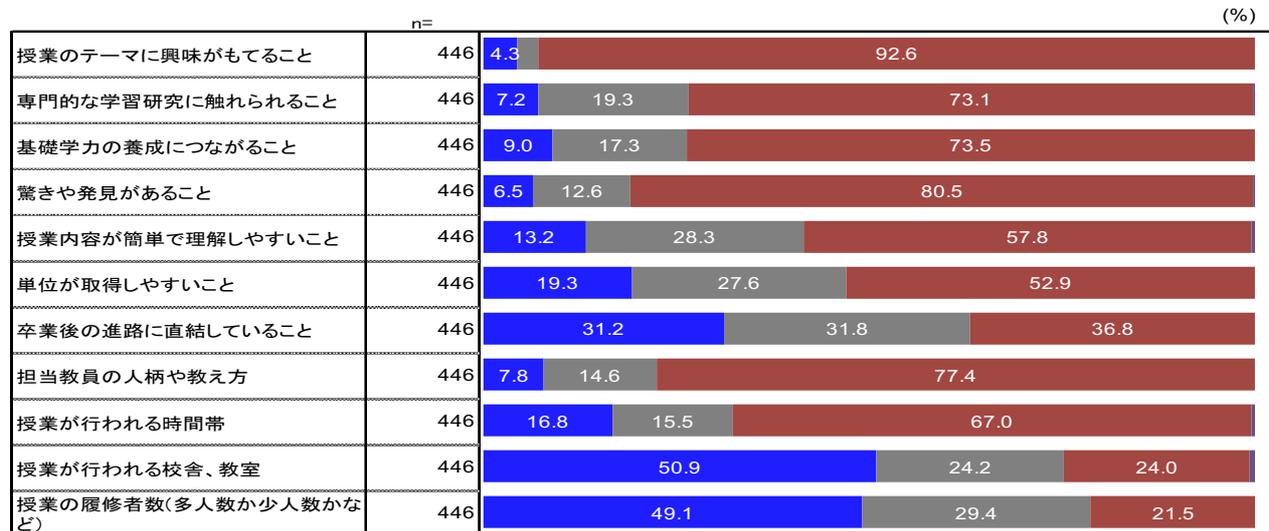
授業の種類	* 学科別	
	TOTAL	日本文学科
TOTAL	446	446
学科の専門教育科目	8.1	8.1
テーマ別講義	12.1	12.1
英語(教養総合)科目	31.6	31.6
英語以外の外国語(教養総合)科目	13.2	13.2
スポーツ・身体文化	8.1	8.1
他学部他学科の全学オープン科目	4.7	4.7
その他の科目	1.3	1.3
特になし	32.3	32.3
不明	4.9	4.9

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1: *学科別:日本文学科

●「まあ重視する/重視する」の割合に関して、「授業のテーマに興味を持てること」が最も高く、次いで「驚きや発見があること」となっている。

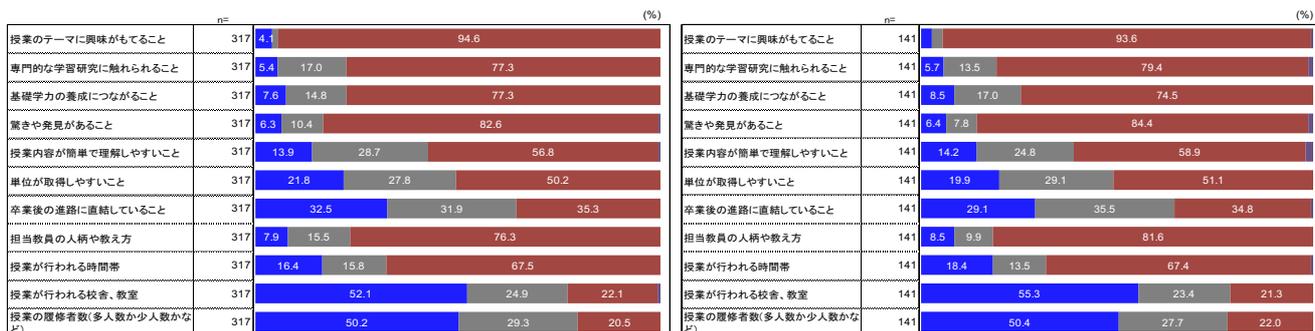
■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明 ■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



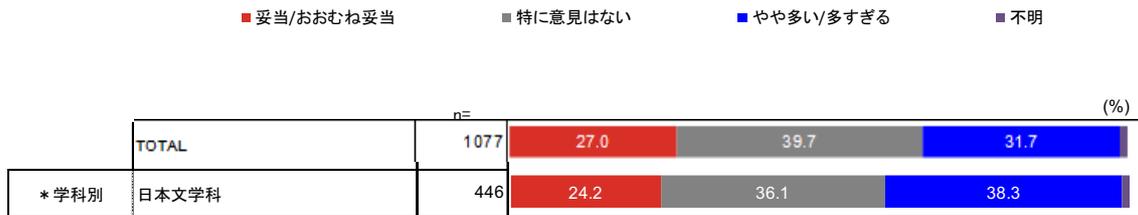
日本文学科の「**学科の専門科目**」に満足していると答えた人×重視していること

- 1位 授業のテーマに興味を持てること
- 2位 驚きや発見があること
- 3位 専門的な学術研究に触れられること
- 3位 基礎学力の養成につながる

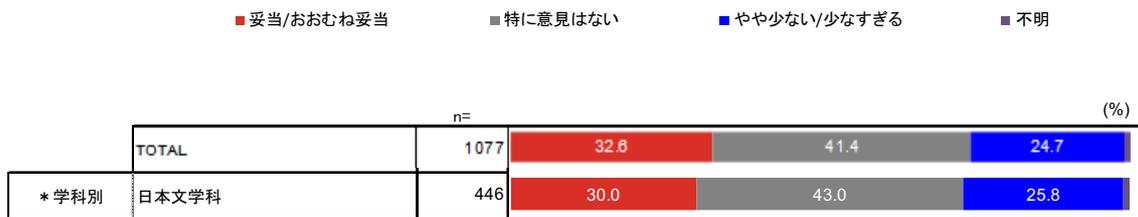
日本文学科の**英語(教養総合)科目**の満足度が低いと答えた人×重視していること

- 1位 授業のテーマに興味を持てること
- 2位 驚きや発見があること
- 3位 担当教員の人が柄や教え方

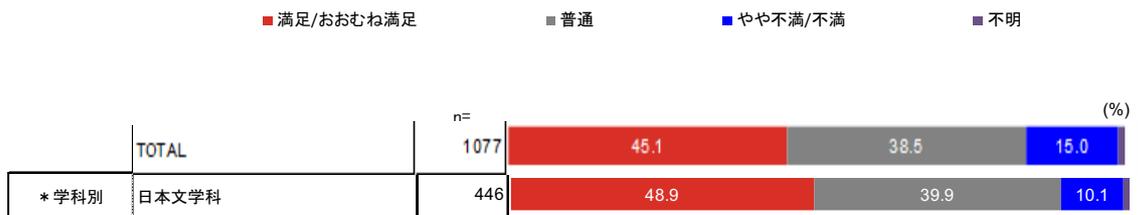
*履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な教養総合科目(外国語科目を除く)や専門教育科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]



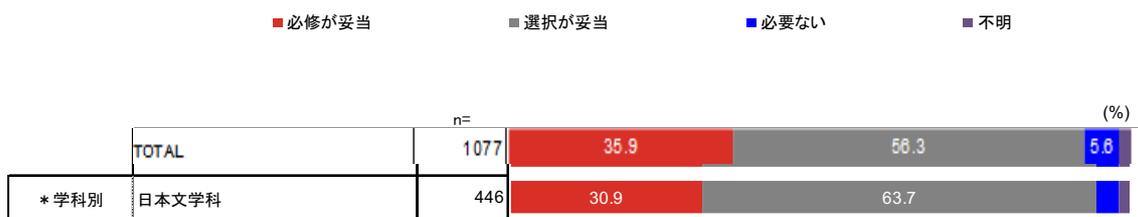
*CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]



*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]



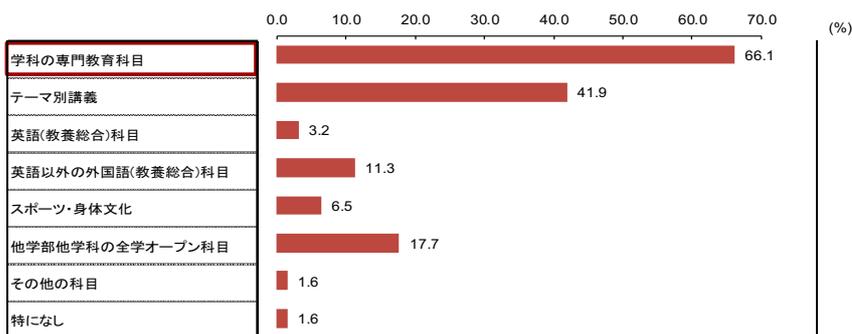
卒業論文について、どのように感じますか。



中国文学科・調査結果

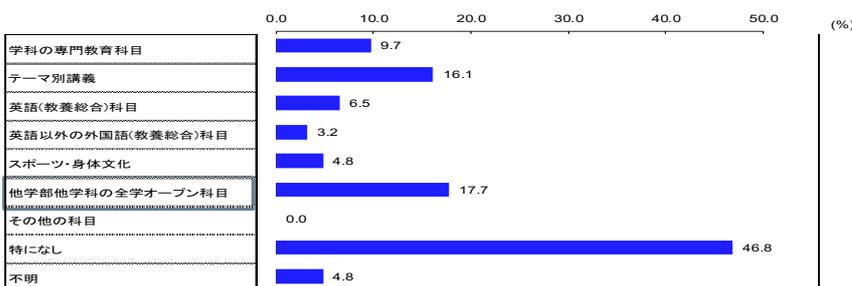
本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



* 学科別	n=62	
	TOTAL	中国文学科
学科の専門教育科目	66.1	66.1
テーマ別講義	41.9	41.9
英語(教養総合)科目	3.2	3.2
英語以外の外国語(教養総合)科目	11.3	11.3
スポーツ・身体文化	6.5	6.5
他学部他学科の全学オープン科目	17.7	17.7
その他の科目	1.6	1.6
特になし	1.6	1.6

満足度低い



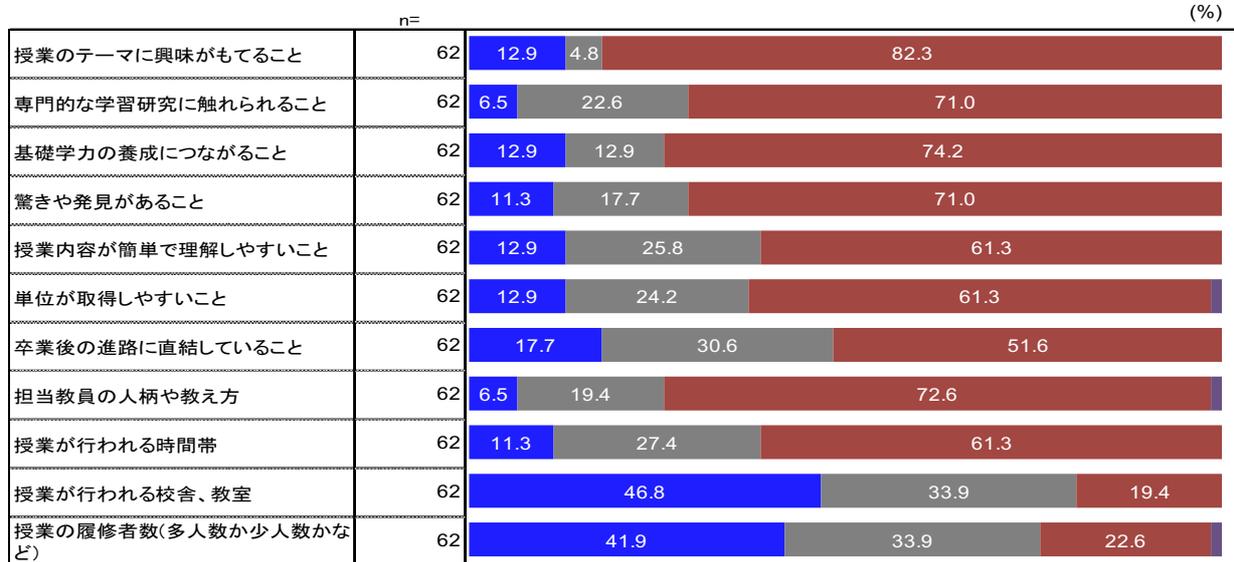
* 学科別	n=62	
	TOTAL	中国文学科
学科の専門教育科目	9.7	9.7
テーマ別講義	16.1	16.1
英語(教養総合)科目	6.5	6.5
英語以外の外国語(教養総合)科目	3.2	3.2
スポーツ・身体文化	4.8	4.8
他学部他学科の全学オープン科目	17.7	17.7
その他の科目	0.0	0.0
特になし	46.8	46.8
不明	4.8	4.8

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1: *学科別:中国語文学科

●「まあ重視する/重視する」の割合に関して、「授業のテーマに興味を持てること」が最も高く、次いで「基礎学力の養成につながる事」となっている。

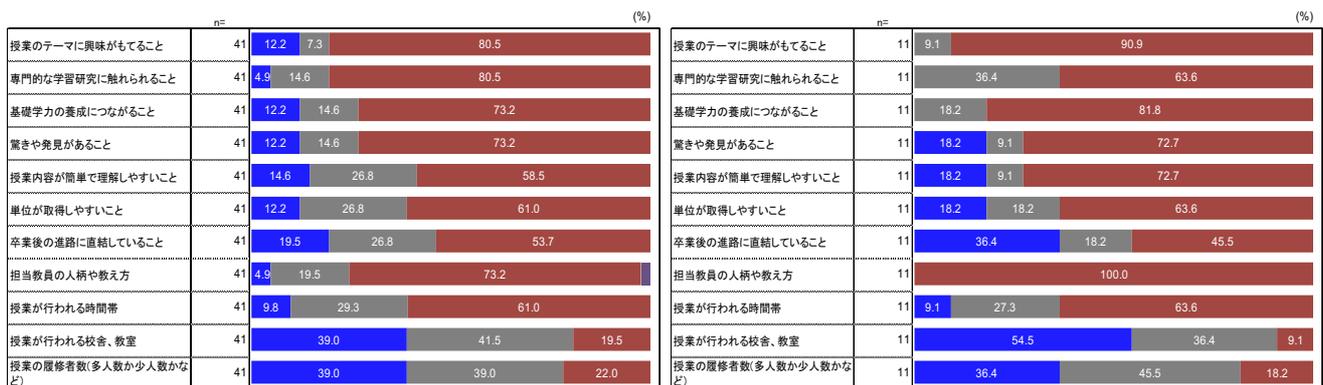
■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明 ■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する



中国文学科の「**学科の専門科目**」に満足していると答えた人×重視していること

- 1位 授業のテーマに興味もてること
- 1位 専門的な学術研究に触れられること
- 3位 基礎学力の養成につながる事
- 3位 驚きや発見があること
- 3位 担当教員の人柄や教え方

中国文学科の「**他学部他学科の全学オープン科目**」の満足度が低いと答えた人×重視していること

- 1位 担当教員の人柄や教え方
- 2位 授業のテーマに興味もてること
- 3位 基礎学力の養成につながる事

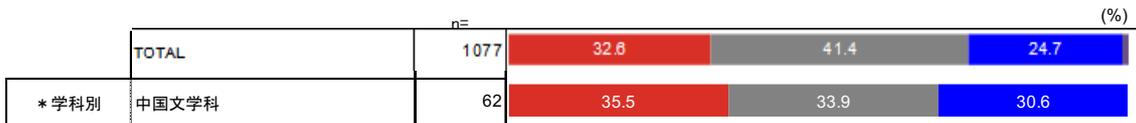
***履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な教養総合科目(外国語科目を除く)や専門教育科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]**

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる



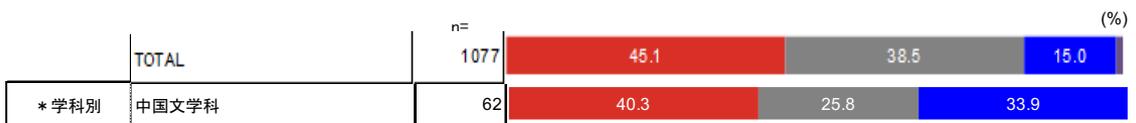
***CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]**

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる



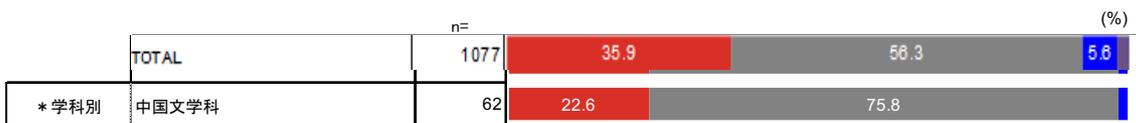
***あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]**

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満



卒業論文について、どのように感じますか。

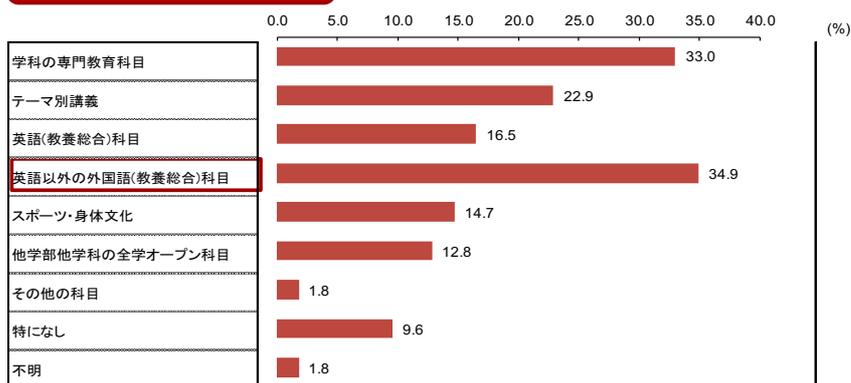
■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない



外国語文化学科・調査結果

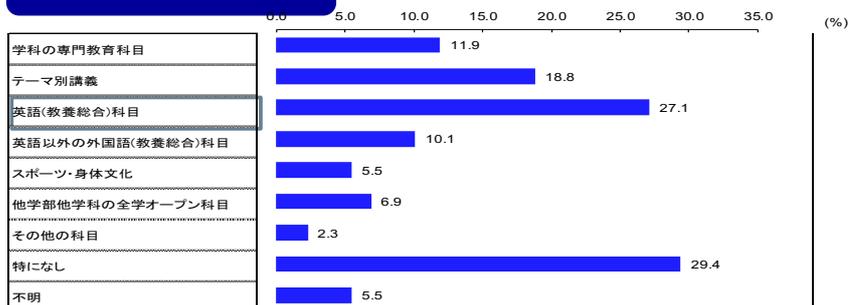
本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



n=	* 学科別	
	TOTAL	外国語文化学科
学科の専門教育科目	33.0	33.0
テーマ別講義	22.9	22.9
英語(教養総合)科目	16.5	16.5
英語以外の外国語(教養総合)科目	34.9	34.9
スポーツ・身体文化	14.7	14.7
他学部他学科の全学オープン科目	12.8	12.8
その他の科目	1.8	1.8
特になし	9.6	9.6
不明	1.8	1.8

満足度低い



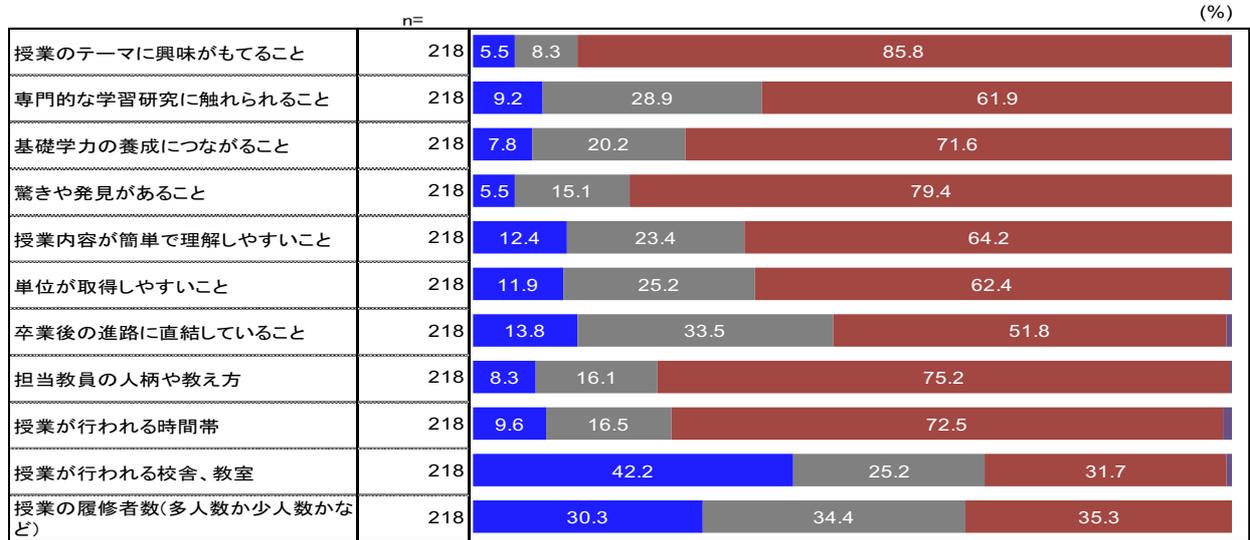
n=	* 学科別	
	TOTAL	外国語文化学科
学科の専門教育科目	11.9	11.9
テーマ別講義	18.8	18.8
英語(教養総合)科目	27.1	27.1
英語以外の外国語(教養総合)科目	10.1	10.1
スポーツ・身体文化	5.5	5.5
他学部他学科の全学オープン科目	6.9	6.9
その他の科目	2.3	2.3
特になし	29.4	29.4
不明	5.5	5.5

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1：*学科別:外国語文化学科

●「まあ重視する/重視する」の割合に関して、「授業のテーマに興味がもてること」が最も高く、次いで「驚きや発見があること」となっている。

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明 ■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



外国語文化学科の「英語以外の外国語(教養総合)科目」に満足していると答えた人×重視していること

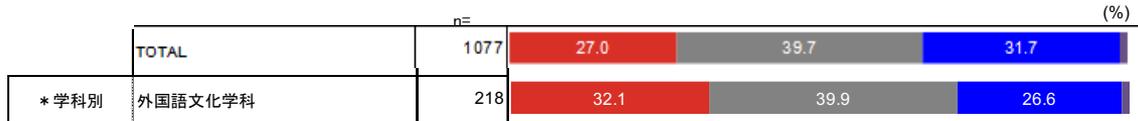
- 1位 授業テーマに興味を持てること
- 2位 驚きや発見があること
- 3位 担当教員の人柄や教え方
- 3位 授業が行われる時間帯

外国語文化学科の「英語(教養総合)科目」の満足度が低いと答えた人×重視していること

- 1位 授業のテーマに興味もてること
- 2位 驚きや発見があること
- 3位 基礎学力の養成につながる

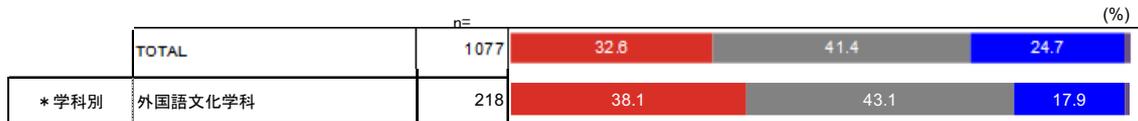
*履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な教養総合科目(外国語科目を除く)や専門教育科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる ■ 不明



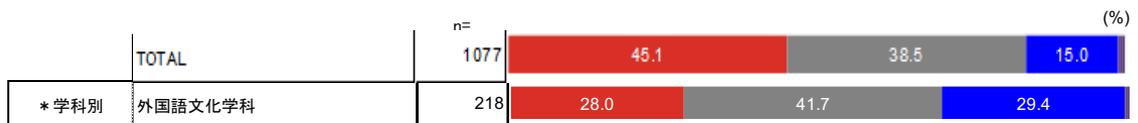
*CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる ■ 不明



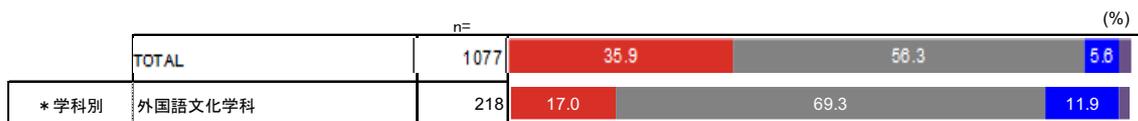
*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



卒業論文について、どのように感じますか。

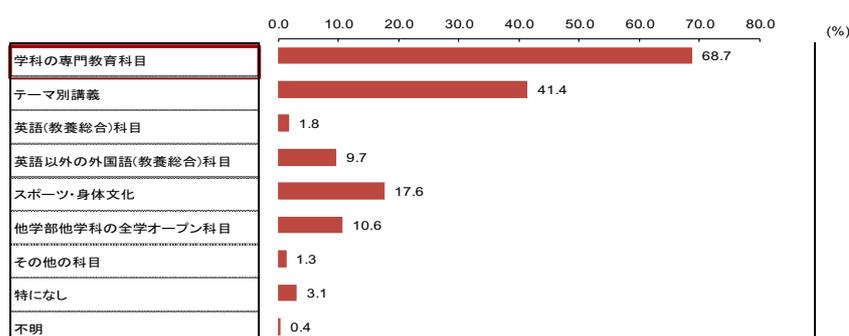
■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明



史学科・調査結果

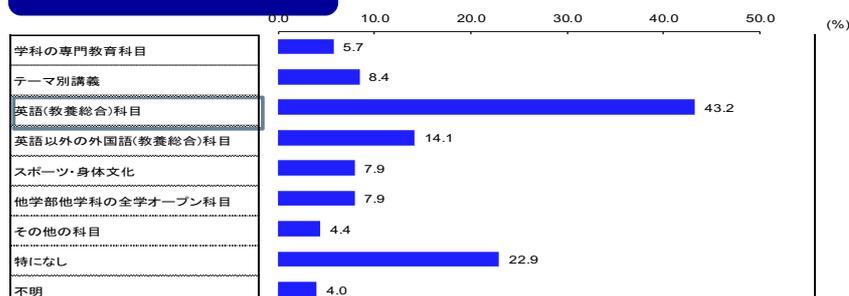
本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



	* 学科別	
	TOTAL	史学科
学科の専門教育科目	227	227
テーマ別講義	68.7	68.7
英語(教養総合)科目	41.4	41.4
英語以外の外国語(教養総合)科目	1.8	1.8
スポーツ・身体文化	9.7	9.7
他学部他学科の全学オープン科目	17.6	17.6
その他の科目	10.6	10.6
特になし	1.3	1.3
不明	3.1	3.1
	0.4	0.4

満足度低い



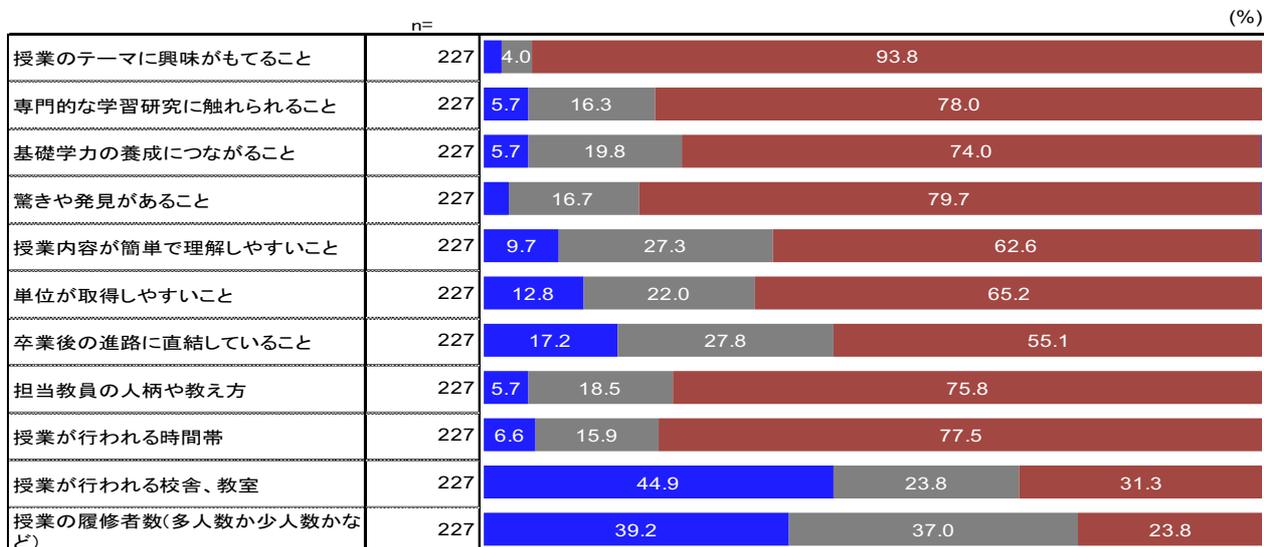
	* 学科別	
	TOTAL	史学科
学科の専門教育科目	227	227
テーマ別講義	5.7	5.7
英語(教養総合)科目	8.4	8.4
英語以外の外国語(教養総合)科目	43.2	43.2
スポーツ・身体文化	14.1	14.1
他学部他学科の全学オープン科目	7.9	7.9
その他の科目	7.9	7.9
特になし	4.4	4.4
不明	22.9	22.9
	4.0	4.0

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1: * 学科別:史学科

●「まあ重視する/重視する」の割合に関して、「授業のテーマに興味を持てること」が最も高く、次いで「驚きや発見があること」となっている。

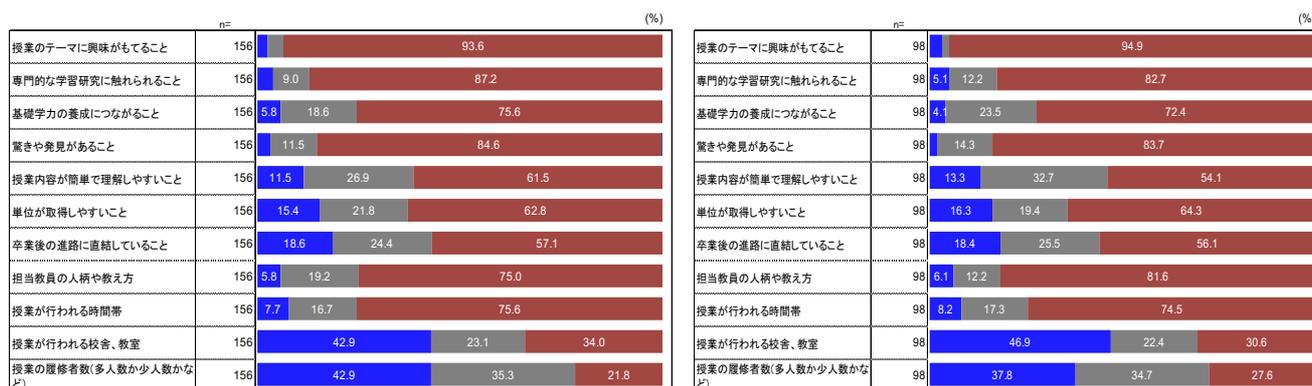
■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明 ■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する



史学科の「**学科の専門科目**」に満足していると答えた人
× 重視していること

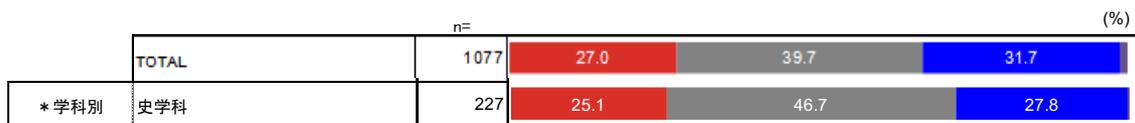
- 1位 授業テーマに興味を持てること
- 2位 専門的な学術研究に触れられること
- 3位 驚きや発見があること

史学科の「**英語(教養総合)科目**」の満足度が低いと答えた人
× 重視していること

- 1位 授業のテーマに興味を持てること
- 2位 驚きや発見があること
- 3位 専門的な学術研究に触れられること

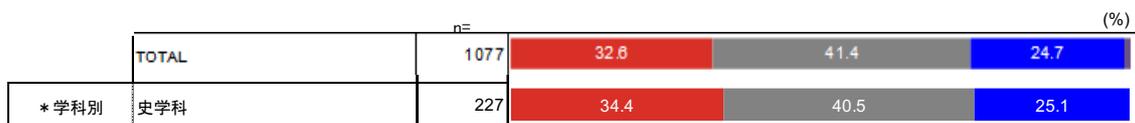
*履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な教養総合科目(外国語科目を除く)や専門教育科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる ■ 不明



*CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる



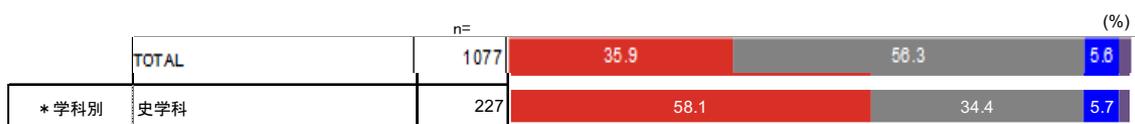
*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満



卒業論文について、どのように感じますか。

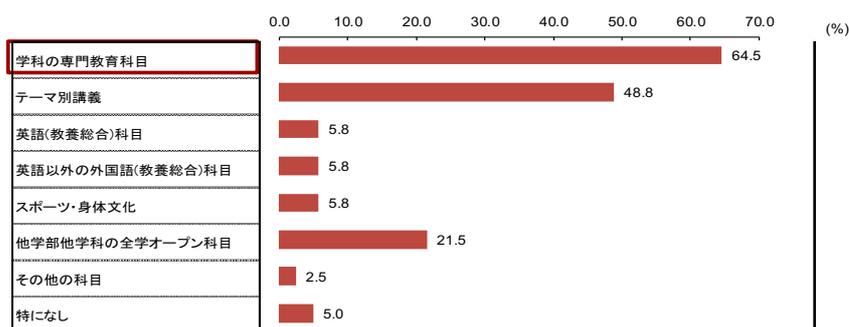
■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明



哲学科・調査結果

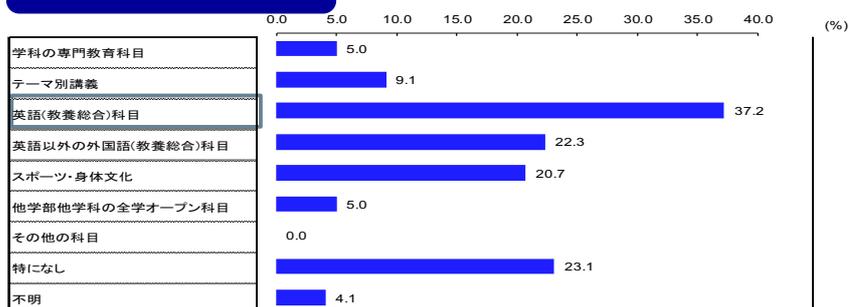
本学の授業の中で、満足度の高いもの低いものはどれですか。(複数回答可)

満足度高い



	* 学科別	
	TOTAL	哲学科
n=	121	121
学科の専門教育科目	64.5	64.5
テーマ別講義	48.8	48.8
英語(教養総合)科目	5.8	5.8
英語以外の外国語(教養総合)科目	5.8	5.8
スポーツ・身体文化	5.8	5.8
他学部他学科の全学オープン科目	21.5	21.5
その他の科目	2.5	2.5
特になし	5.0	5.0

満足度低い



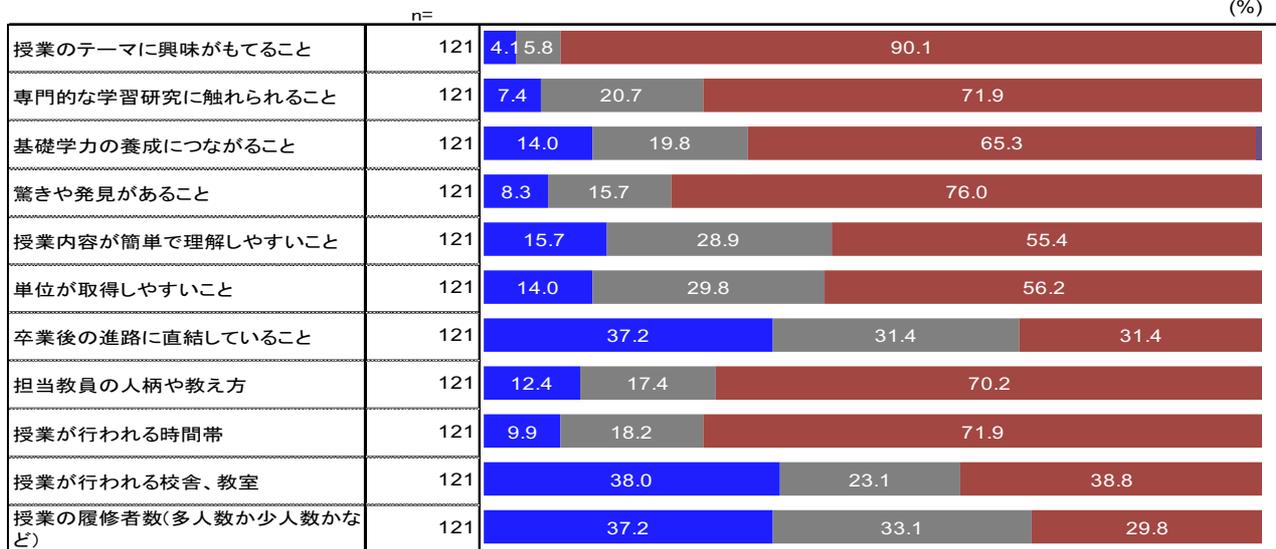
	* 学科別	
	TOTAL	哲学科
n=	121	121
学科の専門教育科目	5.0	5.0
テーマ別講義	9.1	9.1
英語(教養総合)科目	37.2	37.2
英語以外の外国語(教養総合)科目	22.3	22.3
スポーツ・身体文化	20.7	20.7
他学部他学科の全学オープン科目	5.0	5.0
その他の科目	0.0	0.0
特になし	23.1	23.1
不明	4.1	4.1

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

●多重1: *学科別:哲学科

●「まあ重視する/重視する」の割合に関して、「授業のテーマに興味がもてること」が最も高く、次いで「驚きや発見があること」となっている。

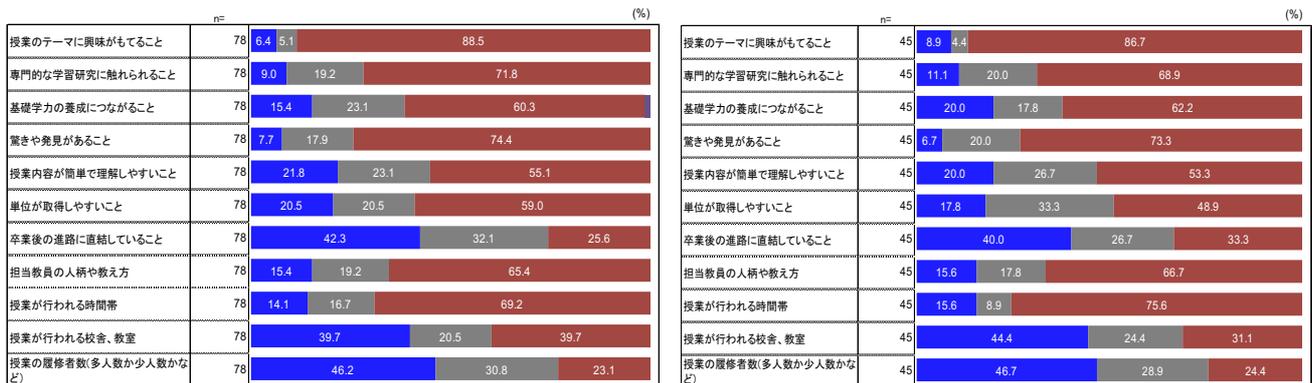
■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明 ■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する



哲学科の「**学科の専門科目**」に満足していると答えた人 × 重視していること

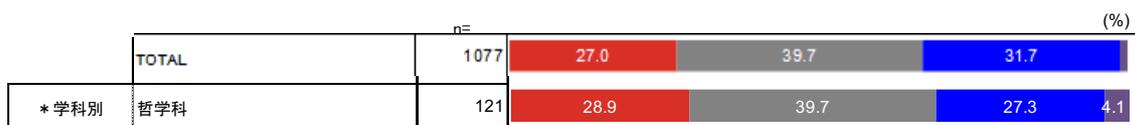
- 1位 授業テーマに興味もてること
- 2位 驚きや発見があること
- 3位 専門的な学習研究に触れられること

哲学科の「**英語(教養総合科目)**」の満足度が低いと答えた人 × 重視していること

- 1位 授業のテーマに興味もてること
- 2位 授業が行われる時間帯
- 3位 驚きや発見があること

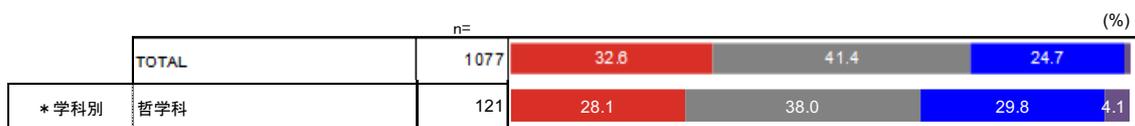
*履修者が多人数になるために事前登録(抽選)が必要な教養総合科目(外国語科目を除く)や専門教育科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや多い/多すぎる ■ 不明



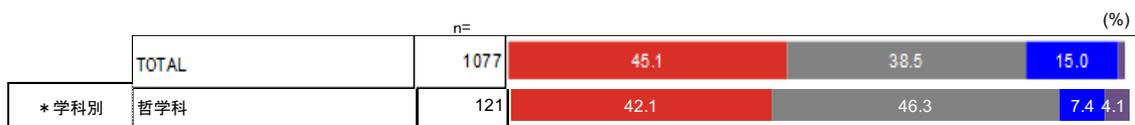
*CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 妥当/おおむね妥当 ■ 特に意見はない ■ やや少ない/少なすぎる ■ 不明



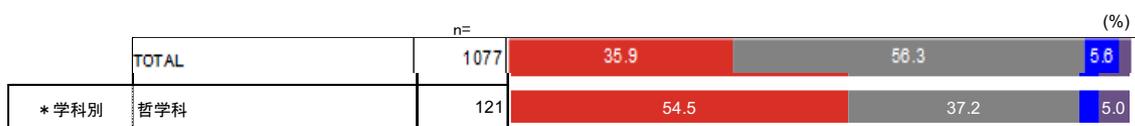
*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。[TOP2BOTTOM2]

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



卒業論文について、どのように感じますか。

■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明



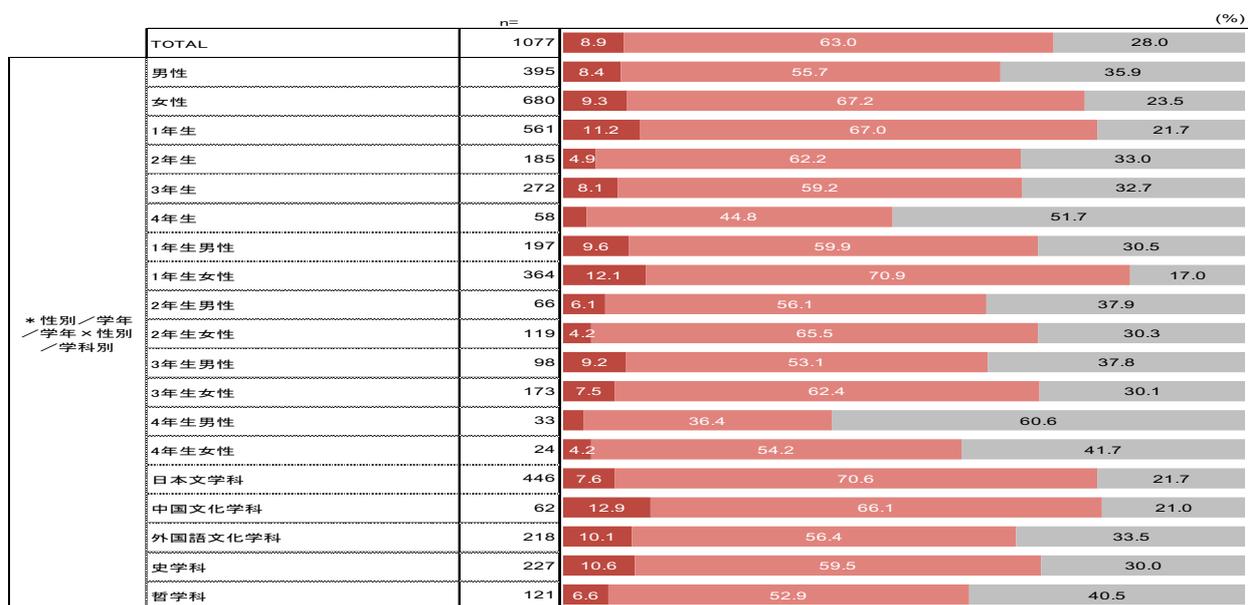
調査結果詳細

文学部およびあなたの所属する学科の理念（目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーなど）を知っていますか。

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「見た(聞いた)ことはある」が63%と最も高く、次いで「知らない」が28%、「よく知っている」が8.9%となっている。

■ よく知っている ■ 見た(聞いた)ことはある ■ 知らない

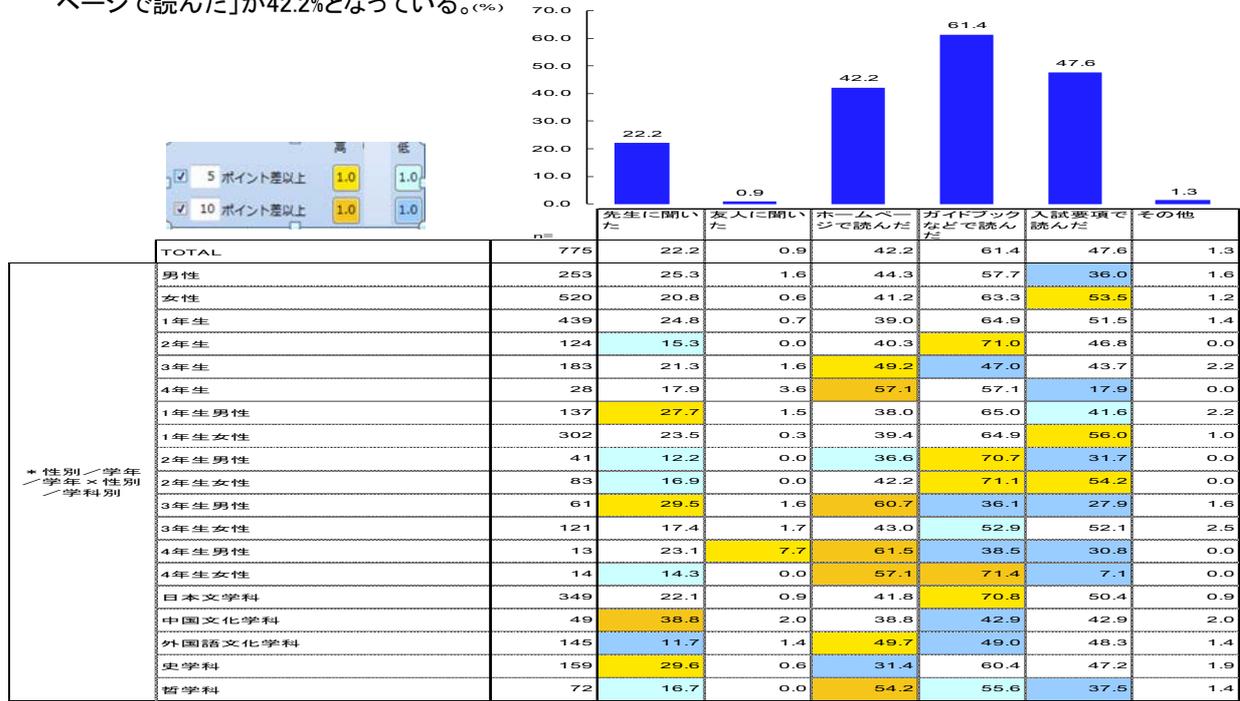


※4%未満は表示していません

Q5-1で「1」または「2」と答えた方のみお答えください。どこでそれを知りましたか。(複数回答可)【ベース:学科理念認知者】

●表側: * 性別/学年/学年×性別/学科別

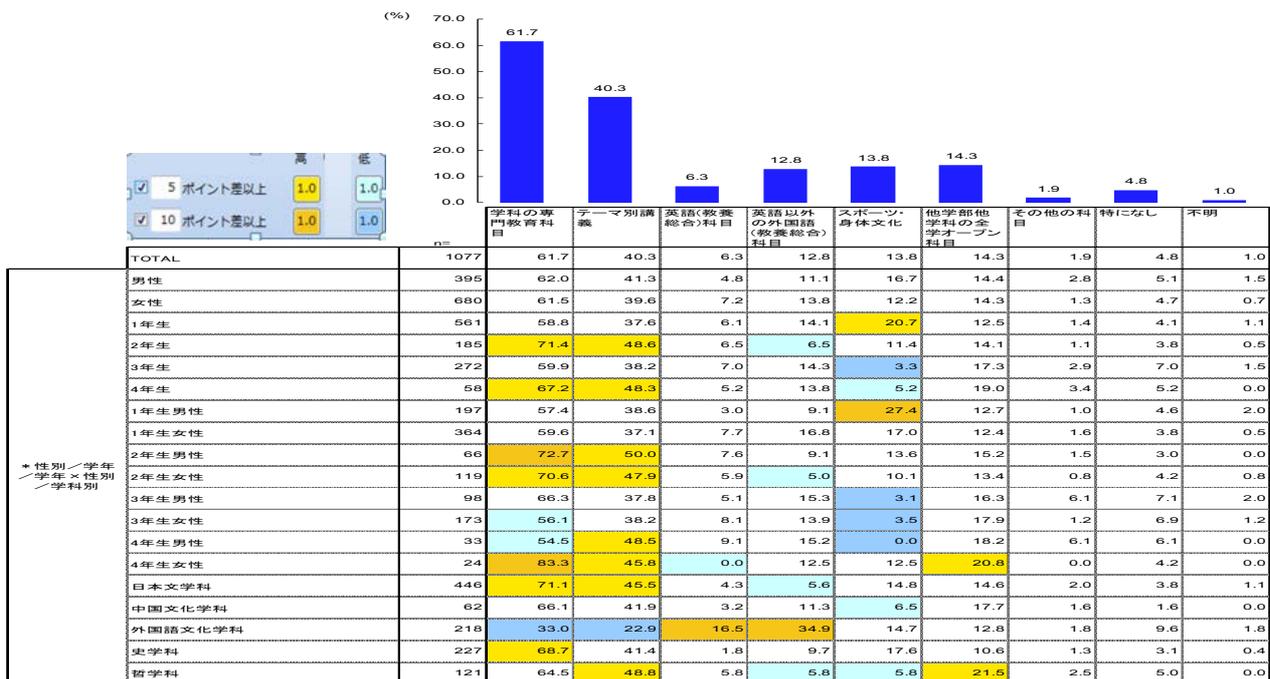
●TOTALでは、「ガイドブックなどで読んだ」が61.4%と最も高く、次いで「入試要項で読んだ」が47.6%、「ホームページで読んだ」が42.2%となっている。(%)



本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

●表側: * 性別/学年/学年×性別/学科別

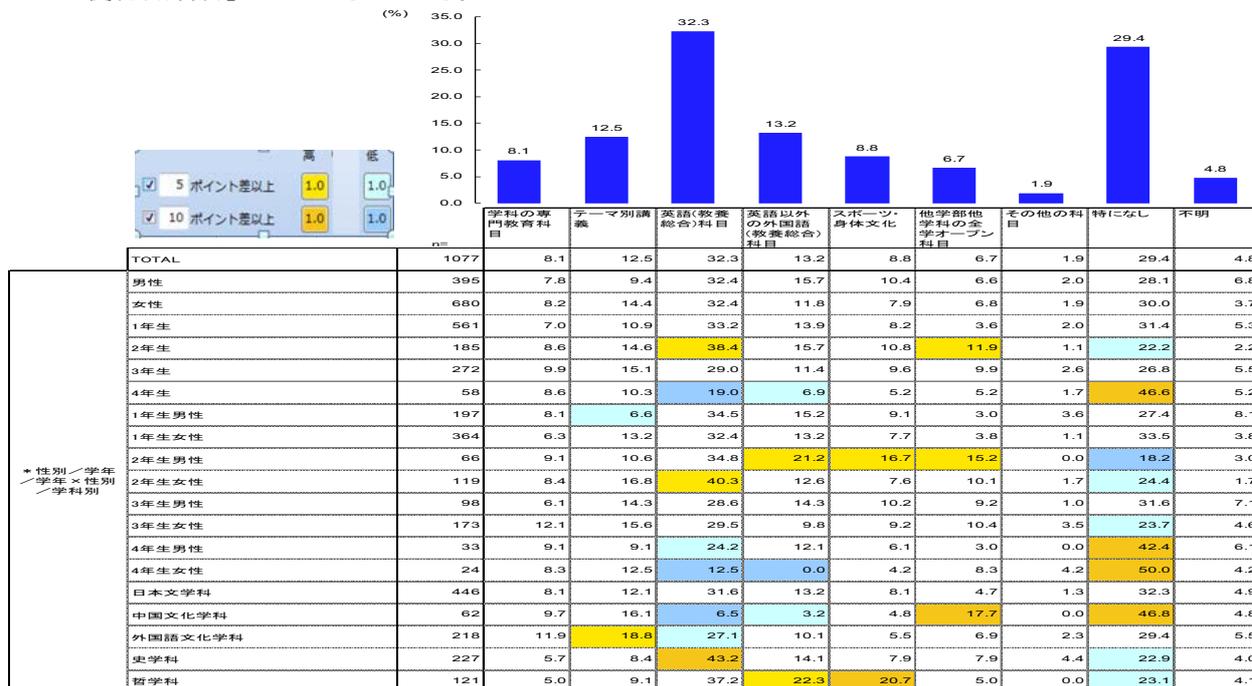
●TOTALでは、「学科の専門教育科目」が61.7%と最も高く、次いで「テーマ別講義」が40.3%、「他学部他学科の全学オープン科目」が14.3%となっている。



本学の授業の中で、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

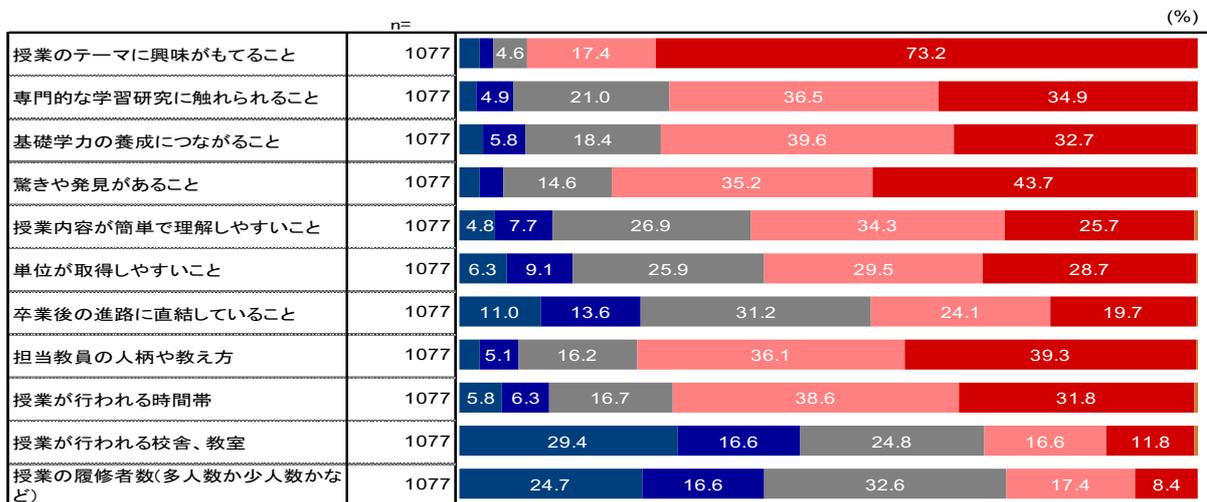
●TOTALでは、「英語(教養総合)科目」が32.3%と最も高く、次いで「特になし」が29.4%、「英語以外の外国語(教養総合)科目」が13.2%となっている。



授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。

- 授業のテーマに興味もてることでは、「重視する」が73.2%と最も高く、次いで「まあ重視する」が17.4%、「どちらでもない」が4.6%となっている。
- 専門的な学習研究に触れられることでは、「まあ重視する」が36.5%と最も高く、次いで「重視する」が34.9%、「どちらでもない」が21.0%となっている。
- 基礎学力の養成につながることで、「まあ重視する」が39.6%と最も高く、次いで「重視する」が32.7%、「どちらでもない」が18.4%となっている。

■ 重視しない ■ あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する ■ 重視する ■ 不明



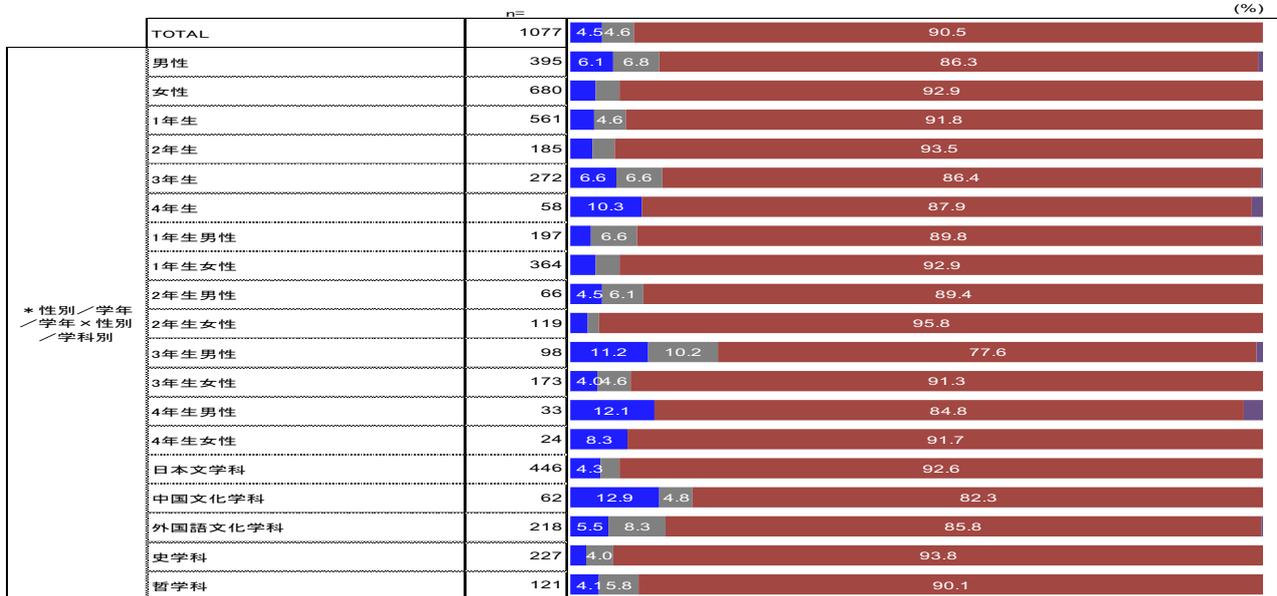
※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：授業のテーマに興味もてること

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が90.5%と最も高く、次いで「どちらでもない」が4.6%、「重視しない/あまり重視しない」が4.5%となっている。

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



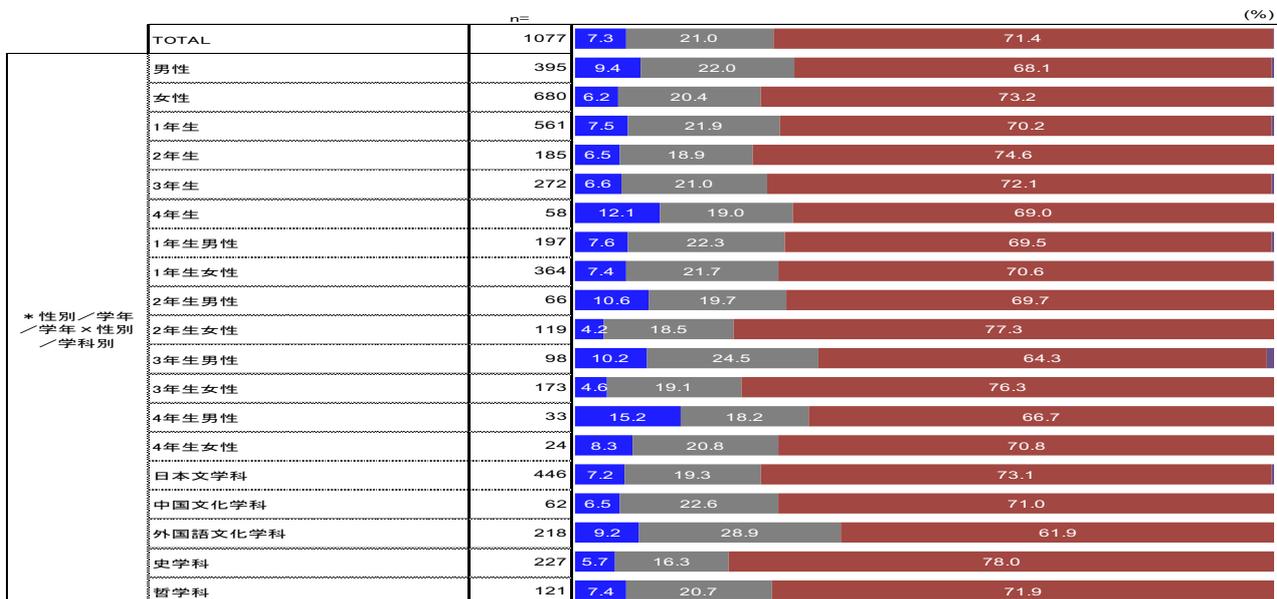
※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：専門的な学術研究に触れられること

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が71.4%と最も高く、次いで「どちらでもない」が21%、「重視しない/あまり重視しない」が7.3%となっている。

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



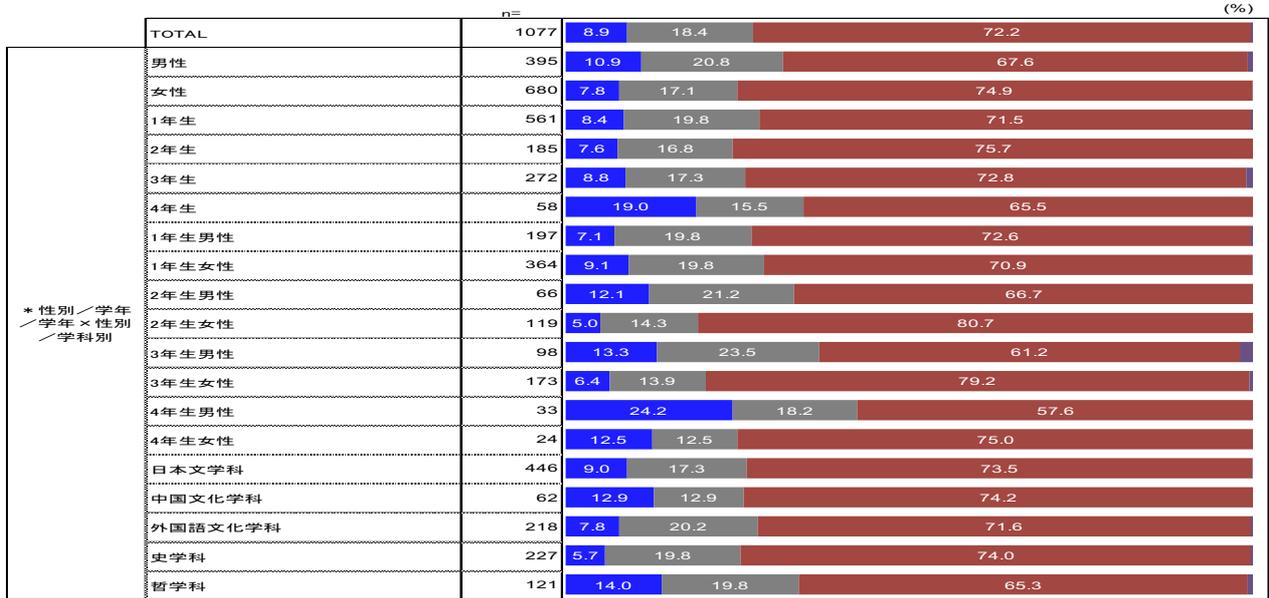
※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：基礎学力の養成につながる事

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が72.2%と最も高く、次いで「どちらでもない」が18.4%、「重視しない/あまり重視しない」が8.9%となっている。

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



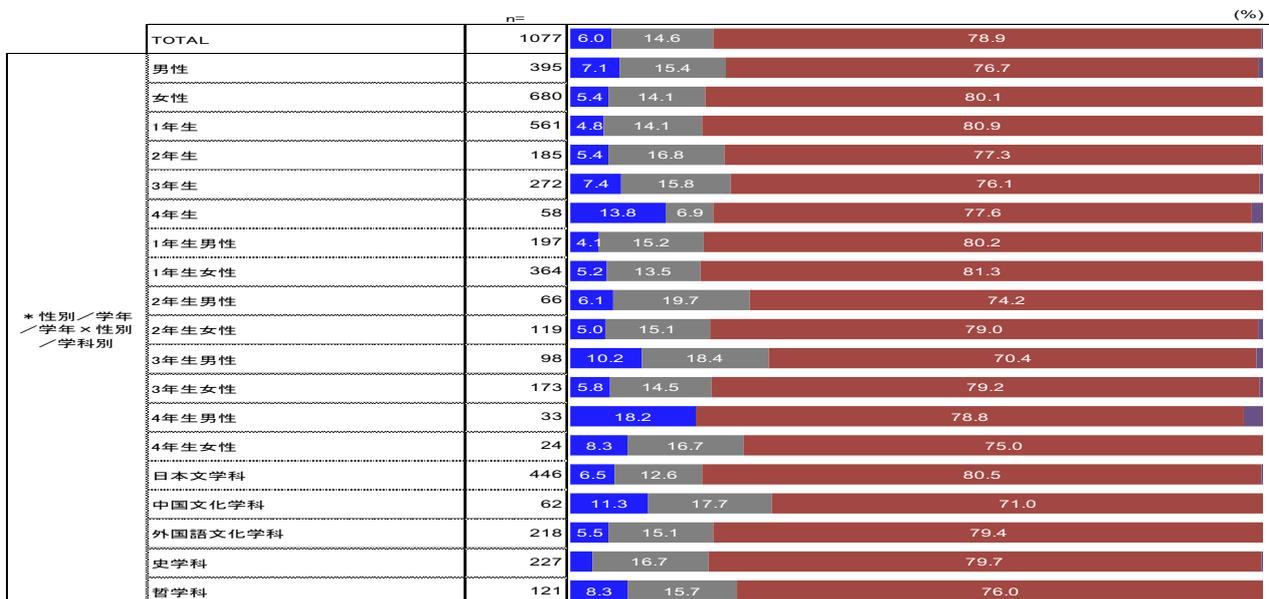
※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：驚きや発見がある事

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が78.9%と最も高く、次いで「どちらでもない」が14.6%、「重視しない/あまり重視しない」が6.0%となっている。

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



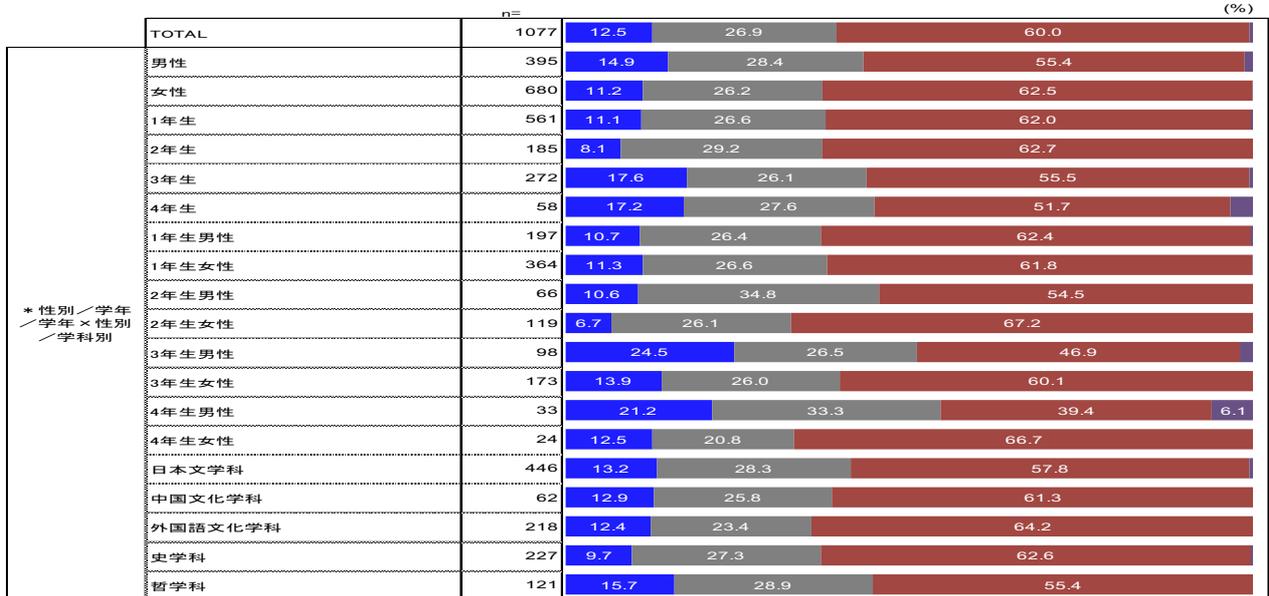
※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：授業内容が簡単で理解しやすいこと

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が60%と最も高く、次いで「どちらでもない」が26.9%、「重視しない/あまり重視しない」が12.5%となっている。

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



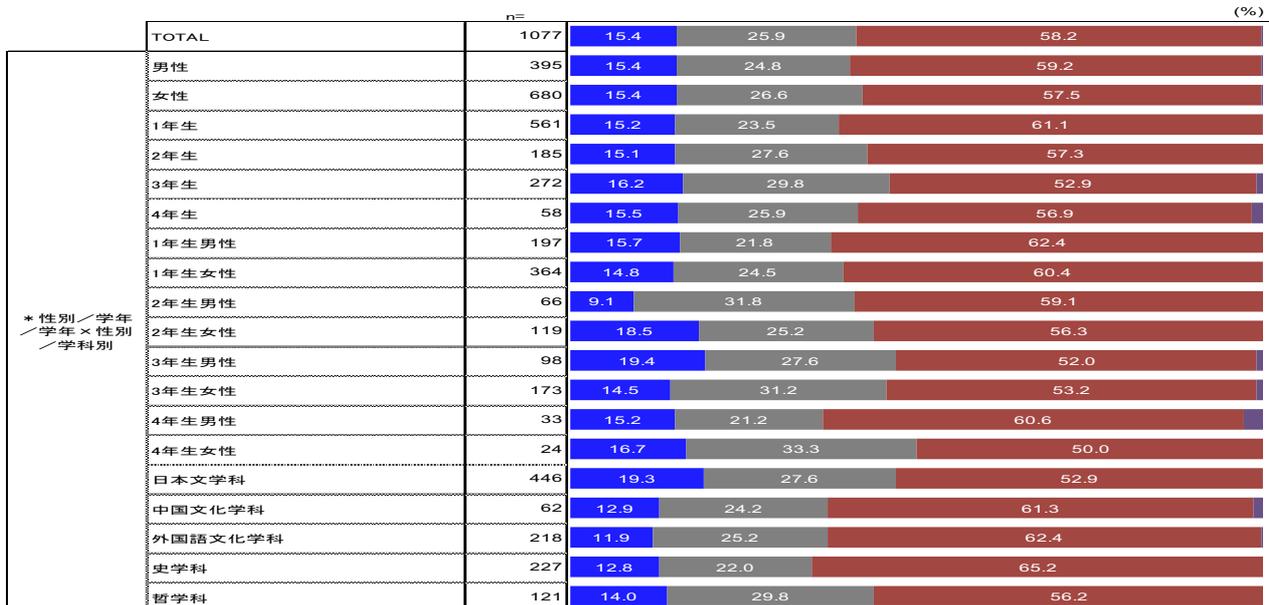
※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2]：単位が取得しやすいこと

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が58.2%と最も高く、次いで「どちらでもない」が25.9%、「重視しない/あまり重視しない」が15.4%となっている。

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明

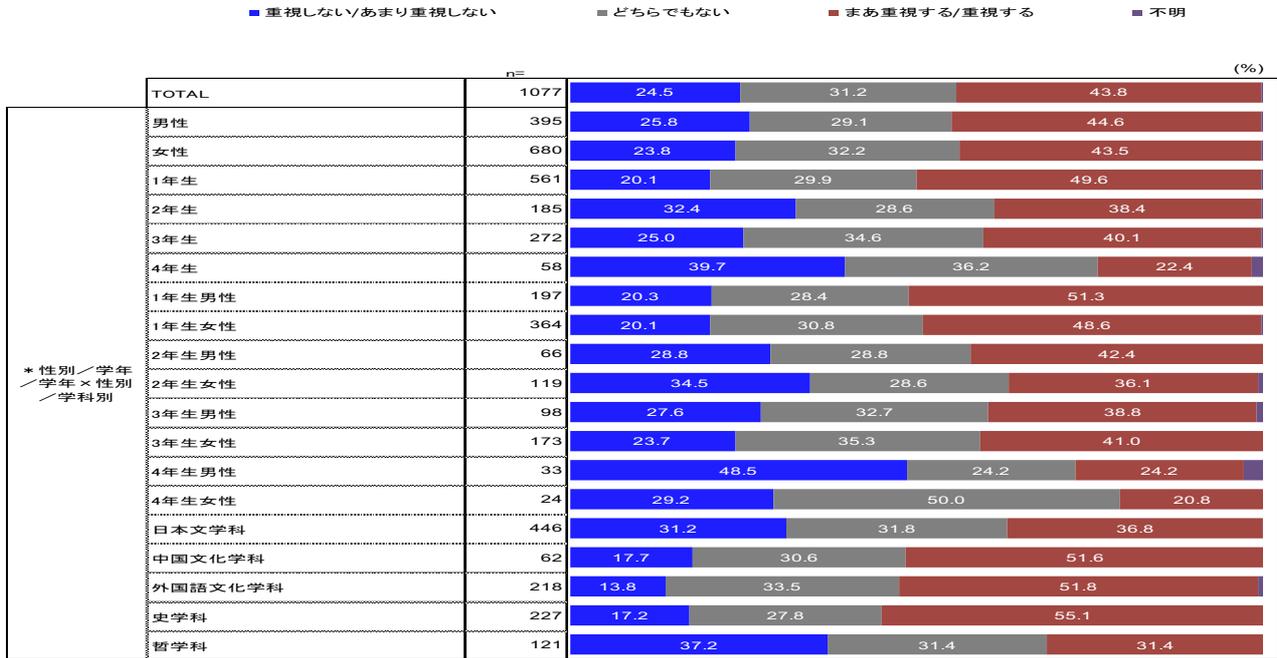


※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2] : 卒業後の進路に直結していること

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が43.8%と最も高く、次いで「どちらでもない」が31.2%、「重視しない/あまり重視しない」が24.5%となっている。

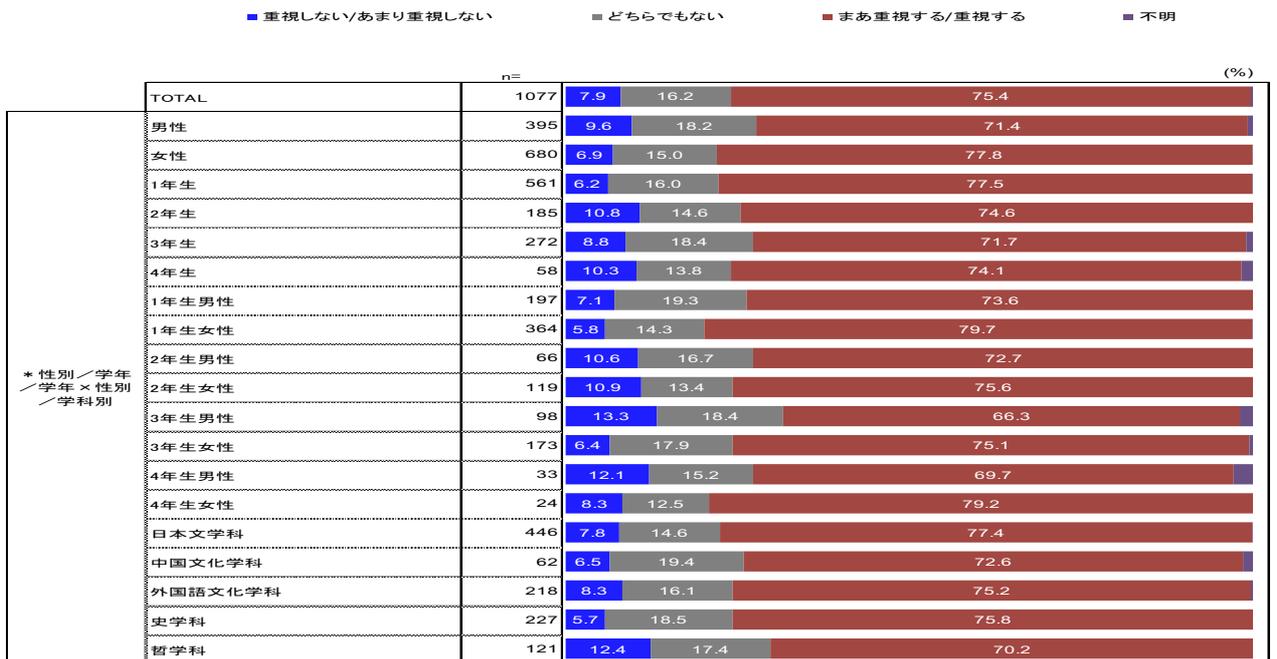


※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2] : 担当教員の人柄や教え方

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が75.4%と最も高く、次いで「どちらでもない」が16.2%、「重視しない/あまり重視しない」が7.9%となっている。

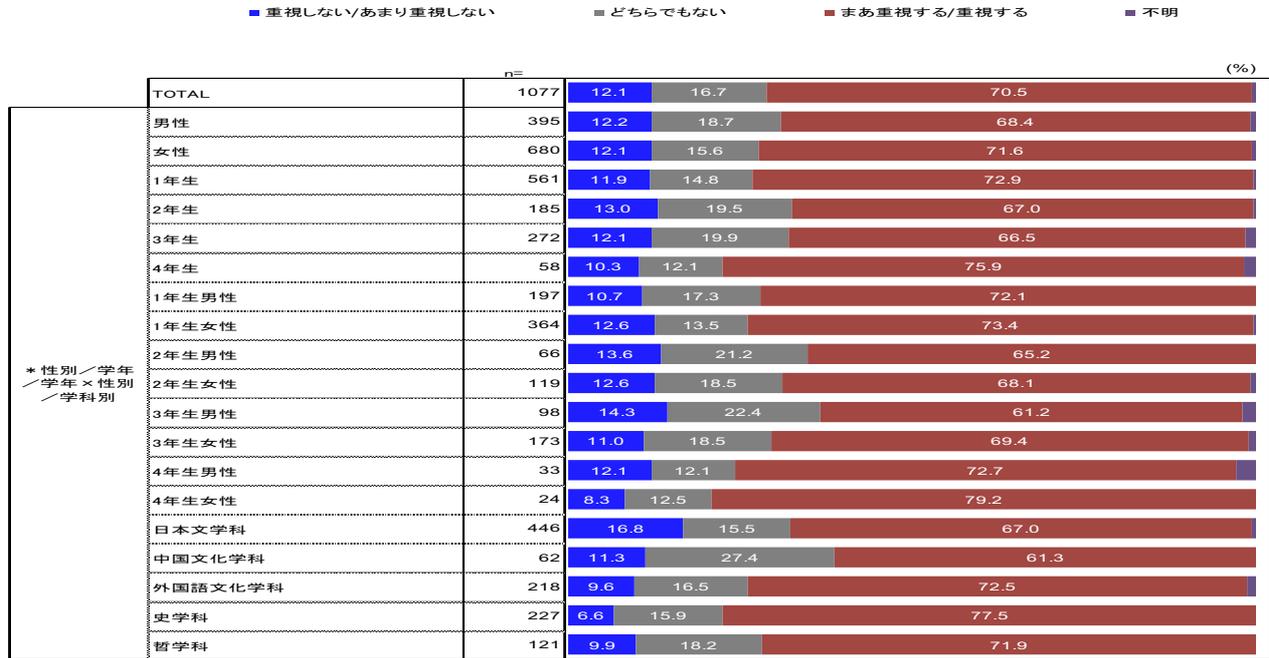


※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2] : 授業が行われる時間帯

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「まあ重視する/重視する」が70.5%と最も高く、次いで「どちらでもない」が16.7%、「重視しない/あまり重視しない」が12.1%となっている。

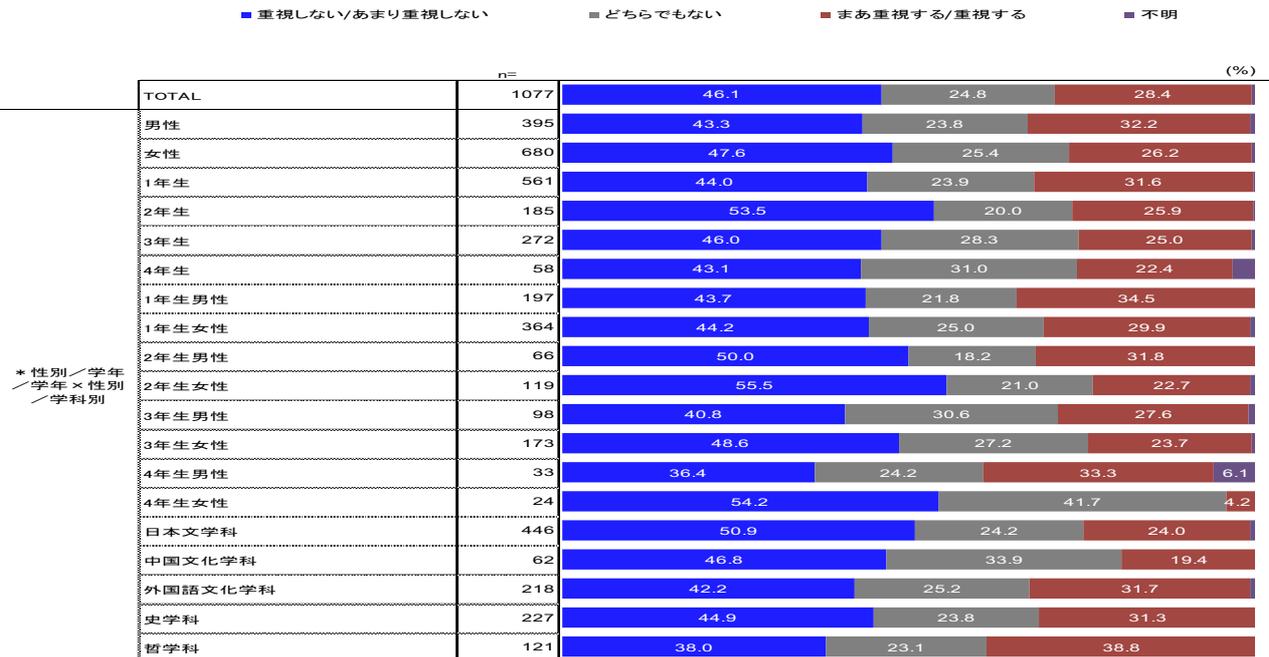


※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。**
[TOP2BOTTOM2] : 授業が行われる校舎、教室

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「重視しない/あまり重視しない」が46.1%と最も高く、次いで「まあ重視する/重視する」が28.4%、「どちらでもない」が24.8%となっている。

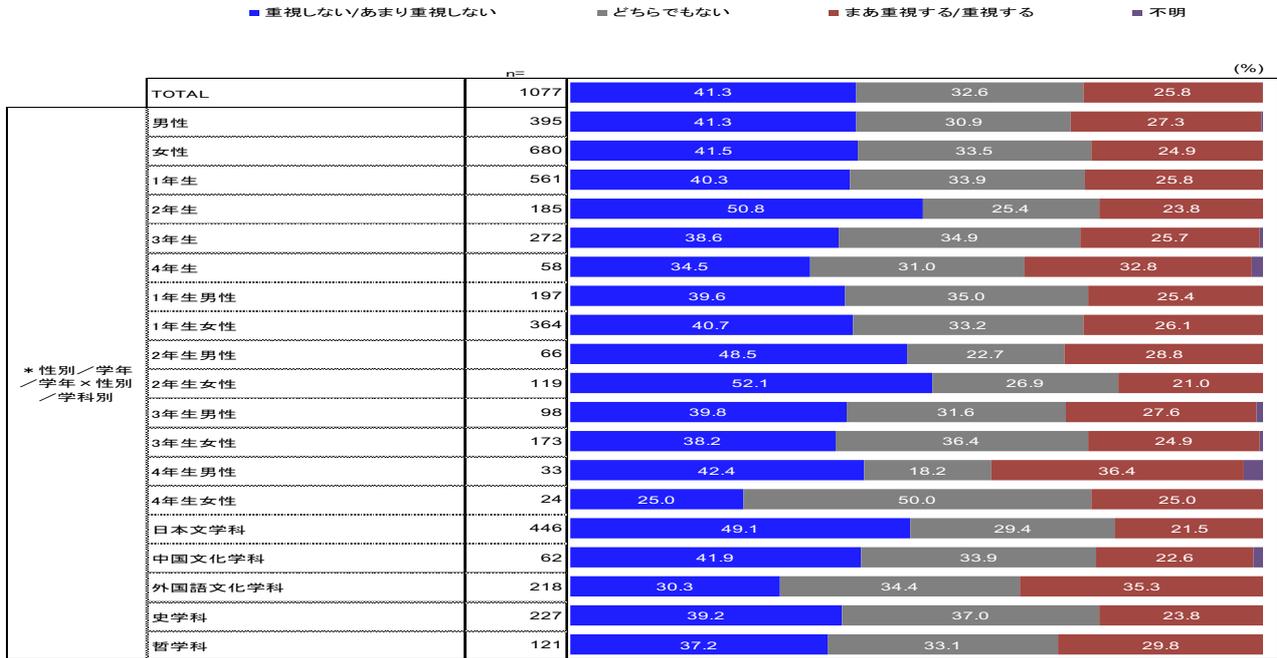


※4%未満は表示していません

***授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。
[TOP2BOTTOM2]：授業の履修者数(多人数か少人数かなど)**

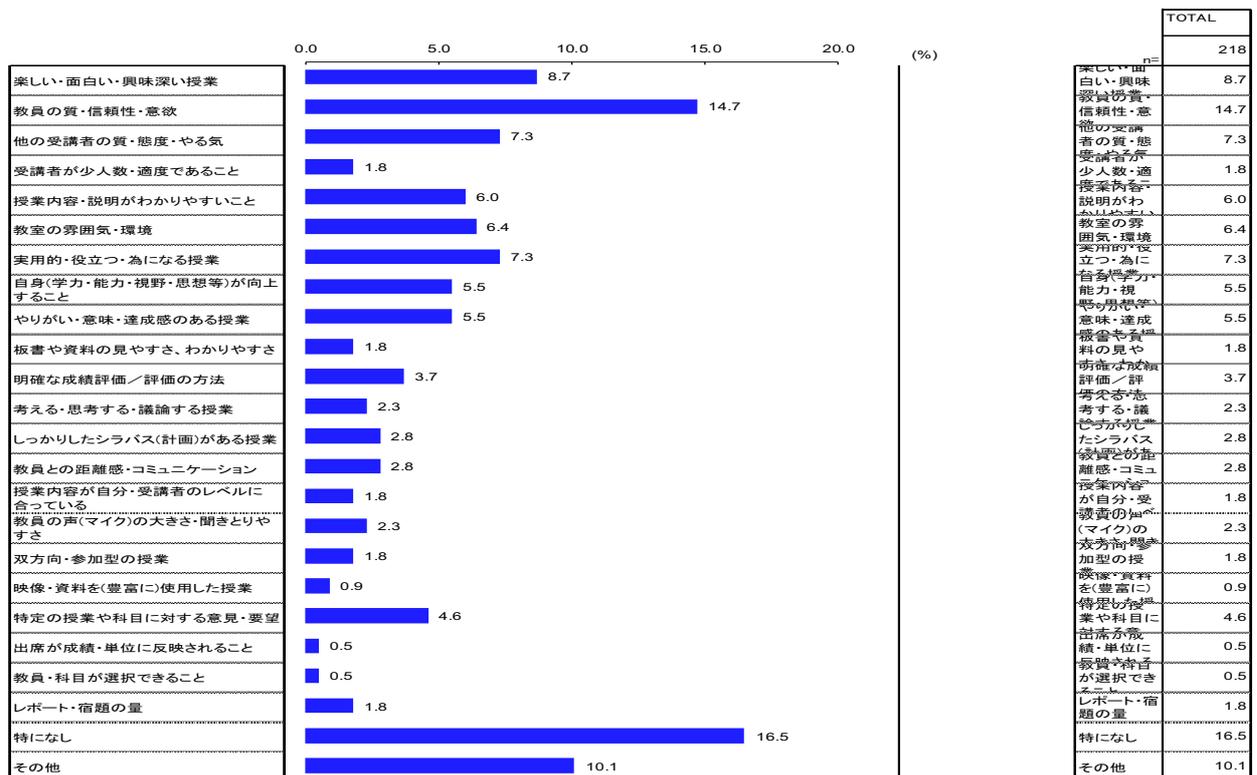
●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「重視しない/あまり重視しない」が41.3%と最も高く、次いで「どちらでもない」が32.6%、「まあ重視する/重視する」が25.8%となっている。



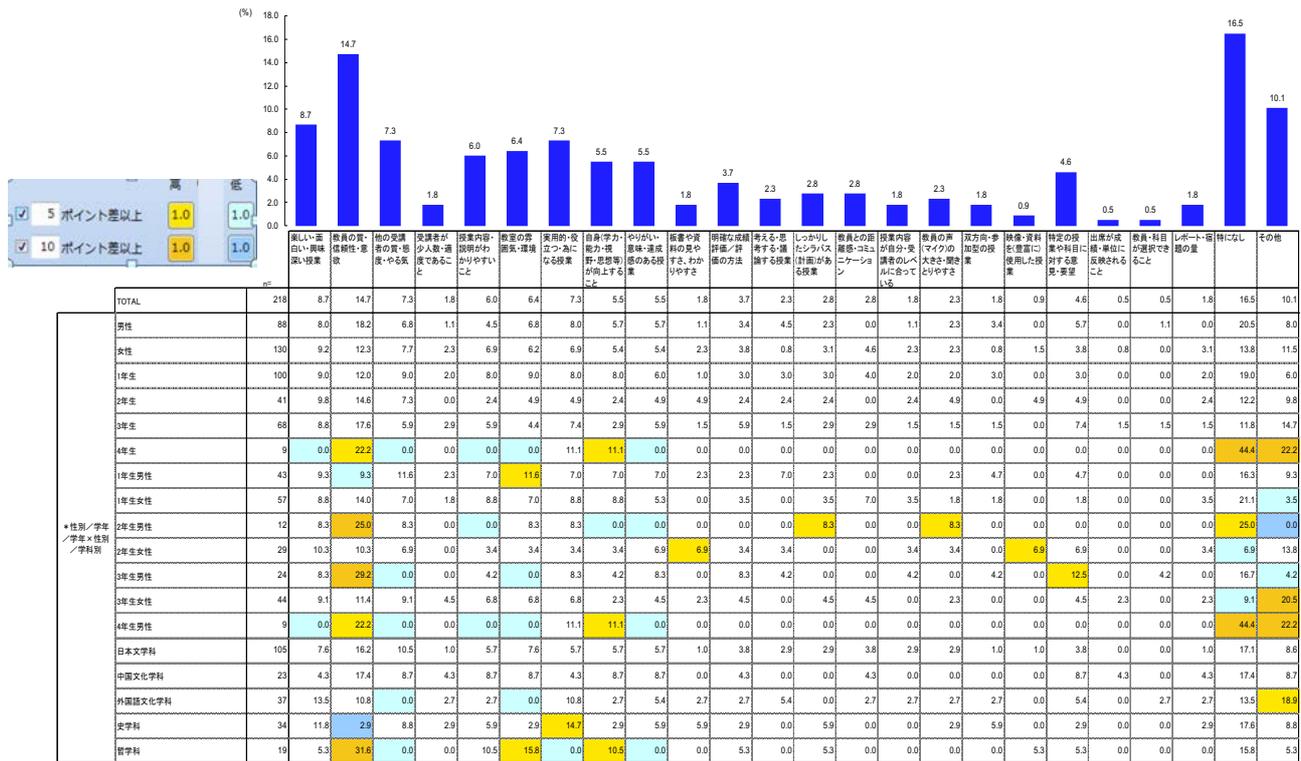
※4%未満は表示していません

***Q6-2で挙げられた項目以外に、あなたの授業満足度に直結するような項目があれば、記入してください。**



***Q6-2で挙げられた項目以外に、あなたの授業満足度に直結するような項目があれば、記入してください。**

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別



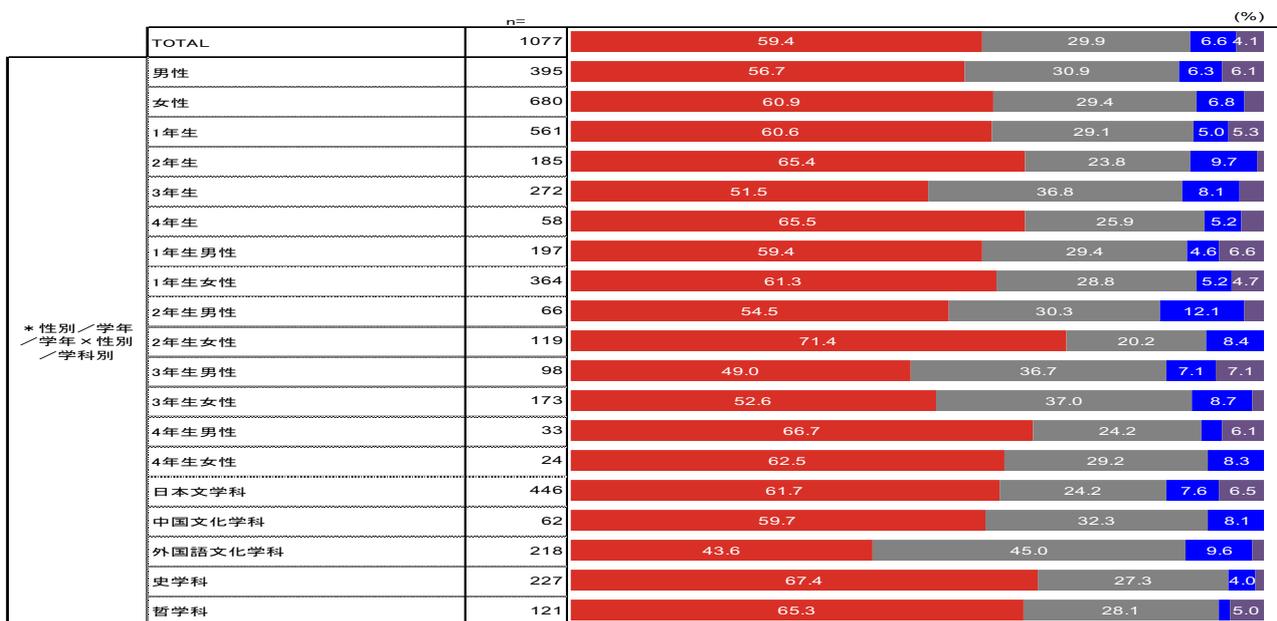
	n	楽しい・面白い授業	教員の良・悪	他の受講者の質・態度・やる気	受講者が一人ひとりと	授業内容がわかりやすいこと	教員の態度・環境	実用的・役に立つ授業	自身の学力・理解力・理解の深さ・向上する授業	わかりやすい授業	授業や質問のやりやすさ	明確な目標・評価の方法	先生と学生の関わり	先生と学生の関わり	先生との距離感	授業内容が自分に合っている	教員の声の大きさ・聞きやすさ	双方向・参加型の授業	授業資料・授業資料に活用した授業	特定の授業や科目に対する意見・要望	出席が成績や評価に反映されること	教員が授業に反映されること	レポート・宿題の量	特になし	その他
TOTAL	216	8.7	14.7	7.3	1.8	6.0	6.4	7.3	5.5	5.5	1.8	3.7	2.3	2.8	2.8	1.8	2.3	1.8	0.9	4.6	0.5	0.5	1.8	16.5	10.1
男性	88	8.0	18.2	6.8	1.1	4.5	6.8	8.0	5.7	5.7	1.1	3.4	4.5	2.3	0.0	1.1	2.3	3.4	0.0	5.7	0.0	1.1	0.0	20.5	8.0
女性	130	9.2	12.3	7.7	2.3	6.9	6.2	6.9	5.4	5.4	2.3	3.8	0.8	3.1	4.6	2.3	2.3	0.8	1.5	3.8	0.8	0.0	3.1	13.8	11.5
1年生	100	9.0	12.0	9.0	2.0	8.0	9.0	8.0	8.0	6.0	1.0	3.0	3.0	3.0	4.0	2.0	2.0	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0	2.0	19.0	6.0
2年生	41	9.8	14.6	7.3	0.0	2.4	4.9	4.9	2.4	4.9	4.9	2.4	2.4	2.4	0.0	2.4	4.9	0.0	4.9	4.9	0.0	2.4	12.2	9.8	
3年生	88	8.8	17.6	5.9	2.9	5.9	4.4	7.4	2.9	5.9	1.5	5.9	1.5	2.9	2.9	1.5	1.5	1.5	0.0	7.4	1.5	1.5	1.5	11.8	14.7
4年生	9	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	22.2
1年生男性	45	9.3	9.3	11.6	2.3	7.0	11.6	7.0	7.0	7.0	2.3	2.3	7.0	2.3	0.0	0.0	2.3	4.7	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	16.3	9.3
1年生女性	57	8.8	14.0	7.0	1.8	8.8	7.0	8.8	8.8	5.3	0.0	3.5	0.0	3.5	7.0	3.5	1.8	1.8	0.0	1.8	0.0	0.0	3.5	21.1	3.5
2年生男性	12	8.3	25.0	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
2年生女性	29	10.3	10.3	6.9	0.0	3.4	3.4	3.4	6.9	6.9	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	6.9	6.9	0.0	0.0	3.4	6.9	13.8
3年生男性	24	8.3	29.2	0.0	0.0	4.2	0.0	8.3	4.2	8.3	0.0	8.3	4.2	0.0	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0	12.5	0.0	4.2	0.0	16.7	4.2
3年生女性	44	9.1	11.4	9.1	4.5	6.8	6.8	6.8	2.3	4.5	2.3	4.5	0.0	4.5	4.5	0.0	2.3	0.0	0.0	4.5	2.3	0.0	2.3	9.1	20.5
4年生男性	9	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	22.2
日本文学科	105	7.6	16.2	10.5	1.0	5.7	7.6	5.7	5.7	5.7	1.0	3.8	2.9	2.9	3.8	2.9	2.9	1.0	1.0	3.8	0.0	0.0	1.0	17.1	8.6
中国語文化学科	23	4.3	17.4	8.7	4.3	8.7	8.7	4.3	8.7	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0	4.3	17.4	8.7
外国語文化学科	37	13.5	10.8	0.0	2.7	2.7	0.0	10.8	2.7	5.4	2.7	2.7	5.4	0.0	2.7	2.7	2.7	2.7	0.0	5.4	0.0	2.7	2.7	13.5	18.9
史学科	34	11.8	2.9	8.8	2.9	5.9	2.9	14.7	2.9	5.9	5.9	2.9	0.0	5.9	0.0	0.0	2.9	5.9	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	17.6	8.8
哲学科	19	5.3	31.6	0.0	0.0	10.5	15.8	0.0	10.5	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	15.8	5.3

***テーマ別講義のよりくわしい満足度はどの程度ですか。[TOP2BOTTOM2]**

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「満足/おおむね満足」が59.4%と最も高く、次いで「普通」が29.9%、「やや不満/不満」が6.6%となっている。

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



※4%未満は表示していません

テーマ別講義の満足度(記述形式)

ポジティブ

- ・色々なテーマについて深く掘り下げる事が出来る。(史学科 1年女性)
- ・他の学科では学べないものが多くある為(哲学科 1年男性)
- ・自分の知りたいテーマについて詳細に学ぶ事が出来たから(史学科 2年男性)
- ・日常生活に直結する内容である事が多く、発見や驚きをたくさん味わえたから。(日本文学科 2年女性)
- ・面白い授業が多いため(中国語文化学科 3年生男性)
- ・シラバスを見て興味があったものを受講すると実際に満足する内容だから(中国語文化学科 3年女性)
- ・様々なジャンルの講義があり、専門以外の知識が身に付くため(日本文学科 4年男性)
- ・自分の興味ある事柄について学べるから(日本文学科 4年女性)

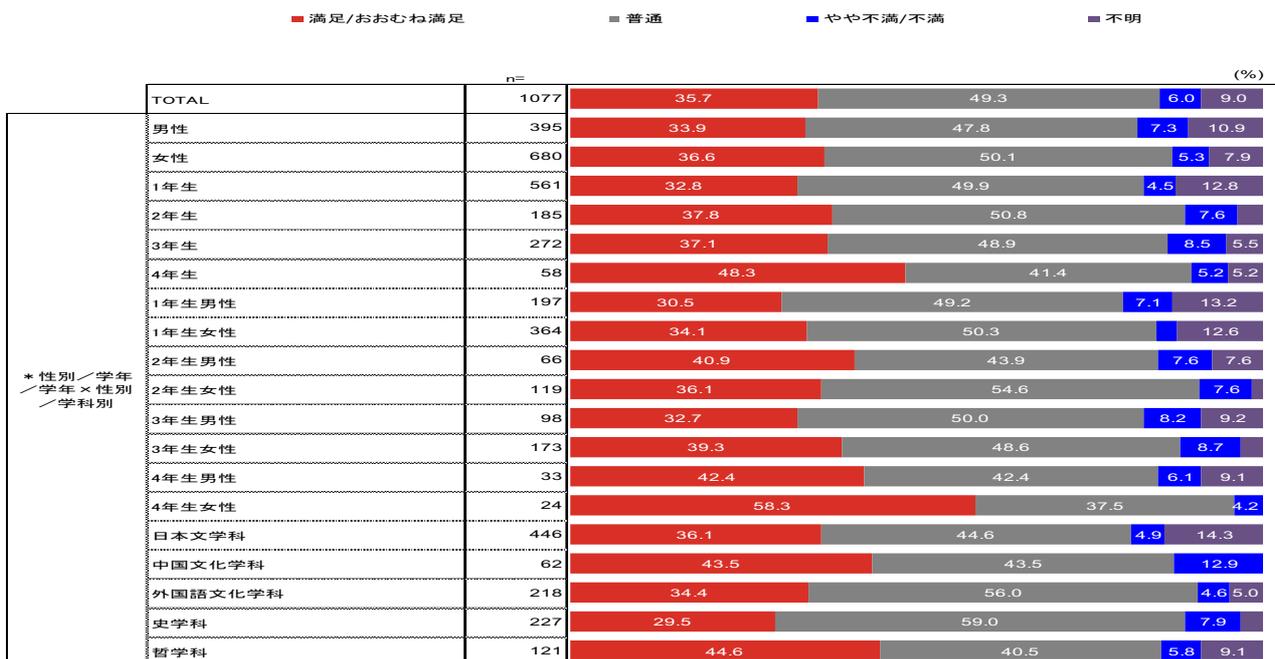
ネガティブ

- ・人数が多すぎる為うるさく、また内容もそれほど詳しくないため(日本文学科 1年男性)
- ・シラバスの内容と違う講義をされる方がいるので少し戸惑いました。(日本文学科 1年女性)
- ・人数が多すぎて授業が受けづらい。授業の中の態度が悪い生徒が多くて気が散る(日本文学科 2年女性)
- ・テーマは良かったが教員の話し方や内容の伝え方にやや不満である。(日本文学科 2年男性)
- ・シラバスに沿わない授業が多い(中国語文化学科 3年女性)
- ・目的からそれた授業内容が多いから(外国語文化学科 3年男性)
- ・履修人数が多すぎる(日本文学科 4年男性)
- ・テーマは面白いが、もっと詳しくない様の濃い授業だと良いと思うから(日本文学科 4年生 女性)

*他学部他学科の全学オープン科目のよりくわしい満足度はどの程度ですか。 [TOP2BOTTOM2]

●表側: * 性別/学年/学年 × 性別/学科別

●TOTALでは、「普通」が49.3%と最も高く、次いで「満足/おおむね満足」が35.7%、「やや不満/不満」が6%となっている。



※4%未満は表示していません

他学部他学科の全学オープン科目の満足度（記述形式）

ポジティブ

- ・自身が興味を持った内容をしっかり学ぶ事が出来るため。(哲学科 1年男性)
- ・基礎があまりない他学科の私でも、理解できるように丁寧な授業である(日本文学科 1年女性)
- ・隣接学問を学ぶ事で一つの物事に対し、他面的な見方が取れるため(史学科 2年男性)
- ・多様な授業があり、多くの事を学べる事にとても満足しているから(外国語文学科 2年女性)
- ・シラバスに沿っているので興味を持ち続けて履修できた(哲学科 3年男性)
- ・他学部の興味あるものが受ける事が出来るとともに、気分転換にもなる(中国文学科 3年女性)
- ・史学科の授業のみでは飽きてしまうから(史学科 4年男性)
- ・自分の学科以外の授業を受けることで、プラスの知識を得るのは楽しいから(日本文学科 4年女性)

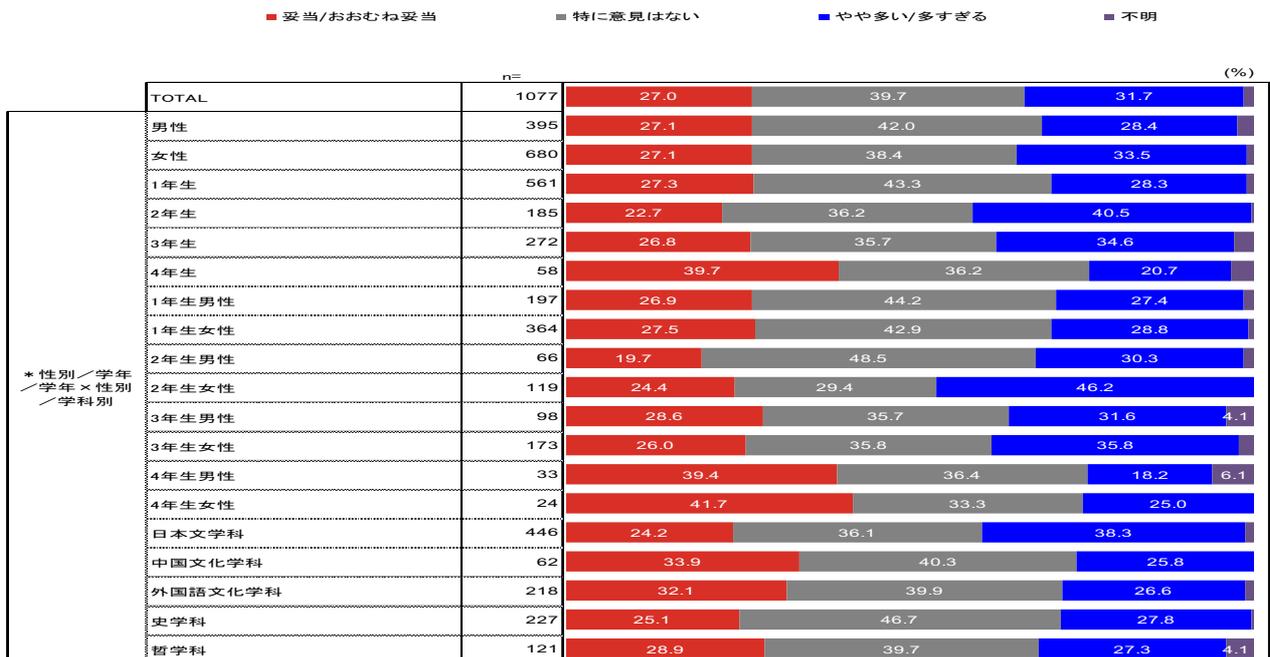
ネガティブ

- ・内容は興味深い、他学部の生徒にもわかりやすい様に基礎にも重点をおいて欲しいと感じたから。(史学科 1年男性)
- ・人数の多すぎる授業がある(外国語文学科 1年女性)
- ・もう少し選べる授業の種類を増やしてほしい(史学科 2年男性)
- ・大人数の授業になり、あまり環境が良くないから(日本文学科 2年女性)
- ・内容は満足であるが、担当教員の声が小さいなどが気になる事がある。(中国文化学科 3年男性)
- ・難解すぎると授業についていけない(哲学科 3年女性)
- ・教員によるが、大教室授業でうるさい人々に対する注意が甘いと思うから(哲学科 4年男性)
- ・他学部の人の授業態度がふさわしくないと感じる時があるから。(日本文学科 4年女性)

*履修者が多人数になるために事前登録（抽選）が必要な教養総合科目（外国語科目を除く）や専門教育科目の数について、どのように感じますか。[TOP2BOTTOM2]

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「特に意見はない」が39.7%と最も高く、次いで「やや多い/多すぎる」が31.7%、「妥当/おおむね妥当」が27%となっている。



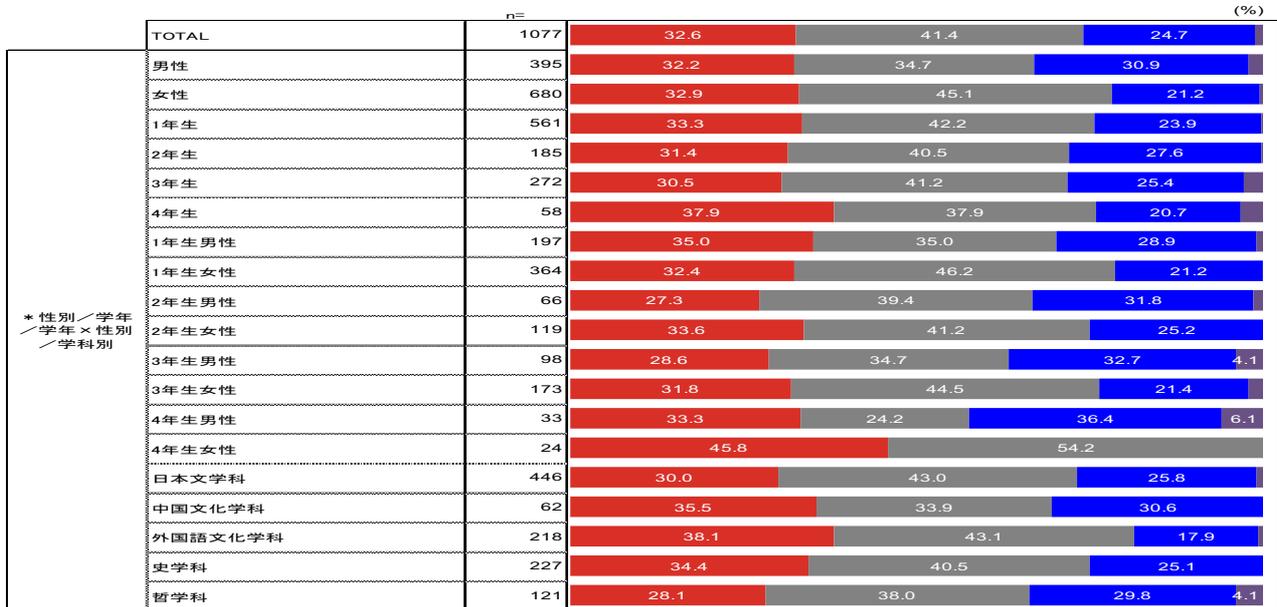
※4%未満は表示していません

*CAP制(年次別履修単位制限)の単位数について、どのように感じますか。 [TOP2BOTTOM2]

●表側: * 性別/学年/学年×性別/学科別

●TOTALでは、「特に意見はない」が41.4%と最も高く、次いで「妥当/おおむね妥当」が32.6%、「やや少ない/少なすぎる」が24.7%となっている。

■妥当/おおむね妥当 ■特に意見はない ■やや少ない/少なすぎる ■不明



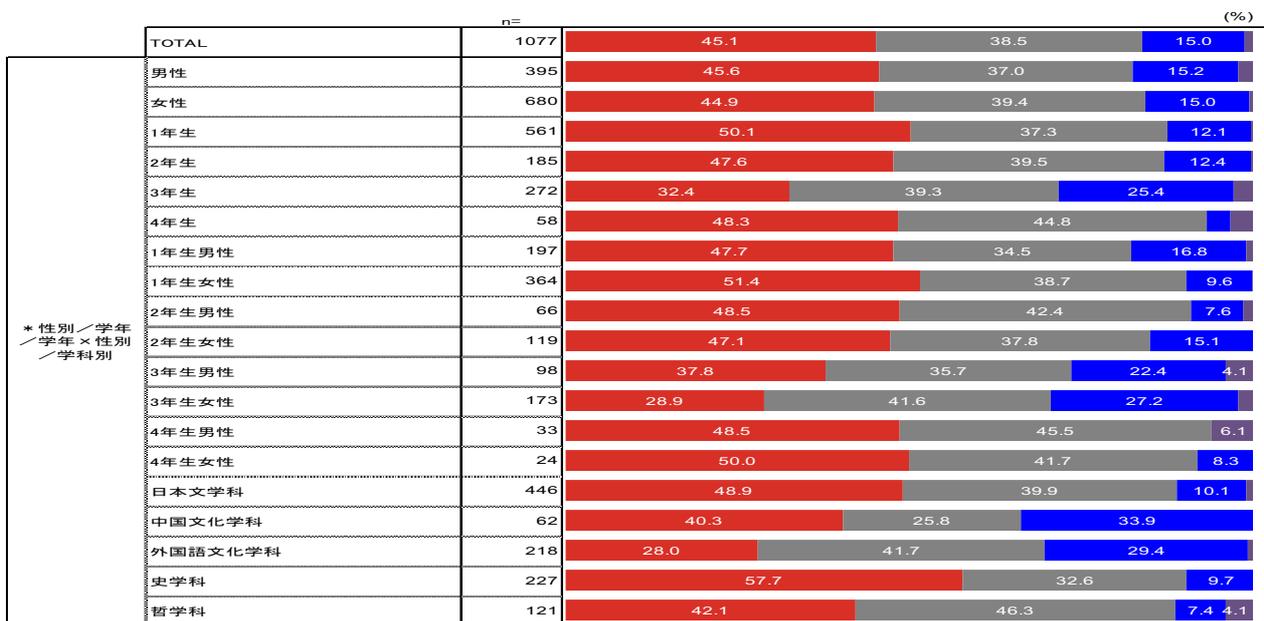
※4%未満は表示していません

*あなたの所属学科のカリキュラムについて、どの様に感じますか。 [TOP2BOTTOM2]

●表側: * 性別/学年/学年×性別/学科別

●TOTALでは、「満足/おおむね満足」が45.1%と最も高く、次いで「普通」が38.5%、「やや不満/不満」が15%となっている。

■満足/おおむね満足 ■普通 ■やや不満/不満 ■不明



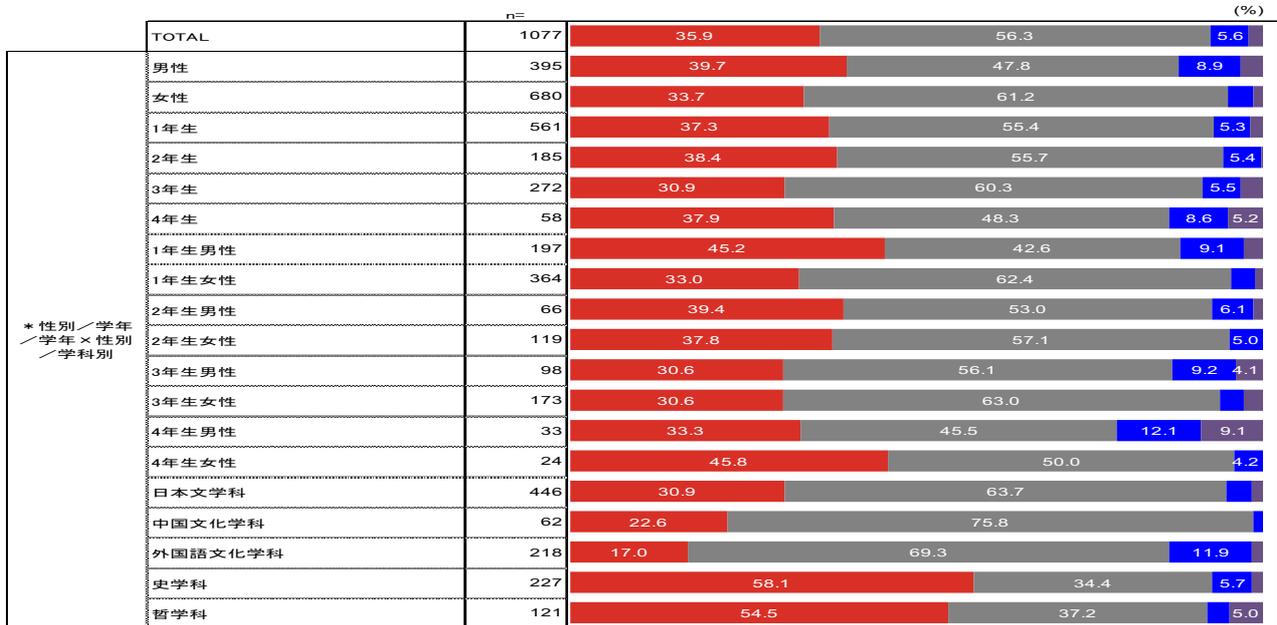
※4%未満は表示していません

卒業論文について、どのように感じますか。

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「選択が妥当」が56.3%と最も高く、次いで「必修が妥当」が35.9%、「必要ない」が5.6%となっている。

■ 必修が妥当 ■ 選択が妥当 ■ 必要ない ■ 不明

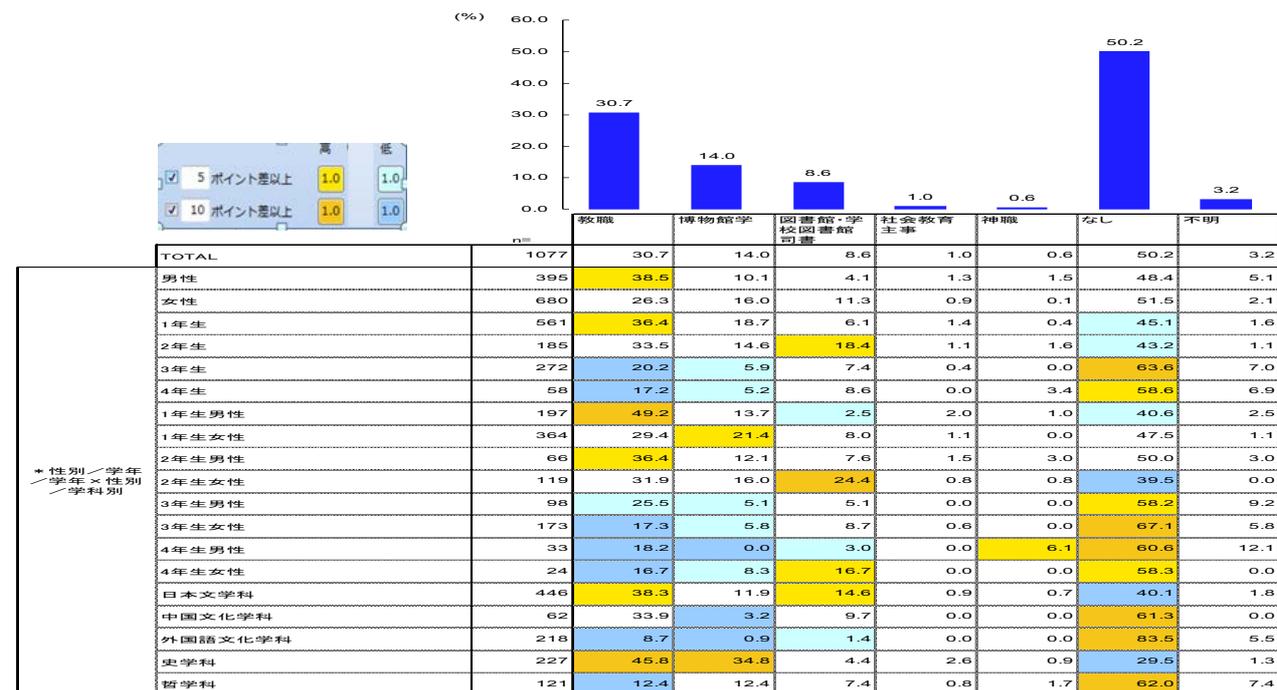


※4%未満は表示していません

あなたが履修している教職・資格過程を教えてください。(複数回答可)

●表側：* 性別／学年／学年×性別／学科別

●TOTALでは、「なし」が50.2%と最も高く、次いで「教職」が30.7%、「博物館学」が14%となっている。

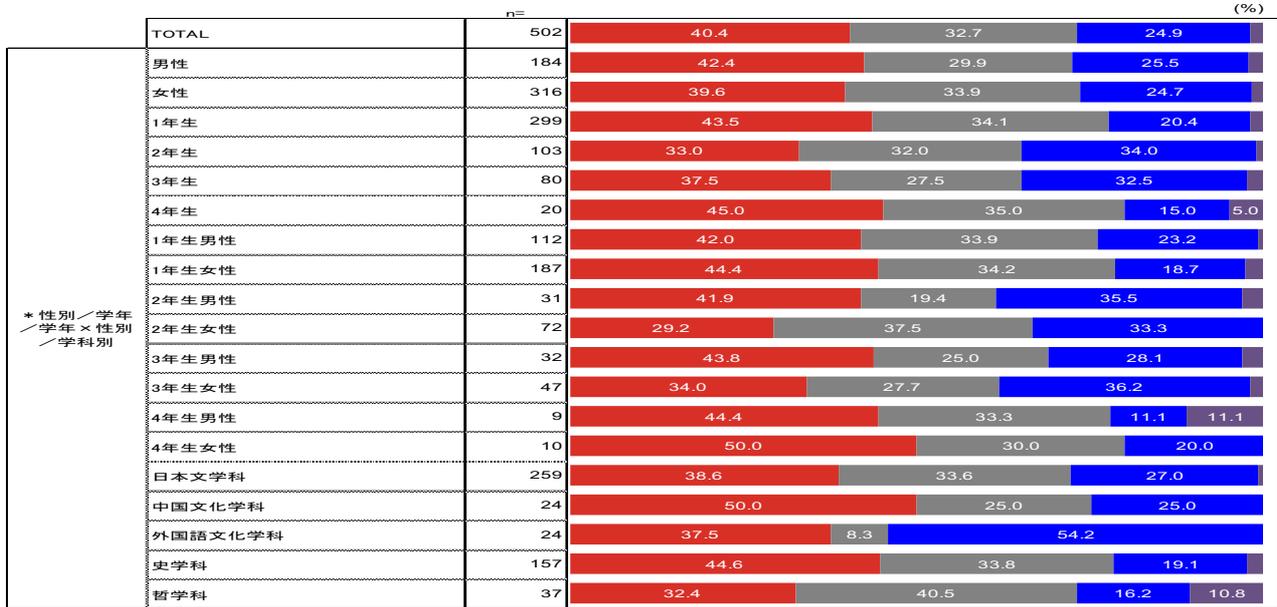


※教職・資格過程履修者(Q12で、「1」～「5」のいずれかを含む回答をした方)のみ答えてください。本学の教職・資格過程のカリキュラムについて、どのように感じますか。
【ベース:資格過程履修者】[TOP2BOTTOM2]

●表側: * 性別/学年/学年×性別/学科別

●TOTALでは、「満足/おおむね満足」が40.4%と最も高く、次いで「普通」が32.7%、「やや不満/不満」が24.9%となっている。

■ 満足/おおむね満足 ■ 普通 ■ やや不満/不満 ■ 不明



※4%未満は表示していません

教職・資格課程のカリキュラム満足度(記述形式)

ポジティブ

- ・一年次から計画的に教職に関する学科を受け、教職にたいする意識と知識を要請する事ができるから(史学科 1年男性)
- ・教職の先生は特に分かりやすく、教師という仕事について理解が深める事ができる。(日本文学科 1年女性)
- ・自分がその気になれば教職に役立ついろいろな授業が取れるから(日本文学科 2年男性)
- ・その資格を得るために必要なことがきちんとサポートされていると感じる(日本文学科 2年女性)
- ・明確なビジョンが見えるよう設定されているから(史学科 3年男子)
- ・これからに直結するような授業になっており、毎回学ぶ事が多くあるから(日本文学科 3年女性)
- ・教職ゼミなどあり、本学生同士の交流があるから(日本文学科 4年男性)
- ・実際に小中高の現場で活躍された先生方に教わる事が出来るから(日本文学科 4年女子)

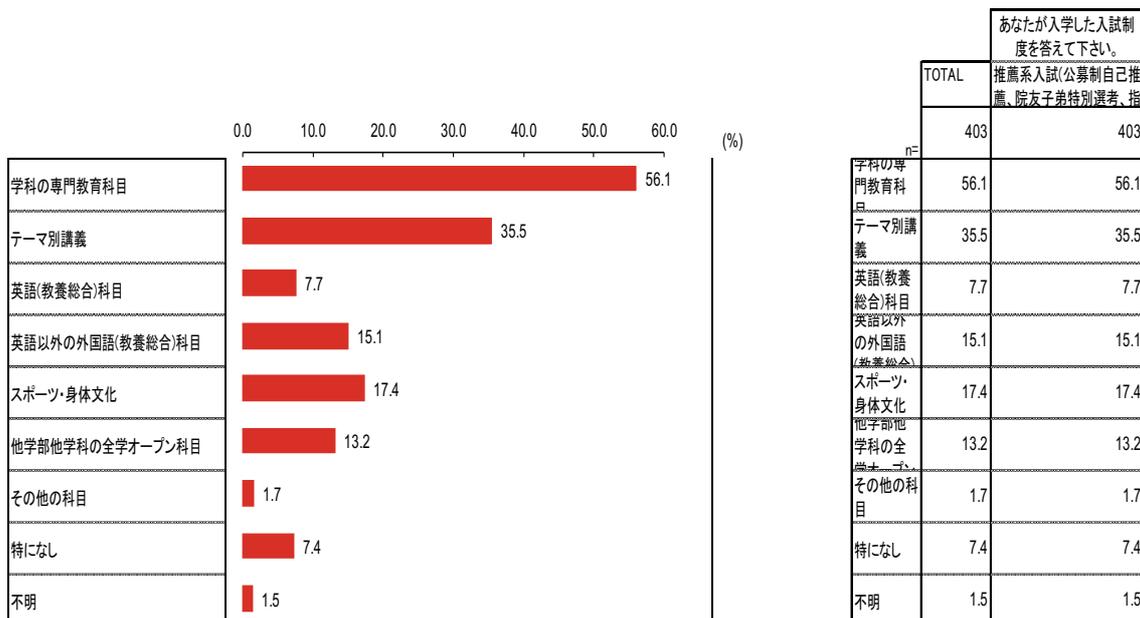
ネガティブ

- ・教職に関する情報が伝わってこない。不足している。(史学科 1年男性)
- ・取らなくてはいけない科目が分かりづらい事があるから(史学科 1年女性)
- ・必修科目の関係で教職が取れなくなってしまうのは厳しい。救済手段をもう少し欲しい(日本文学科 2年男性)
- ・3年生での負担がやや重いように感じる(日本文学科 2年女性)
- ・単位にカウントされないし、担当教員によって単位修得難易度が大きく異なるから(外国語文化学科 3年男性)
- ・3年生になって急に増えるので2年生時点でもう少し増やしてほしいから(日本文学科 3年女性)
- ・教職センターの威圧的態度を改善すべき(哲学科 4年生男性)
- ・開講している時間が少ない(日本文学科 4年女性)

追加資料

推薦系入試（公募制自己推薦、院友子弟特別選考、指定校推薦、系列推薦、スポーツ推薦）で入学した学生の、満足度の高いものはどれですか。（複数回答可）

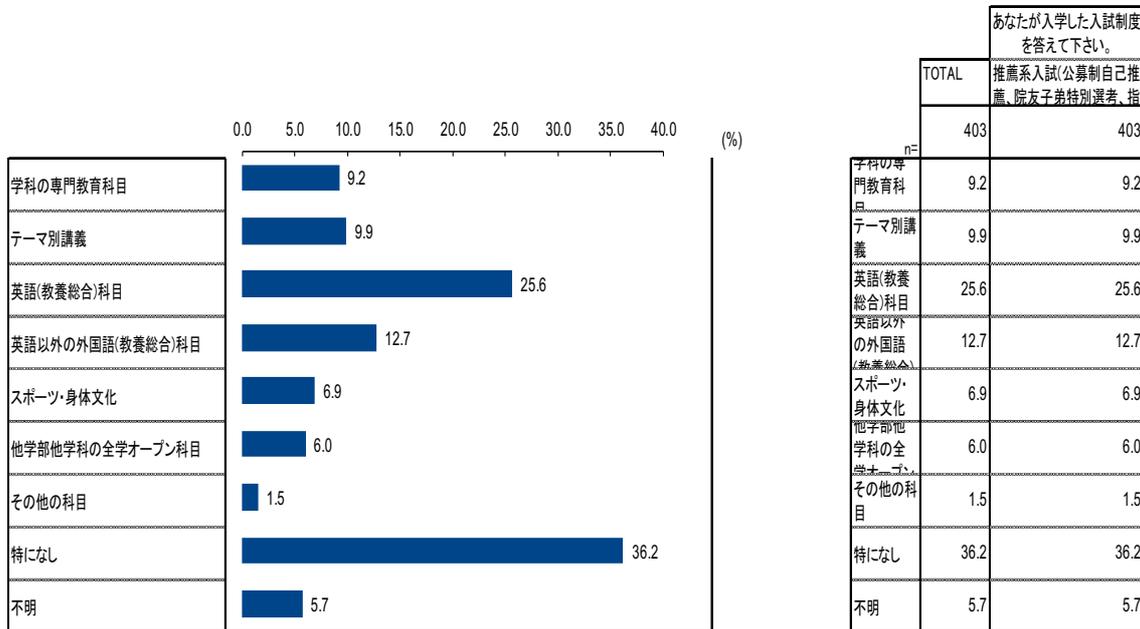
- 表側：あなたが入学した入試制度を答えて下さい。
- TOTALでは、「学科の専門教育科目」が56.1%と最も高く、次いで「テーマ別講義」が35.5%、「スポーツ・身体文化」が17.4%となっている。



推薦系入試（公募制自己推薦、院友子弟特別選考、指定校推薦、系列推薦、スポーツ推薦）で入学した学生の、満足度の低いものはどれですか。（複数回答可）

●表側：あなたが入学した入試制度を答えて下さい。

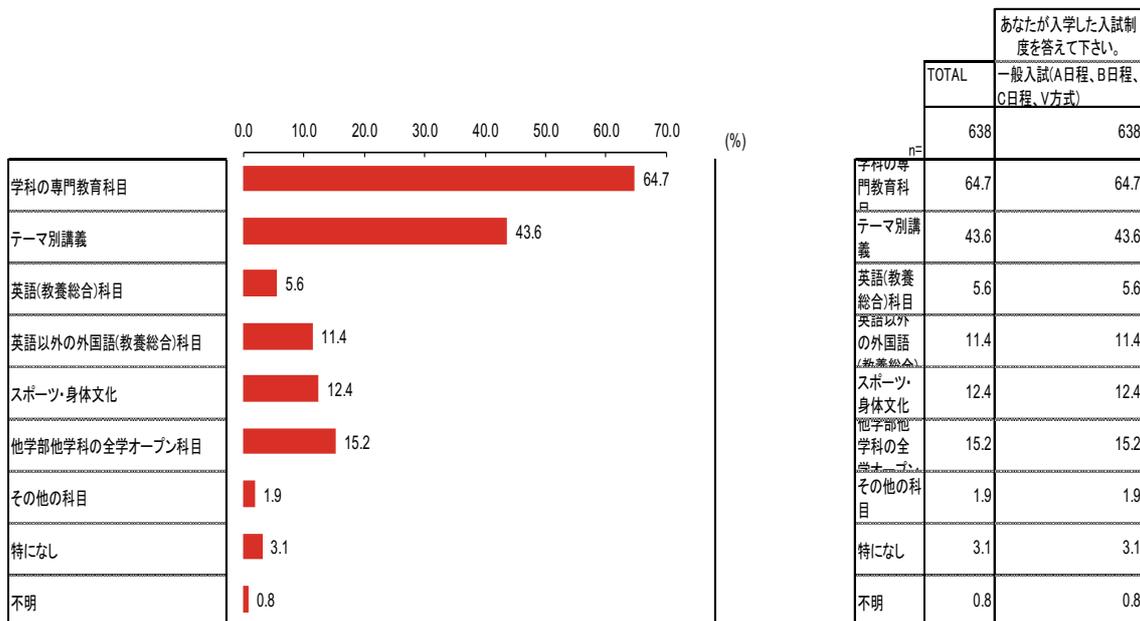
●TOTALでは、「特になし」が36.2%と最も高く、次いで「英語(教養総合)科目」が25.6%、「英語以外の外国語(教養総合)科目」が12.7%となっている。



一般入試（A日程、B日程、C日程、V方式）で入学した学生の、満足度の高いものはどれですか。（複数回答可）

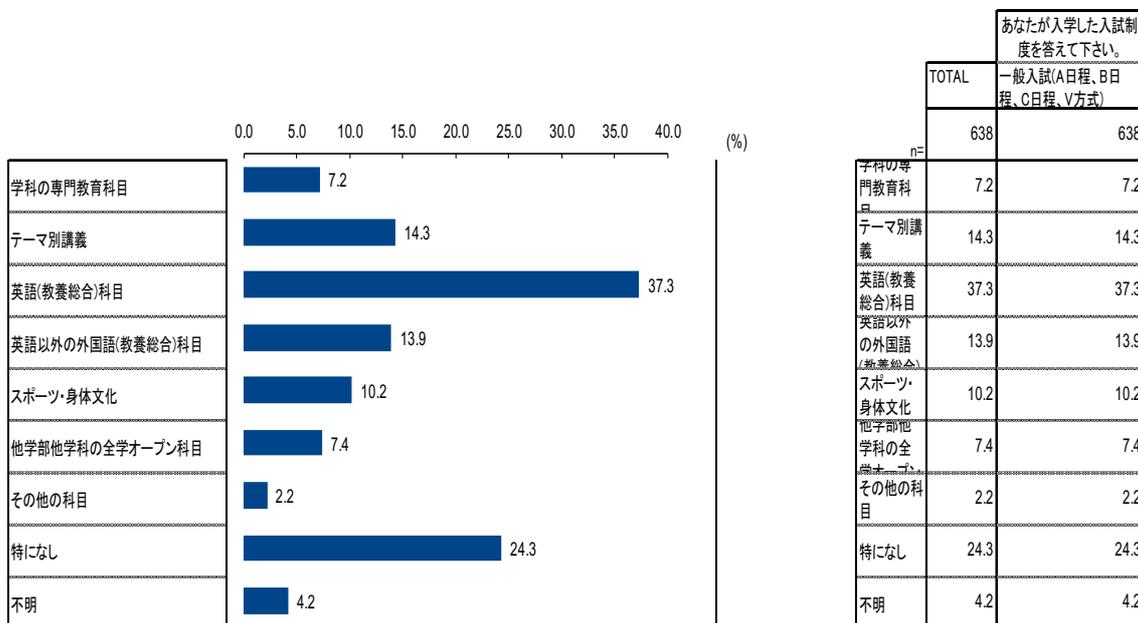
●表側：あなたが入学した入試制度を答えて下さい。

●TOTALでは、「学科の専門教育科目」が64.7%と最も高く、次いで「テーマ別講義」が43.6%、「他学部他学科の全学オープン科目」が15.2%となっている。



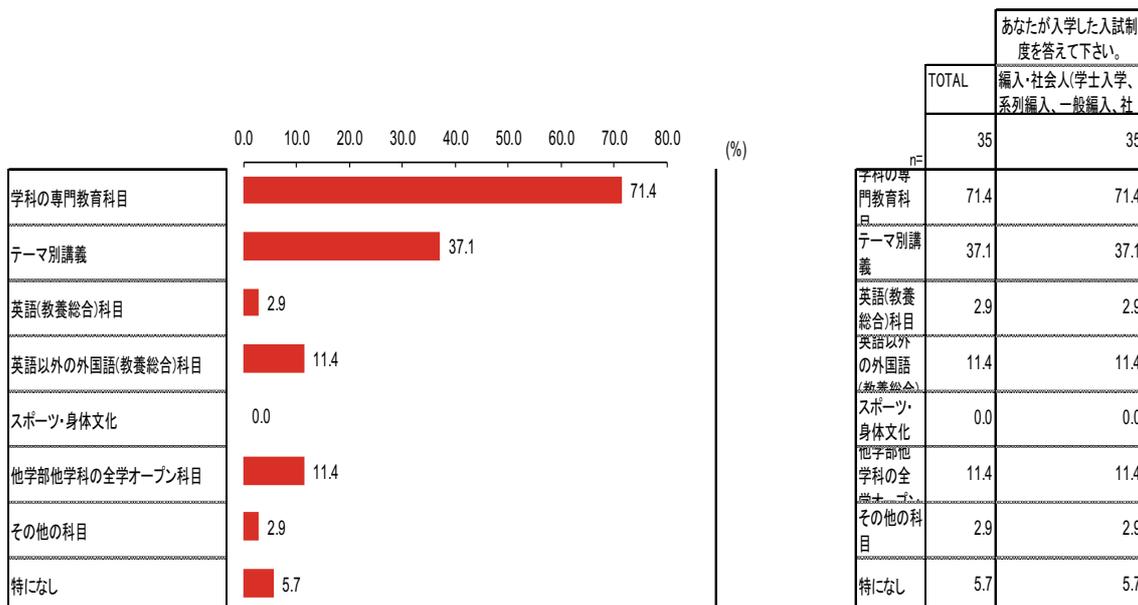
一般入試 (A日程、B日程、C日程、V方式) で入学した学生の、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

- 表側: あなたが入学した入試制度を答えて下さい。
- TOTALでは、「英語(教養総合)科目」が37.3%と最も高く、次いで「特になし」が24.3%、「テーマ別講義」が14.3%となっている。



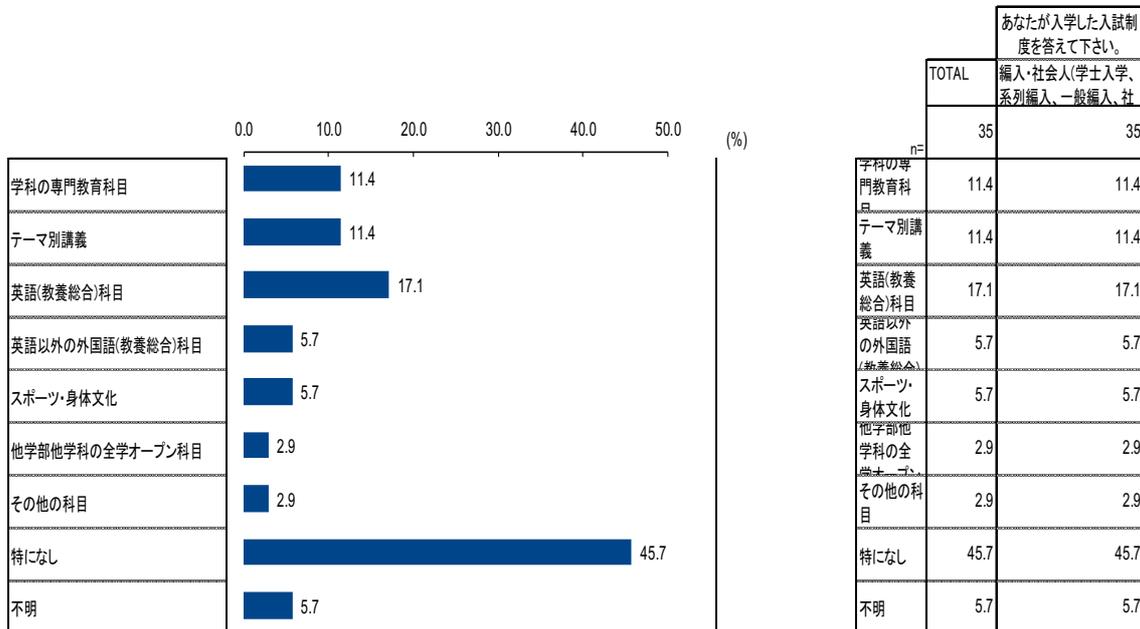
編入・社会人 (学士入学、系列編入、一般編入、社会人入試) で入学した学生の、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

- 表側: あなたが入学した入試制度を答えて下さい。
- TOTALでは、「学科の専門教育科目」が71.4%と最も高く、次いで「テーマ別講義」が37.1%、「英語以外の外国語(教養総合)科目」と「他学部他学科の全学オープン科目」が11.4%となっている。



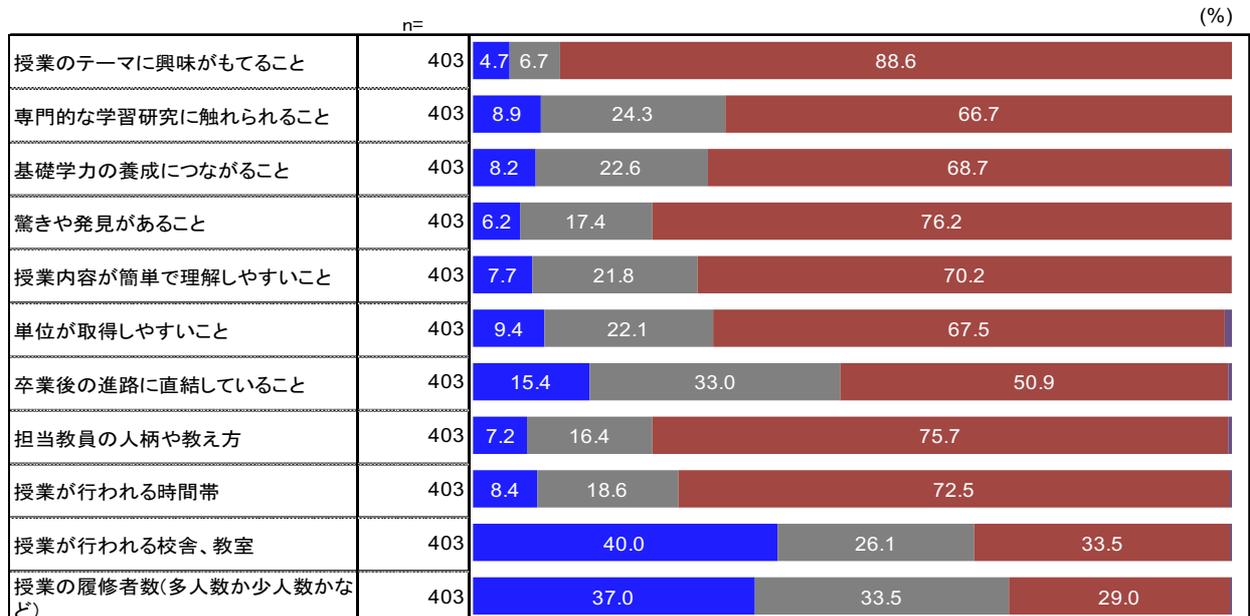
編入・社会人(学士入学、系列編入、一般編入、社会人入試)で入学した学生の、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

- 表側: あなたが入学した入試制度を答えて下さい。
- TOTALでは、「特になし」が45.7%と最も高く、次いで「英語(教養総合)科目」が17.1%、「学科の専門教育科目」と「テーマ別講義」が11.4%となっている。



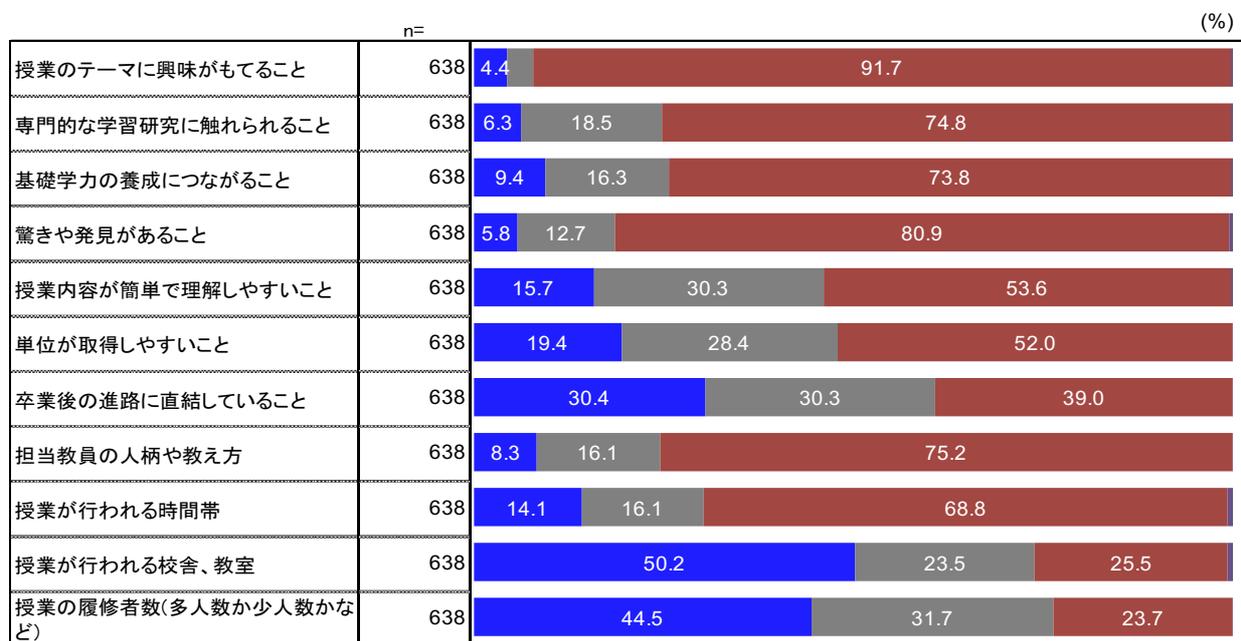
***推薦系入試(公募制自己推薦、院友子弟特別選考、指定校推薦、系列推薦、スポーツ推薦)で入学した学生の授業満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。[TOP2BOTTOM2]**

- 重視しない/あまり重視しない
- どちらでもない
- まあ重視する/重視する
- 不明



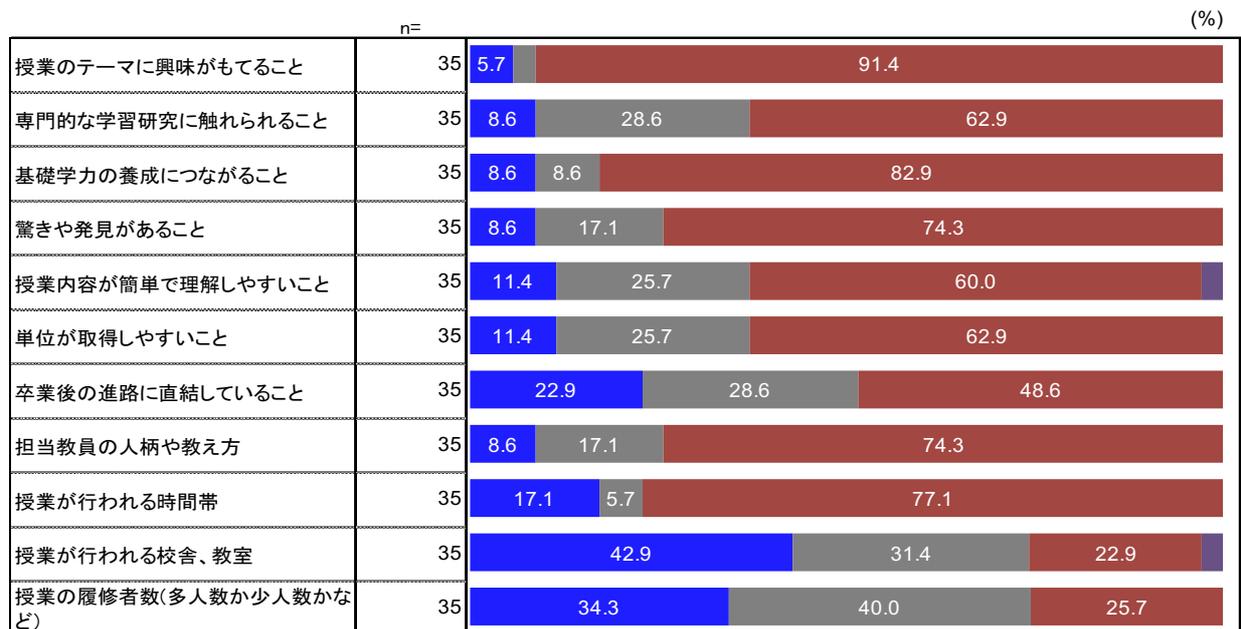
***一般入試 (A日程、B日程、C日程、V方式) で入学した学生の授業満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。 [TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



***編入・社会人 (学士入学、系列編入、一般編入、社会人入試) で入学した学生の授業満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どの位重視しますか。 [TOP2BOTTOM2]**

■ 重視しない/あまり重視しない ■ どちらでもない ■ まあ重視する/重視する ■ 不明



設 問	回 答 欄																																																												
Q6-3 Q6-2で挙げられた項目以外に、あなたの授業満足度に直結するような項目があれば、具体的に記入してください。 <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																																													
Q6-4 テーマ別講義のよりくわしい満足度はどの程度ですか。 1. 満足 2. おおむね満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満	1つ 選択 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>																																																												
Q6-5 Q6-4の答えにいたった理由をくわしく記入してください。 <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																																													
Q6-6 他学部他学科の全学オープン科目のよりくわしい満足度はどの程度ですか。 1. 満足 2. おおむね満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満	1つ 選択 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>																																																												
Q6-7 Q6-6の答えにいたった理由をくわしく記入してください。 <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																																													
Q8 履修者が多数になるために事前登録（抽選）が必要な教養総合科目（外国語科目を除く）や専門教育科目の数について、どのように感じますか。 1. 妥当 2. おおむね妥当 3. 特に意見はない 4. やや多い 5. 多すぎる	1つ 選択 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>																																																												
Q9 CAP制（年次別履修単位制限）の単位数について、どのように感じますか。 1. 妥当 2. おおむね妥当 3. 特に意見はない 4. やや少ない 5. 少なすぎる	1つ 選択 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>																																																												
Q10 あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。 1. 満足 2. おおむね満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満	1つ 選択 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>																																																												
Q11 卒業論文について、どのように感じますか。 1. 必修が妥当 2. 選択が妥当 3. 必要ない	1つ 選択 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>																																																												
Q12 あなたが履修している教職・資格課程を教えてください。（複数回答可） 1. 教職 2. 博物館学 3. 図書館・学校図書館司書 4. 社会教育主事 5. 神職 6. なし ※Q13-1 へ	複数回答可 <input style="width: 100%; height: 30px;" type="text"/>																																																												
↓																																																													
※教職・資格課程履修者（Q12で、「1」～「5」のいずれかを含む回答をした方）のみ教えてください。																																																													
Q13-1 本学の教職・資格課程のカリキュラムについて、どのように感じますか。 1. 満足 2. おおむね満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満	1つ 選択 <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>																																																												
Q13-2 Q13-1の答えにいたった理由をくわしく記入してください。 <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																																													

平成 28 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	法学部
事 業 名	法学部におけるアクティブラーニング導入及び初年次教育の手法の研究
平成 27 年度実務担当者名	森川隆
事 業 の 概 要	
<p>本年度の法学部 FD の三つの柱は①アクティブラーニングの導入と②初年次教育の改革、そして③平成 29 年度からの新カリキュラム導入に向けた検討であった。</p> <p>当初、これらを同時並行的に進めることを予定していたが、執行部との協議の結果、③に重点を置くことになった。これは、新カリキュラムの導入が極めて抜本的な改革となるため、様々な混乱が予想されたことから、円滑に新カリキュラムに移行できるようにするために詳細な制度設計と綿密なシミュレーションが要請されたからである。そこで、前年度の報告原案をまとめた現学部 FD 委員を含む「新カリキュラム原案起草委員会」が設けられて、同起草委員会で新カリキュラムの制度設計に関わる検討が進められた。</p> <p>そこで、本年度の FD 事業においても、平成 30 年度に新カリキュラムの制度設計に協力し集中することに目標を変えた上で、実定法担当の専任教員と協議を続けて、カリキュラムの具体的な改定案、そして、開講シミュレーションに関わった。具体的には、教員個人の FD に関する努力では解決できない問題（例えば、受講者数が多過ぎることによる授業への弊害や配当年次や要卒要件が不適切であるために生じる問題など）をさらに洗い出した上で、どのようなカリキュラムを構築すれば、より効果的な教育効果が上がるのかを検討した。さらに、検討結果を踏まえた上で、民事法・刑事法・公法の三つの部門ごとに定期的なヒアリング調査と意見交換を実施し、新カリキュラムの導入について要望を集めると共に、新カリキュラムの意義について説明することにした。</p> <p>このような情報共有の機会を多数設けたことから、実定法担当の専任教員から概ね賛同を得ることができたと考えられる。また、その成果を 3 月 4 日に予定されている法学部協議会で法学部全専任教員で共有する予定である。</p> <p>他方で、①についても、アクティブラーニングの活用手法と効果を検証することとした。具体的には、高橋担当の「行政法 1」（履修者 300 名弱）において、授業前の予習テストと授業時のビデオ教材の二つを導入し、受講生に対してアンケート調査を実施した。このアンケート結果を踏まえて、他の通常型の授業と比べてどれだけ学習成果や満足度が上がっているかを測定し、その結果を 3 月末までにレポートとしてまとめ作成し、法学部の専任教員間で共有する予定である。また、ここで得られた知見は、平成 29 年度に予定されている初年次教育の制度設計（教材作成等を含む）でも活用することを考えている。</p>	

教育開発推進機構長殿

経済学部長 尾近 裕幸

平成 28 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	経済学部
事 業 名	基礎演習 A・B における外部評価を通じた授業改善
平成 28 年度実務担当者名	細井 長
事 業 の 概 要	
<p>以下、本年度実施した推進事業の概要について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>経済学部では平成 28 年度から、1 年前期必修科目「基礎演習 A」ならびに 1 年後期義務履修科目「基礎演習 B」において、全 23 クラスがアクティブラーニングのひとつであるグループワーク形式の授業を導入することになった。平成 27 年度の基礎演習ではトライアルとして 24 クラス中 15 クラスがグループワーク形式で行い、FA（学生ファシリテーター&アドバイザー）を 1 名ずつクラスに配置したが、統一内容で授業を行っているにもかかわらず、各教員ならびに FA の間での様々な「ばらつき」が目立った。初めて経験する教員も多い中、全クラスにグループワーク形式を導入するにあたって、こうした「ばらつき」を少なくし、より授業の内容や質を向上させるために、当該形態の教育手法に実績のある第三者によって授業内容や運営に対して評価を行ってもらい、助言を受けることにより各教員・FA がより一層の能力とスキルを向上させ、経済学部の初年次教育として重要な位置付けである基礎演習の改善を目指すものである。</p> <p>立教大学等でグループワーク形式授業の支援実績があり、平成 27 年度の「基礎演習 A・B」や「経営学特論（リーダーシップ）」において支援を依頼した株式会社イノベストに以下の内容を委託し、授業内容の改善と各教員・FA の授業運営能力とスキルの向上を図るものである。</p> <p>①授業・会議見学を通じて授業評価を受ける。 ②毎月の授業改善レポートを提出してもらう。 ③授業総括レポートを提出してもらう。 ④外部アドバイザーとしての役割を担ってもらう。</p> <p>本事業の計画は以下のように進めた。</p> <p>①授業期間中、全 23 クラスの授業を見学してもらい、授業内容や運営、FA の活用について評価してもらうとともに、改善のためのアドバイスを受ける。 ②毎月の授業改善レポートを提出してもらい、毎月 1 回実施予定の基礎演習担当者会議（教員・FA 双方が参加）において助言を行ってもらう。 ③学期末に総括レポートを提出してもらう。</p> <p>以上のプロセスを通じて、授業運営の課題を第三者の視点で指摘してもらい、直近ないしは次年度以降に向けた「基礎演習 A・B」の授業改善を図る。</p> <p>以上が、平成 28 年度経済学部の学部 FD 推進事業の概要である。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、**本年度実施した推進事業の結果**について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

申請時は以下のように計画していた。

本事業の実施状況・把握方法として、毎月および学期末のレポート提出をうけ、担当者会議においてその内容を提示し、担当者全員で改善方法を議論し、それぞれの授業に取り入れていくことになる。担当教員が互いに他者の利点を知り、弱点についてのアドバイスを受けることによって授業を改善し、基礎演習の質が向上し、「ばらつき」が低減していくことを経済学部教務委員会が点検を行う。そうした改善を通じて履修学生の満足度が高まり、学習に対する意欲を向上させていくことを学期末の学生に対するアンケート調査で確認する。

平成 28 年度前期については月 1 回のペースで（FA を含めた）担当者会議が開催され、イノベスト社からの報告を受けた。同社の報告は担当教員にとって自らの授業運営や改善に有益なものであったと教務委員会では判断しているが、この担当者会議への教員の出席率が非常に低迷であった。水曜日に他の会議等との調整を付けることが難しいことはその要因のひとつである。なお、学期末の総括レポートについては、担当者全員に提示することが担当教員同士の軋轢を生む可能性が否定できなかったため、教務委員会内での共有にとどめるという判断を行った。この総括レポートで示された提言は、次年度以降の授業改善に教務委員会が役立てるものとする。

上述の状況から、下記に記すような申請当初期待された効果は半分も達成されていないといえよう。担当者による「ばらつき」は解消されず、統一内容で行うようになったがゆえにそのことを「再認識」することになった授業参観結果がイノベスト社から出されている。

従来の基礎演習は必修科目であり、学生が（ゼミと異なって）教員を選択できないにもかかわらず、各教員が独自のやり方で行っており、担当者による「ばらつき」が非常に大きく、学生の満足度や 2 年時以降の学習態度の形成に大きな差が見られた。全担当者の状況を全員で共有し、第三者の視点から助言を受けることにより、必修かつ初年次教育として重要な科目の質にかんする「均質化」を図る。また、FA の効果的な活用方法についても助言を受けて改善していくことが期待されよう。

しかしながら、イノベスト社のレポートは「FA」の重要性を指摘し、FA の役割は授業改善や均質化の大きな鍵になり得るとされる。平成 28 年度にイノベスト社が行った FA を対象とするワークショップ（月 2～3 回実施）により、FA のスキルは大きく向上し、FA の存在は受講生からの評判もおおむね良好であった。FA 育成に同社が果たした役割は大きく、この点は「手探り状態」であった我々にとって大変ありがたいものであった（ただし、FA 育成についても次年度以降の課題は残っており、また FA に対する教員間での評価も様々であることを付言しておく）。

今 後 の 展 望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

授業評価を受けた結果として、今年度、経済学部教務委員会が多大な努力を行ったにもかかわらず、担当者による「ばらつき」は改善できなかった。また、基礎演習の教育目標の明確化がなされていない（不十分）との指摘もあり、次年度以降の課題となる。

担当者間の「ばらつき」は当初から想定されたことではあったが、全クラス同一内容で実施しているにもかかわらずここまで「ばらつき」が大きいことは、全 23 クラスをひとつの「目」で見ることにより明らかになった事実である。これまでは学生アンケートのようなものから断片的にすくい上げることしかできなかった。この「ばらつき」は、担当者の初年次教育やアクティブラーニング型授業に対する能力や意欲の差が如実にあらわれた結果であろう。そして、改善点を共有しようにも会議の場に出席しない（できない）教員が半数近くいる現状もある。積極的に共有する機会を設定しようとしなかった教務委員会としての反省もある。結論として、教員を「均質化」した基礎演習運営はかなり困難なものである、ということがいえる。教員均質化をはかり「ばらつき」をなくすためには、現在いる教員の意識や指導能力を改善することには限界があり、今般の英語教育改革のように「外注化」することが均質化の近道であるが、それもまた短期間に実現することは難しいだろう。

そこで、注目すべきは「FA」の存在である。もちろん、個々の FA 間の能力の差は存在するが、それをうまく育成し、活用することにより、FA を通じて授業改善を図り、ばらつきを低減させ、受講生の満足度を高めていくことが重要であることを、平成 28 年度学部 FD 推進事業による外部評価を受けて認識するに至った。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

経済学部の基礎演習で行っている取り組みは、学生同士の「ピア・サポート」であり、それが教員ないしは授業全体の改善となり、受講生の満足度が高まるというものであり、次年度以降、よりその効果を高めるべく取り組んでいく所存である。教員「だけ」の意識改革では基礎演習の授業改善は達成できないことが、今回の外部評価を通じて認識させられた。

単なる補助的業務を行う学生スタッフ制度は本学にも存在するが、経済学部の場合はそれを超えて受講生に対して「アドバイス」や「ファシリテーション」を行う役割を担っている。ある意味、「一線」を超えている。その「一線」を超える判断を他学部ができるかどうかは分からない。経済学部は初年次教育においてそのような必然性があったからこそ踏み出すことができた。もし、本学に存在する従来の制度から一歩進んだ取り組みを行うという意味があり、その判断をすることができれば、他学部にもその経験を活かすことができるだろう。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基づき執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

委託費として年間 100 万円の予算を認めていただき、前期分として 50 万円、後期分として 50 万円をイノベスト社に委託費として支払った。特段問題はなく、適切であったと考えている。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

以下の内容を報告する予定である。

- ・総括レポートに記された結論と提言の説明
- ・総括レポートから明らかになった基礎演習運営の課題
- ・それを受けた次年度 FD 推進事業の方向性の説明

経済学部平成 28 年度学部 FD 推進事業の成果
～外部評価からみた基礎演習の課題～

経済学部教務部委員
細井 長

平成 28 年度事業の概要

- ▷基礎演習 A・B の外部評価をイノベスト社に委託
 - 授業参観に基づく科目改善提案
 - FA 制度化と組織化
 - 受講生アンケート実施とその分析

報告書からの指摘（前期）

- ▷平成 27 年度に比べ、受講生が活発に授業に取り組んでいる
 - 教員と FA のファシリテーション能力が向上
 - 教員と FA 間のコミュニケーション機会が増えた
 - FA が授業運営に関して改善提案を行う
- ▷FA 制度化と組織化
 - 毎月の定例ミーティング開催によるスキル向上

報告書からの指摘（後期）

- ▷アンケート調査結果（FA の学習支援行動の相違）
 - FA の学習支援行動における重要な点
 - ①リフレクション・サポート：受講生が授業で経験したことを継続的に振り返ることができるように支援する行動
 - ②ストレッチ・サポート：授業の中で振返の素材となるようなストレッチ経験を積むことを支援
 - 受講生が基礎演習から得るもの
 - 大学生の学習基盤、能動的な学習態度、学術への興味関心
 - 未だ未整備である基礎演習の学習目標の明確化
 - 目標に沿った FA に必要な知識スキルの定着と強化の仕組みが必要

指摘を受けての課題

- ▷教員の指導力、意識のバラツキ
- ▷FA の指導力、意識のバラツキ
 - 教員の指導力、意識を短期間に変えることの困難さ
 - FA の資質を向上させることが必修科目としての質を平準化させる近道

平成 28 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学部名	神道文化学部
事業名	学生に対する効率的なアンケート・学力調査ならびに有識者の外部評価による授業運営・学部運営の改善化
平成 28 年度実務担当者名	遠藤 潤
事業の概要	
<p>以下、本年度実施した推進事業の概要について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>神道文化学部では、過年度の学部 FD 推進事業において同様の事業を遂行し、授業の改善や学部の諸行事の企画をおこなってきた。その結果、卒業延期率は改善をみている。ただ、今後もさらに卒業延期率の改善は求められ、また修学状況のよくない学生への対応も必要であり、この事業で学生の状況を把握したい。昨年度、大学基準協会からは別科・専攻科の自己点検体制の不備を指摘された。制度的な整備ももちろん必要であるが、すでに学部として遂行しているアンケートを別科・専攻科においても実施することによって改善をはかりたい。また、課題となっていた外部評価についても、神道・宗教に関する大学教育を熟知した外部研究者による評価を実施したい。</p> <p>具体的には、下記のアンケート・調査、外部評価ヒアリングを実施する。</p> <p>A アンケート・調査</p> <p>①学生アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生意識調査（入学時） ・オリエンテーション・アンケート（オリエンテーション終了後） ・2年次の進路希望調査（後期「神道文化演習」における奉職・就職ガイダンス時） ・院友神職会からの教育補助費で実施している課外講座でのアンケート（適宜） ・卒業生アンケート（卒業時） <p>②神道に関する基礎学力診断（試験）…新入生（編入生・社会人等含む）の神道における基礎学力診断と1年後の到達度（入試形態別による分析等）調査。</p> <p>B 外部評価</p> <p>評価者として、神道・宗教に関する大学教育を熟知している研究者2名に依頼する。評価者には、学部のカリキュラム、運営のあり方、学部行事などに関する基本資料を閲覧していただいた上で、秋に國學院における実施調査とそれにもとづく懇談会を行う。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、**本年度実施した推進事業の結果**について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

A アンケート・調査

- ① 学生アンケートについては、次のように実施した。すなわち、新入生意識調査（入学時）については、平成 28 年 4 月の学部学科ガイダンスの際に 210 名の新入生を対象に実施した。オリエンテーション・アンケート（オリエンテーション終了後）については、2 回（4 月 2 日、4 月 17 日）にわたって実施したアイスブレイクのうち、後者の終了時に当日のアイスブレイク参加者を対象に実施し、187 名の回答を得た。2 年次の進路希望調査については、後期「神道文化演習」における奉職・就職ガイダンス時にアンケート用紙を配布し、在籍者 211 名のうち、授業当日の出席者である 163 名からの回答を得た。院友神職会からの教育補助費で実施している課外講座でのアンケートとして、書道講座や就職講座でのアンケートを実施したが、これは今回の FD 推進事業でのアンケートの予算執行には含めていない。これらのアンケート結果については、業者による集計作業を経た上で、データの整理・分析を学部で行い、各アンケートがまとまるごとに学部教務委員会で概略の紹介をするとともに、「平成 28 年度神道文化学部 FD 推進事業中間報告書」にまとめた。最終的な報告書は年度終了後に作成し、学部教務委員会および学部教授会で配布する予定である。平成 29 年 3 月に挙行予定の卒業式および卒業証書授与式において、卒業生アンケートを実施する予定である。これはアンケート実施ならびに予算執行が締め切られた後の時期であることからして当然ではあるが、平成 29 年度に入ってから集計・分析となる。
- ② 神道に関する基礎学力診断（試験）については、新入生（編入生・社会人等含む）の神道における基礎学力診断と 1 年後の到達度（入試形態別による分析等）調査を行った。具体的には開講年次 1 年の「神道概論」（通年）の授業の初期と終期においてそれぞれ基礎学力をはかる試験を実施し、2 つの時期の成績の比較など多角的な分析を進めた。

B 外部評価

皇學館大学教授の櫻井治男先生を評価者として、平成 29 年 3 月 1 日 13 時から夕刻まで実施した。評価者には、事前に、学部のカリキュラム、運営のあり方、学部行事などに関する簡潔な基本資料や大学や学部の HP などでの公開情報などをつぶさに閲覧していただいた上で、多岐にわたる意見や指摘がなされ、さらに質疑応答・意見交換が行われた。

今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

複数年度同様のアンケート調査を実施しているため、まずは継続的に下記の活用をしていることを述べておきたい。すなわち、全学的に実施している新入生の入学時の学力診断と、学部独自の基礎学力診断と新入生アンケートをあわせて分析し、初年次教育改定の基礎資料として活用している。入学時学力診断によって、あくまで他学部と比較してということになるが、神道文化学部の学生の学力傾向を測定し、さらにそうした基礎科目でははかれない神道関係の学力について 1 年間の習熟度を把握し、それをふまえて神道文化基礎演習や神道概論の内容を検討している。他方、神道文化基礎演習には平成 27 年度の一部クラスでのグループディスカッションの実施を踏まえて、平成 28 年度からは全クラスに導入したが、授業で各教員が具体的に受ける学生からのリアクションと、FD 推進事業でのアンケートを通じて理解されるアイスブレイクでの学生の反応とあわせて、その方法の効果を検討する材料としている。奉職・就職意識アンケートでは、神道文化学部の学生の奉職・就職意識（特に志向性）に平成 27 年度よりもさらに変化が見られることが判明し、これらのデータを生かして、学部による奉職・就職のための諸施策（セミナーの実施、情報提供）の展開を検討したい。外部評価ヒアリングにおいては、神道文化学部からの情報開示とそれに対する意見はもちろんのこと、評価者による学部サイトの分析・評価によって学部広報ばかりでなく、学部の季節的な活動の特徴などについても有益な指摘を得られた。外部者の眼によって、学部の研究・教育やそれに関わる諸活動について新しい光が当てられ、内部者の自覚がなかった部分について気づかされた。今後の学部運営におおいに有効であろう。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

「学士課程教育」については、現状において本学では多数の教員のあいだで共通のイメージを結んでいるとはいいがたいため、ここで「学士課程教育」ということばに照らして神道文化学部の FD 推進事業がどれくらい評価しうるのか定めがたい一面も少なくないが、1 年次の教育においてアイスブレイクから前期の神道文化基礎演習への流れを作ろうと努力している点、およびその効果をアンケートによってまがりなりにも測定しようとしている点は学士課程教育全体の改善にも資するところがあるように思われる。まだ 3 年間という短い期間での集計であるため、経年変化ということは測定しがたいが、しかし例年同様のアンケートを実施しているため、学年ごとの特性のようなものはおぼろげながら数値的にも把握できる可能性があり、特に 1 年生を対象とする教員にとって、教室での学生の印象のみならず、学生の状態を理解する数値的な指標としうと思われる。アンケート項目についてはまだまだ不備な点もあり、今後、教育により適切にフィードバックするためにはどのような項目が必要という検討は不可欠ではあるが、1 年次を対象としたアンケートは一定の有効性を持っていると考えられる。また、方法の上ではワードで作成した質問紙が短時間かつ比較的安価に集計用紙に変換されること、また集計作業も比較的短時間で済むことなどから、アンケートの頻度をあげて実施したい場合には、対費用効果の面からいっても有効性のある手法をとっているように思う。

外部評価ヒアリングについては、初回で試行的な意味合いも大きかったため、本学の研究教育についてすでによく理解している皇學館大学の櫻井先生に評価者としてお越しいただいた。今回の外部評価では、評価項目の設定もさながら、まずは実質的な改善のために何か必要かということ、また今後のためにどういう評価項目や観点が必要なか模索したという面もあった。結果的には Web サイトが単に広報のためではなく、学部の活動を（これからの学生）に伝える手段であるとともに在学生への教育の補助手段となる可能性について示唆をいただき、この点学部を越えて共有できると考えられる。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

〈中間報告前〉

- ・4月：新入生意識調査（入学時）に係る諸経費
- ・4月：オリエンテーション・アンケート（オリエンテーション終了後）に係る諸経費
- ・4月：神道に関する基礎学力診断（試験）〈第1回〉
- ・これらの整理のための臨時雇員の費用

〈中間報告後〉

- ・10月：2年次の進路希望調査（後期「神道文化演習」における奉職・就職ガイダンス時）
- ・1月：神道に関する基礎学力診断（試験）〈第2回〉
- ・これらの整理のための臨時雇員の費用
- ・3月：外部評価ヒアリングに係る諸経費

以上のように、アンケート・調査については、実施時期はいずれも予定どおりであり、また業者による集計作業もアンケート・調査実施の時期にあわせて依頼しているため、執行は計画通りである。ただ、業者による集計作業の委託費については、予算では新たなアンケートの可能性も含めて多めに設定されていたこともあって、執行率はややよくない。ただ、予定していたアンケートを十全に実施していること、またそのための費用が低く押さえられたこと、として評価される。

外部評価ヒアリングについては、当初2名の評価者を想定していたが、前述のように初回で試行的であるという性格に鑑みて、評価者を1名に絞るという変更を行った。経費の執行時期としては、特に問題はないと考えるが、執行額についてはこの変更が影響している。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

A アンケート・調査

A-1 アンケート・調査の概要

- ①4月：新入生アンケート、②4月：オリエンテーション・アンケート、③4月：神社に関する基礎知識調査、④10月：2年生就職奉職アンケート、⑤3月：卒業生アンケート（これから実施）

A-2 アンケート・調査の実施方法

- ① 全体の流れ、②業者への委託内容、③質問紙の実際、④集計作業、⑤整理・分析

A-3 集計結果の概要

B 外部評価ヒアリング

B-1 実施の概要

B-2 外部評価ヒアリングのための諸資料

B-3 評価資料としての学部 Web サイト

B-4 外部評価ヒアリング当日の内容

B-5 学部が得たもの

C 全体総括

学生に対する効率的なアンケート・学力調査ならびに有識者の外部評価による授業運営・学部運営の改善化

平成29年3月10日 平成28年度学部FD推進事業報告会

遠藤潤 (神道文化学部)

I 学部独自アンケートの実施

①新入生アンケート

質問項目と回答の例

- Q1. 合格した入試形態 (コース/入試形態)
- Q2. 受験を検討するために参考にしたもの
- Q3. 受験を検討する際にアドミッション・ポリシーを参考にしたか。
- Q4. 受験を決定する際にアドミッション・ポリシーを参考にしたか。
- Q5. ぜひ学んでみたい授業科目
 - ①神道史学 34.29%
 - ②祭祀学 21.43%
 - ②神道神学 21.43%
 - ④宗教学 20.00%
 - ⑤祝詞作文 16.67%
 - ...
- Q6. 関心のある履修モデルはどれか。
 - C: 神道の社会的実践を学びたい。 32.38%
 - A: 神道の歴史 (古代・中世) を学びたい。 27.62%
 - E: 日本の伝統文化を学びたい。 25.24%
 - D: 宗教文化を広く学びたい。 21.90%
 - B: 神道の歴史 (近世・近代) を学びたい。 17.62%
- Q7. コンピュータやインターネットへの関心はあるか。
- Q8. 在学中に留学や語学研修をしてみたいか。
- Q9. 神職階位の取得を希望するか。
- Q10. 関心があるのは、神道文化コースか、宗教文化コースか。

②オリエンテーション (アイスブレイク) アンケートから

- Q4. 学内でのアイスブレイク (4月2日) や明治神宮でのアイスブレイクで最もおもしろかったもの

③2年生就職意識アンケート

- A. 男子学生
 - (1) 就職希望先
 - (2) 一般企業での希望職種
- B. 女子学生
 - (1) 就職希望先
 - (2) 一般企業での希望職種

④神社に関する基礎知識試験

- 【実施日】
 - [前期] 平成28年4月9日 (金) 3限・11日 (月) 6限 授業「神道概論」内
 - [後期] 平成29年1月20日 (金) 3限・23日 (月) 6限 授業「神道概論」内
- 【在籍人数と受検者】

- 在籍人数（新入生）：全240名（A74・B166）
 - 前期受検者：265名（新入生201名）
 - [フレックスA：100名（新60名・他35名・不明5名）]
 - [フレックスB：165名（新141名・他21名・不明3名）]
 - 後期受検者：203名（新入生182名）
 - [フレックスA：80名（新65名・他15名）]
 - [フレックスB：123名（新117名・他6名）]

II 外部評価ヒアリング

概要

- 日時：平成29年3月1日（水）13時～17時30分（予定）
- 場所：神道文化学部 学部長室
- 出席者：
 - 外部評価者：櫻井治男先生（皇學館大学文学部）
 - 出席者（國學院大學神道文化学部）：
 - 武田秀章（学部長）
 - 西岡和彦（副学部長）
 - 遠藤潤（教務部委員）
 - 松本久史（入学試験委員）
 - 加瀬直弥（入学部委員）
 - 藤本頼生（就職部委員）
 - 星野光樹（教務委員、記録）

内容

1. 神道文化学部の概況—現状と主な課題—（武田学部長）
2. 入学試験・入学（松本入学試験委員・加瀬入学部委員）
 - 入学試験の現況と課題
 - 入学に関する現況と課題
 - 入学に関する学部独自の取り組み
 - （新）アドミッション・ポリシーについて
 - 櫻井先生（外部評価者）からの質疑・意見
 - 意見交換
3. 教務・カリキュラム（遠藤教務部委員）
 - （新）カリキュラム・ポリシーについて
 - （新）ディプロマ・ポリシーについて
 - 全学の教務に関する課題
 - 学部の教務・カリキュラムの現況と課題
 - 教務・カリキュラムに関する学部独自の取り組み
 - 櫻井先生（外部評価者）からの質疑・意見
 - 意見交換
4. 就職・奉職（藤本就職部委員）
 - 学生の進路（就職・奉職、進学ほか）の現況と課題
 - 就職・奉職に関する全学的取り組み
 - 就職・奉職に関する学部独自の取り組み
5. その他
6. 総合的な意見交換
 - 学部長から
 - 副学部長から
 - 櫻井先生から

- 意見交換

7. 学部長による総括

参考資料・根拠資料

- 神道文化学部公式サイト（特に「お知らせ」の過去の記事）
- 『國學院大學130年記念誌』：大学・学部の概要
- 『学校法人國學院大學統計資料』：『統計資料』と略記
- 『入学案内』（過年度含む）：藤本
- 『履修要綱』（平成24～平成28年度）
- 『時間割表』（平成24～平成28年度）
- 平成28年度シラバス
- 共通教材
 - 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』
 - 『國學院大學の130年』
 - 『プレステップ 宗教学』
 - 『プレステップ 宗教学』第2版
 - 『プレステップ 神道学』
- 『FD事業報告書』（過年度も含む）
- 『自己点検・評価報告書』（平成16年度・平成19年度、平成22年度、平成26年度）
- 『教育・研究活動報告書』（平成16年度・平成19年度、平成22年度、平成26年度）
- 『神道文化学部ガイドブック』（過年度、平成28年度）
- 3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）
- （準備資料）神道文化学部教授会資料（平成27年度、平成28年度）
- （準備資料）神道文化学部教務委員会議事録（平成27年度、平成28年度）
- 「学部FD推進事業」申請書
- 「学部FD報告書」
- （参照のみ）『國學院大學規程集』
- 「観月祭リーフレット」
- 『神社新報』各種記事
- 「神道文化基礎演習」うちあわせ会議資料
- 「神道文化演習」うちあわせ会議資料
- 「基幹演習案内」平成29年度版
- （『教育開発ニュース』関連記事）

注目すべき点

- 外部評価者は、
 - 「入学試験・入学」、「教務・カリキュラム」、「就職・奉職」の説明に対する意見と質問
 - 神道文化学部Webサイト記事のカテゴリー別分類するとともに、時期を分析。
 - Webサイトの分析を通じて、神道文化学部の年間活動を把握し、意見や助言を述べる。
 - 発信機能の有効利用についても指摘があった。
- 学部各担当者にとっては、
 - 「入学試験・入学」・「教務・カリキュラム」・「就職・奉職」についての現状理解の深化
 - 各分野について、具体的な指摘を受けた。
 - Webのさらなる有効活用の可能性
 - Webと関係づけながらの（各分野に即した）学生ケアの可能性について示唆されるところが大きかった。



神道文化学部平成 28 年度新入生アンケート

1. 合格した入試形態はどれですか。あてはまるものに✓をつけてください。

<記入上のご注意>

良い例 ✓	悪い例 ○	○V 丸で外れて 囲む いる	○ 薄い
----------	----------	----------------------	---------

コース： フレックス A (夜間主) フレックス B (昼間主)

入試区分： 一般入試

推薦入試： 神道・宗教 指定校 スポーツ 系列3校 神職養成

特別選考： AO 院友子弟 留学生 社会人

学士・編入： 学士入学 編入学

2. 神道文化学部受験を検討する際に参考にしたものは次のうちどれですか。あてはまるものすべてに✓をつけてください。

- 書店で販売している大学入学案内や合格体験記など
- 予備校・塾などが独自に作成している入学案内資料
- 各種偏差値ランキング
- ウェブサイト上のさまざまな情報
- 高校の先生からの情報・アドバイス
- 國學院大學のオープンキャンパス
- 親や友人・知人などからの口コミや評判
- 國學院大學が発行しているパンフレット
- 神道文化学部が独自に発行しているパンフレット
- 國學院大學のホームページ
- 神道文化学部のホームページ
- 一般新聞の記事
- 『神社新報』の記事

3. 神道文化学部受験を検討する際に、國學院大學が大学として示している入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を参考にしましたか。どれか1つに✓をつけてください。

- 参考にした
- 見たが参考にしなかった
- 見なかった
- 存在を知らなかった

4. 神道文化学部受験を決定する際に、神道文化学部が示している、学部の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を参考にしましたか。どれか1つに✓をつけてください。

- 参考にした
- 見たが参考にしなかった
- 見なかった
- 存在を知らなかった





5. ぜひ学んでみたい授業科目名に3つまで✓をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 神道史学 | <input type="checkbox"/> 古典講読 | <input type="checkbox"/> 宗教学 | <input type="checkbox"/> 祭祀学 |
| <input type="checkbox"/> 神道神学 | <input type="checkbox"/> 神道思想史学 | <input type="checkbox"/> 国学概論 | <input type="checkbox"/> 世界宗教文化論 |
| <input type="checkbox"/> 日本宗教文化論 | <input type="checkbox"/> 宗教考古学 | <input type="checkbox"/> 宗教社会学 | <input type="checkbox"/> 比較文化学 |
| <input type="checkbox"/> 祝詞作文 | <input type="checkbox"/> 神社祭式概論 | <input type="checkbox"/> 神社管理研究 | <input type="checkbox"/> 神社ネットワーク論 |
| <input type="checkbox"/> 神道教化概論 | <input type="checkbox"/> 宗教行政研究 | <input type="checkbox"/> 神道と国際交流 | <input type="checkbox"/> 神道と環境 |
| <input type="checkbox"/> 神道と情報化社会 | <input type="checkbox"/> 教派神道研究 | <input type="checkbox"/> キリスト教文化研究 | <input type="checkbox"/> 仏教文化研究 |
| <input type="checkbox"/> 中東文化研究 | <input type="checkbox"/> 東アジア文化研究 | <input type="checkbox"/> 宗教芸術研究 | <input type="checkbox"/> 宗教音楽研究 |
| <input type="checkbox"/> 神道と武道 | <input type="checkbox"/> 神道と書道 | | |

6. 次の5つの履修モデルのうち関心があるものひとつ、もしくは2つに✓をつけてください。

(詳しくはガイドブック 52～59 ページ参照)

履修モデル A 神道の歴史(古代・中世)を学びたい(ガイドブック 54 ページ)

古代・中世の神社・古典や祭祀に関する学修を中心とした履修モデル。神道史学Ⅰ・ⅡA・ⅡB、宗教考古学Ⅰ・Ⅱ、神道史学演習Ⅰ・Ⅱなどを通して、古代・中世の祭祀や文献の考証および古代・中世の神道史に関する研究を重点的に学ぶ。神職課程も履修できるので、神職志望の学生にも適している。

履修モデル B 神道の歴史(近世・近代)を学びたい(ガイドブック 54 ページ)

近世・近代の神道思想や神道史に関する学修を中心とした履修モデル。近世に関しては国学概論Ⅰ・Ⅱ・神道思想史Ⅱなどを、近代については神道史Ⅱ、宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ、教派神道研究Ⅰ・Ⅱ、宗教社会学Ⅰ・Ⅱなどを履修することにより、近世・近代の神道の歴史の変遷を理解する。あわせて神職課程も履修できるので、神職志望の学生にも適している。

履修モデル C 神道の社会的実践を学びたい(ガイドブック 55 ページ)

神職を目指す学生、もしくは神社に関係のある職業に就きたい学生に適した履修モデル。祭式や神社実務、神道教化など、神職としてのさまざまな実践の技能を身につける科目はもちろんのこと、神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱや宗教行政研究Ⅰ・Ⅱなどを通じて、現代における神社の社会的役割を認識し、そのなかで自らが担い手となるための能力と意欲を高めてゆく。

履修モデル D 宗教文化を広く学びたい(ガイドブック 59 ページ)

宗教文化科目を中心に履修するモデル。宗教への全般的な知識を深めながら、世界の宗教を中心とする諸文化への理解を深め、比較文化学・宗教社会学などを学ぶ。国際化・グローバル化が進む現代社会のなかで、異文化との相互理解や自文化の説明能力が求められる企業、公務員、学校教員などを志望する学生に適している。宗教文化士の資格取得に必要な科目も多く含まれる。

履修モデル E 日本の伝統文化を学びたい(ガイドブック 59 ページ)

日本の伝統文化・基層文化に関心を持つ学生のための履修モデル。神道への理解を基礎として、日本の民俗、慣習、芸術、社会規範などを神道との関係から、さらには東アジアの文化や異文化社会との比較の視点から学ぶ。また、武道、書道、芸術、音楽などを体験的に学ぶ機会を得ることができる。

7. コンピューターやインターネットに関心はありますか。どれかひとつに✓をつけてください。

- 大いにある まあまあある あまりない まったくない その他

8. 在学中に、可能であれば、留学や語学研修をしてみたいと思いますか。どれかひとつに✓をつけてください。

- してみたいと思う 思わない わからない

9. 神職階位の取得を希望しますか。どれかひとつに✓をつけてください。

- 希望する 希望しない わからない

10. 現在、神道文化コースと宗教文化コースのどちらに関心がありますか。(ガイドブック 4 ページ参照)

- 神道文化コース 宗教文化コース 両方 わからない

以上です。おつかれさまでした。



000000000179





記入例

良い例	<input checked="" type="checkbox"/>	悪い例	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		丸で囲む	外れて	いる	薄い

きょうは、明治神宮でのオリエンテーションの参加、ご苦労さまでした。本学部では、今後も新入生の修学支援のため、さまざまな企画を実施していきたいと考えております。ついては、今後の参考のため、今日のオリエンテーションについて、下記のアンケートに記入をお願いいたします。

クラス【 フレックスA フレックスB】(どちらかに) 男 女 (どちらかに)
 合格した入試形態 一般入試
 推薦入試: 神道・宗教 指定校 スポーツ 系列3校 神職養成
 特別選考: AO 院友子弟 留学生 社会人
 学士・編入: 学士入学 編入学

- あなたは、自宅からの大学へ通ういわゆる通学生ですか、それともアパートなどを借りて通う下宿生のどちらですか
 自宅から大学へ通っている アパートなどの下宿から大学へ通っている
- あなたの実家は神社の神職ですか
 実家は神社 (神職) 祖父や祖母が神社 (神職) 親戚が神社関係者 神社とは無関係
- 4月2日、4月17日のオリエンテーション (アイスブレイク) に参加した印象について下記の項目から選んでをつけてください
 参加して良かった どちらかといえば良かった 参加したくなかったが、参加して良かった
 どちらともいえない 参加しない方が良かった
- 4月2日、4月17日と2回行われたオリエンテーション (アイスブレイク) のなかで、一番面白かった (もしくは自身のためになった) 行事についてをつけてください (回答は1つだけ)
 4月2日のアイスブレイク 4月17日のアイスブレイク 4月17日の明治神宮神楽殿祈願
 4月17日の明治神宮境内グループ散策 4月17日の祭祀舞演舞およびお昼の神道系サークル紹介
 4月17日の神社参拝作法指導 その他 (具体名を記述: [])
- 國學院大學神道文化学部に入學して約2週間が経ちますが、大学のクラスの中で、今回のような学生の懇親行事がもっと必要と思いますか
 必要と思う どちらかといえば必要 どちらともいえない
 あまり必要ない 必要ない

*アンケートは以上です。ありがとうございました。



神道文化学部（2年次） 就職意識アンケート

I 性別

- 1.男 ・ 2.女

II あなたは、神社の子弟ですか。

- 1.はい ・ 2.いいえ

III あなたの就（奉）職希望は、どの方向ですか。（複数回答可）

- 1.神社界 2.公務員 3.教員 4.一般企業
5. 大学院等への進学 6. その他（ ）

IV 神社界への奉職を希望する場合、次のどれを希望しますか。（複数回答可）

- 1.実家以外の神社に奉職 2.実家の神社のみに奉職
3.実家の神社に奉職し、その他の職業にも就職（この場合、以下のアンケートにも
答えて下さい）
4.その他（ ）

V 公務員を希望する場合、職種は次のどれを希望しますか。（複数回答可）

- 1.一般行政職（地方公務員） 2. 一般行政職（国家公務員）
3.警察官 4.自衛官
5.博物館学芸員・社会教育主事等教育文化系専門職
6.その他の公務員（ ）

VI 教員を希望する場合、次のどれを希望しますか。（複数回答可）

- 1.公立中学・高等学校 2.私立中学・高等学校
3.その他（ ）

VII 一般企業を希望する場合、次のどの職種を希望しますか。（複数回答可）

- 1.一般事務 2.製造系 3.販売・サービス 4.報道・マスコミ系
5.金融系 6.その他（ ）

VIII インターン・シップ（企業・役所等での就業体験）はやってみたいと思いますか？

- 1.はい ・ 2.いいえ

IX キャリアサポート課で就職相談や就職情報の閲覧をしたことがありますか？

- 1.はい ・ 2.いいえ

就職に関する希望・意見を自由に書いてください。



神道文化学部（2年次） 就職意識アンケート

- I 性別
 男 女
- II あなたは、神社の子弟ですか。
 はい いいえ
- III あなたの就（奉）職希望は、どの方向ですか。（複数回答可）
 神社界 公務員 教員 一般企業
 大学院等への進学 その他 []
- IV 神社界への奉職を希望する場合、次のどれを希望しますか。（複数回答可）
 実家以外の神社に奉職 実家の神社のみに奉職
 実家の神社に奉職し、その他の職業にも就職（この場合、以下のアンケートにも答えて下さい）
 その他 []
- V 公務員を希望する場合、職種は次のどれを希望しますか。（複数回答可）
 一般行政職（地方公務員） 一般行政職（国家公務員）
 警察官 自衛官
 博物館学芸員・社会教育主事等教育文化系専門職
 その他の公務員 []
- VI 教員を希望する場合、次のどれを希望しますか。（複数回答可）
 公立中学・高等学校 私立中学・高等学校
 その他 []
- VII 一般企業を希望する場合、次のどの職種を希望しますか。（複数回答可）
 一般事務 製造系 販売・サービス 報道・マスコミ系
 金融系 その他 []
- VIII インターンシップ（企業・役所等での就業体験）はやってみたいと思いますか？
 はい いいえ
- IX キャリアサポート課で就職相談や就職情報の閲覧をしたことがありますか？
 はい いいえ

就職に関する希望・意見を自由に書いてください。

[]



平成28年3月実施
(新様式)

神道文化学部卒業生アンケート

*このアンケートは、神道文化学部神道文化学科卒業生を対象として、今後の神道文化学部のカリキュラム改善のために実施するものです。

ご卒業おめでとうございます。神道文化学部卒業生である皆さんは、在学中の学習・研究を振り返ってみて、どのような面で、どのくらい、自己の力を伸ばすことができたと感じているでしょうか。このアンケートは集計の上、学部カリキュラムの点検・評価を行うための参考資料とするものです。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

以下の選択肢から該当する番号・記号に○をつけ、記述を求める箇所はかっこ内に自由にお書きください。

1 性別

1. 男
2. 女

2 年齢

() 歳

3 入学(編入)年度

平成()年度

4 入学方式

1. 一般入試(A方式)
2. 一般入試(B方式)
3. 一般入試(C方式)
4. 一般入試(センター試験)
5. 公募制自己推薦(AO)
6. 神道宗教特別選考(神道)
7. 神道宗教特別選考(宗教)
8. 神職養成機関普通課程推薦
9. 院友子弟等特別選考
10. 系列三高校推薦
11. スポーツ推薦
12. 社会人特別選考
13. 学士入学
14. 一般編入
15. 系列編入学
16. 再入学
17. その他()

5 昼夜開講制

1. 夜間主(フレックスA)
2. 昼間主(フレックスB)

6 学科内コース

1. 神道文化コース
2. 宗教文化コース

7 あなたの入学動機についてうかがいます。あてはまるものを選んでください(いくつでも可)。

1. より高度な勉学を志して
2. 長い歴史と伝統のある大学だから
3. 教授陣やカリキュラムが充実しているから
4. 図書館など施設が充実しているから
5. キャンパスの立地条件がよいから
6. 教職資格を取得するため
7. 図書館司書・博物館学芸員等の資格取得のため
8. 神職資格を取得するため
9. 夜間主があるから
10. オープンキャンパスでの印象がよかったから
11. 他大学を希望したが、やむをえず
12. 予備校に勧められたから
13. 高校の先生に勧められたから
14. 親や兄弟、親戚などに勧められたから
15. 奨学金制度が充実しているから
16. 大学院進学を考えているから
17. 家族が院友(國學院大学の卒業生)だから
18. その他

()

8 あなたは神道文化学部がめざしている教育（講義・演習）の特徴（理念）を知っていましたか。該当するものいくつかで○をつけてください。

1. 神道を中心とする日本の伝統文化を学ぶ(→SQ8.1へ)
2. 国内外の諸宗教および文化の意義・役割・機能等を比較し理解を深める(→SQ8.1へ)
3. 宗教的文化の健全な育成と発展に寄与・貢献できる研究・教育を推進する(→SQ8.1へ)
4. 知らなかった

▷SQ8.1 それを何で知りましたか。あてはまるものに○をつけてください（いくつかでも可）。

1. 國學院大學の入学ガイドを読んで
2. 國學院大學のオープンキャンパスに参加して
3. 神道文化学部のガイドブックを読んで
4. 大学のホームページを見て
5. 入学式や入学式前後のガイダンスに参加して
6. 「神道文化基礎演習」を受けて
7. 神道文化学部の講義を受けて
8. 高校や予備校の先生から聞いた
9. 両親や兄弟、親類から聞いた
10. 先輩や友人から聞いた
11. その他
()

9 専門教育科目のなかで、自己の力を伸ばすことができた授業科目はありますか。あてはまるものに○をつけてください（いくつかでも可）。

1. 神道概論
2. 神道史学 I
3. 古典講読 I
4. 宗教学
5. 神道文化基礎演習
6. 神道文化演習
7. 祭祀学 I・II
8. 神道神学 I・II
9. 神道史学 IIA・IIB
10. 神道思想史学 I・II
11. 古典講読 IIA・IIB
12. 国学概論 I・II

13. 世界宗教文化論 I・II
14. 日本宗教文化論 I・II
15. 宗教考古学 I・II
16. 宗教社会学 I・II
17. 比較文化学 I・II
18. 神道学演習 I・II
19. 宗教学演習 I・II
20. 神道史学演習 I・II
21. 古典講読 IIIA・IIIB
22. 祝詞作文 I・II
23. 神社祭祀演習 I
24. 神社祭祀演習 II
25. 神社祭祀演習 IIIA
26. 神社祭祀演習 IIIB
27. 神社祭式概論 I・II
28. 神社管理研究 I・II
29. 神社ネットワーク論 I・II
30. 神道教化概論 I・II
31. 宗教行政研究 I・II
32. 神道と国際交流 I・II
33. 神道と環境 I・II
34. 神道と情報化社会 I・II
35. 教派神道研究 I・II
36. キリスト教文化研究 I・II
37. 仏教文化研究 I・II
38. 中東文化研究 I・II
39. 東アジア文化研究 I・II
40. 宗教芸術研究 I・II
41. 宗教音楽研究 I・II
42. 神道と武道 I・II
43. 神道と書道 I・II
44. 神社実務演習
45. 祭祀学特殊講義
46. 神道教学特論
47. 神道教化システム論
48. 神社祭式特論
49. 神社管理特論
50. 現代時局論

10 授業には平均してどれくらい出席しましたか。

1. 90%以上
2. 60%以上 90%未満
3. 30%以上 60%未満
4. 30%未満

11 学習時間についておたずねします。1日に平均何時間学習しましたか。

1. 30分未満
2. 30分以上 60分未満
3. 60分以上 90分未満
4. 90分以上 120分未満
5. 5.120分以上

12 必修科目「神道文化基礎演習」は4年間の学習・研究生活に役立ちましたか。

1. とても役立った(→SQ12.1へ)
2. やや役立った(→SQ12.1へ)
3. あまり役立たなかった
4. 全く役立たなかった

▷SQ12.1 「1. とても役立った」「2. やや役立った」と回答した方に尋ねます。どのような内容が4年間の学習・研究に役立ちましたか。あてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。

1. 図書館の利用方法
2. 基本参考文献の調べ方
3. レジюме、レポートの書き方
4. 発表の仕方
5. 神道の基礎知識
6. 漢字の読み書き
7. 教員とのコミュニケーション
8. 学生同士のコミュニケーション
9. その他()

13 在学中の学習・研究に必要なだが「神道文化基礎演習」に足りない内容はありますか。思いつくことがあればお書きください。

14 必修科目「神道文化演習」は2~4年次の学習・研究生活に役立ちましたか。

1. とても役立った(→SQ14.1へ)
2. やや役立った(→SQ14.1へ)
3. あまり役立たなかった
4. 全く役立たなかった

▷SQ14.1 「1. とても役立った」「2. やや役立った」と回答した方に尋ねます。どのような内容が2~4年次の学習・研究に役立ちましたか。あてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。

1. 図書館の利用方法
2. 基本参考文献の調べ方
3. レジюме、レポートの書き方
4. 発表の仕方
5. 3・4年次の演習科目の選択
6. 将来の進路の選択
7. 教員とのコミュニケーション
8. 学生同士のコミュニケーション
9. その他()

15 必修科目「基幹演習」(神道学演習ⅠⅡ・宗教学演習ⅠⅡ・神道史学演習ⅠⅡ)は3~4年次の学習・研究生活に役立ちましたか。

1. とても役立った(→SQ15.1へ)
2. やや役立った(→SQ15.1へ)
3. あまり役立たなかった(→SQ15.2へ)
4. 全く役立たなかった(→SQ15.2へ)

▷SQ15.1 「1. とても役立った」「2. やや役立った」と回答した方に尋ねます。どのような内容が3~4年次の学習・研究に役立ちましたか。あてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。

1. 図書館の利用方法
2. 基本参考文献の調べ方
3. レジюме、レポートの書き方
4. 発表の仕方
5. 3・4年次の演習科目の選択
6. 将来の進路の選択
7. 教員とのコミュニケーション
8. 学生同士のコミュニケーション
9. その他()

▷SQ15.2 「3. あまり役立たなかった」「4. 全く役立たなかった」と回答した方にその理由をお尋ねします。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。ほかに理由があれば「9. その他」に記述して下さい。

1. 演習自体が体質的に苦手だった
2. そもそも人前で発表するのが苦手だった
3. レジュメ、レポートの書き方が身につかなかったため
4. 発表の仕方が身につかなかったため
5. 選択した演習科目が期待通りでなかったため
6. 不本意な演習科目を決められたため
7. 教員とのコミュニケーションがとれなかったため
8. 学生同士のコミュニケーションがとれなかったため
9. その他
()

16 学部専任教員とのコミュニケーションについて尋ねます。授業以外でどのような機会にコミュニケーションをとりましたか。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。

1. 授業の前後
2. オフィスアワー
3. オフィスアワー以外の時間帯に訪問
4. その他
()

17 学部専任教員にどのような相談をしたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください（いくつでも可）。

1. 学習・研究
2. 進路
3. 人生
4. その他
()

18 在学中に、語学力が伸びましたか。

1. とても伸びた (→SQ18.1へ)
2. やや伸びた (→SQ18.1へ)
3. あまり伸びなかった (→SQ18.2へ)
4. 全く伸びなかった (→SQ18.2へ)

▷SQ18.1 「1. とても伸びた」「2. やや伸びた」と回答した方に尋ねます。語学力を伸ばすのに、どのような機会が役立ちましたか。該当するものいくつでも○をつけてください。

1. 外国語科目 (教養総合)
2. 神道と国際交流 I・II
3. 課外英会話講座
4. 留学・語学研修
5. その他 ()

▷SQ18.2 「3. あまり伸びなかった」「4. 全く伸びなかった」と回答した方に尋ねます。理由があればお書きください。

19 在学中に、コンピュータを使う能力が伸びましたか。

1. とても伸びた (→SQ19.1へ)
2. やや伸びた (→SQ19.1へ)
3. あまり伸びなかった (→SQ19.2へ)
4. 全く伸びなかった (→SQ19.2へ)

▷SQ19.1 「1. とても伸びた」「2. やや伸びた」と回答した方に尋ねます。コンピュータを使いこなす能力を伸ばすのに、どのような機会が役立ちましたか。該当するものいくつでも○をつけてください。

1. コンピュータ技術演習 (教養総合)
2. 神道と情報化社会 I・II
3. 夏季特別パソコン講習
4. その他
()

▷SQ19.2 「3. あまり伸びなかった」「4. 全く伸びなかった」と回答した方におたずねします。理由があればお書きください。

20 神職子弟ですか。

1. 神職子弟である
2. 神職子弟ではない

21 在学中に神職資格を取得しましたか。

1. 取得した
2. 取得しなかった (→SQ21.1へ)

▷SQ21.1 「2. 取得しなかった」と回答した方におたずねします。在学中に神職資格の取得を目指しましたか。

1. 目指した
2. 目指さなかった

22 在学中に、他にどのような資格を修得しましたか。

1. 教職
2. 図書館司書
3. 博物館学芸員
4. 社会教育主事
5. 司書教諭
6. その他 ()

23 卒業後の進路についておたずねします。あてはまるもの1つに○をつけてください。(→1・7以外はSQ23.3へ)

1. 神職 (→SQ23.1へ)
2. 一般企業 (含、自営)
3. 公務員
4. 教員
5. 進学
6. その他 ()
7. 未就職 (→SQ21.2へ)

▷SQ23.1 「1. 神職」と回答した方におたずねします。次のうち、あてはまるもの1つずつ○をつけてください(回答後、→SQ23.3へ)。

業態:

1. 専業
2. 兼業

採用区分:

1. 神主
2. 巫女
3. 事務職
4. 宮内庁(掌典職)
5. その他 ()

▷SQ23.2 「7. 未就職」と回答した方に尋ねます。理由としてあてはまるものに○をつけてください(いくつでも)。

1. 公務員再受験
2. 教職再受験
3. 科目等履修生
4. 家事手伝い
5. フリーター
6. その他 ()

▷SQ23.3 「7. 未就職」以外に回答した方におたずねします。進路決定に役立ったものがあれば、いくつでも○をつけてください。

1. 教養総合カリキュラム
2. 専門教育カリキュラム
3. 学内の課外講習会、セミナー
4. 学外の講習会、セミナー
5. 専門学校
6. 就職課の支援
7. 神道研修事務課の支援
8. 教員
9. 先輩や同級生
10. 保護者や親類
11. その他 ()

24 あなたは在学中、留年しましたか。1つだけ○をつけてください。

1. 留年した(→SQ24.1へ)
2. 留年しなかった

▷SQ24.1 「1. 留年した」に回答した方におたずねします。理由としてあてはまるものに○をつけてください(いくつでも可)。

1. 出席しなかったから
2. 病気・ケガ等で長期療養したから
3. 授業についていけなかったから
4. 休学したから
5. 停学したから
6. 友人ができなかったから
7. 演習等で発表できなかったから
8. 教員が嫌いだったから
9. アルバイトが原因
10. 不本意入学だったから
11. その他
()

25 あなたは今、國學院大學に在学したことをどのように考えていますか。1つだけ○をつけてください。

1. 非常によかった
2. まあまあよかった
3. 少し後悔している
4. 非常に後悔している

アンケートは以上です。おつかれさまでした。

(旧様式)

神道文化学部卒業生アンケート

※このアンケートは、神道文化学部神道文化学科卒業生を対象として神道文化学部のカリキュラム改善のために実施するものです。

ご卒業おめでとうございます。神道文化学部卒業生である皆さんは、在学中の学習・研究を振り返ってみて、どのような面で、どのくらい、自己の力を伸ばすことができたと感じているのでしょうか。このアンケートは集計の上、学部カリキュラムの点検・評価を行うための参考資料とするものです。ご協力をよろしくお願いします。

以下の選択肢から該当する番号・記号に○をつけ、記述を求める箇所は、下線の上に自由にお書きください。

1 性別

1. 男 2. 女

2 年齢

_____ 歳

3 入学(編入)年度

平成_____年度

4 入学方式

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 一般入試(A方式) | 2. 一般入試(B方式) | 3. 一般入試(C方式) | 4. 一般入試(センター試験) |
| 5. 公募制自己推薦(AO) | 6. 神道宗教特別選考(神道) | 7. 神道宗教特別選考(宗教) | |
| 8. 神職養成機関普通課程推薦 | 9. 院友子弟等特別選考 | 10. 系列三高校推薦 | |
| 11. スポーツ推薦 | 12. 社会人特別選考 | 13. 学士入学 | 14. 一般編入 |
| 15. 系列編入学 | 16. 再入学 | 17. その他 | |

5 昼夜開講制

1. 夜間主(フレックスA) 2. 昼間主(フレックスB)

6 学科内コース

1. 神道文化コース 2. 宗教文化コース

7 あなたの入学動機についてうかがいます。いくつでも選んでください。

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. より高度な勉学を志して | 2. 長い歴史と伝統のある大学だから |
| 3. 教授陣やカリキュラムが充実しているから | 4. 図書館など施設が充実しているから |
| 5. キャンパスの立地条件がよいから | 6. 教職資格を取得するため |
| 7. 図書館司書・博物館学芸員等の資格取得のため | 8. 神職資格を取得するため |
| 9. 夜間主があるから | 10. オープンキャンパスでの印象がよかったから |
| 11. 他大学を希望したが、やむをえず | 12. 予備校に勧められたから |
| 13. 高校の先生に勧められたから | 14. 親や兄弟、親戚などに勧められたから |
| 15. 奨学金制度が充実しているから | 16. 大学院進学を考えているから |
| 17. 家族が院友だから | 18. その他(_____) |

8 あなたは神道文化学部がめざしている教育(講義・演習)の特徴(理念)を知っていましたか。該当するものいくつでも○をつけてください。

1. 神道を中心とする日本の伝統文化を学ぶ(→SQ8.1へ)
2. 国内外の諸宗教および文化の意義・役割・機能等を比較し理解を深める(→SQ8.1へ)
3. 宗教的文化的健全な育成と発展に寄与・貢献できる研究・教育を推進する(→SQ8.1へ)

4. 知らなかった

SQ8.1 それを何で知りましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 國學院大學の入学ガイドを読んで | 2. 國學院大學のオープン・キャンパスに参加して |
| 3. 神道文化学部のガイドブックを読んで | 4. 大学のホームページを見て |
| 5. 入学式や入学式前後のガイダンスに参加して | 6. 「神道文化基礎演習」を受けて |
| 7. 神道文化学部の講義を受けて | 8. 高校や予備校の先生から聞いた |
| 9. 両親や兄弟、親類から聞いた | 10. 先輩や友人から聞いた |
| 11. その他() | |

9 専門教育科目のなかで、自己の力を伸ばすことができた授業科目はありますか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|--------------------|-------------------|------------------|
| 1. 神道概論 | 2. 神道史学 I | 3. 古典講読 I | 4. 宗教学 |
| 5. 神道文化基礎演習 | 6. 神道文化演習 | | |
| 7. 祭祀学 I・II | 8. 神道神学 I・II | 9. 神道史学 IIA・IIB | 10. 神道思想史学 I・II |
| 11. 古典講読 IIA・IIB | 12. 国学概論 I・II | 13. 世界宗教文化論 I・II | 14. 日本宗教文化論 I・II |
| 15. 宗教考古学 I・II | 16. 宗教社会学 I・II | 17. 比較文化学 I・II | |
| 18. 神道学演習 I・II | 19. 宗教学演習 I・II | 20. 神道史学演習 I・II | |
| 21. 古典講読 IIIA・IIIB | 22. 祝詞作文 I・II | 23. 神社祭祀演習 I | 24. 神社祭祀演習 II |
| 25. 神社祭祀演習 IIIA | 26. 神社祭祀演習 IIIB | 27. 神社祭式概論 I・II | 28. 神社管理研究 I・II |
| 29. 神社ネットワーク論 I・II | 30. 神道教化概論 I・II | 31. 宗教行政研究 I・II | |
| 32. 神道と国際交流 I・II | 33. 神道と環境 I・II | 34. 神道と情報化社会 I・II | |
| 35. 教派神道研究 I・II | 36. キリスト教文化研究 I・II | 37. 仏教文化研究 I・II | |
| 38. 中東文化研究 I・II | 39. 東アジア文化研究 I・II | | |
| 40. 宗教芸術研究 I・II | 41. 宗教音楽研究 I・II | 42. 神道と武道 I・II | 43. 神道と書道 I・II |
| 44. 神社実務演習 | 45. 祭祀学特殊講義 | 46. 神道教学特論 | 47. 神道教化システム論 |
| 48. 神社祭式特論 | 49. 神社管理特論 | 50. 現代時局論 | |

10 授業には平均してどれくらい出席しましたか。

- | | | | |
|----------|----------------|----------------|----------|
| 1. 90%以上 | 2. 60%以上 90%未満 | 3. 30%以上 60%未満 | 4. 30%未満 |
|----------|----------------|----------------|----------|

学習時間についてお尋ねします。1日に平均何時間学習しましたか。

- | | | | | |
|----------|----------------|----------------|-----------------|-----------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分以上 60分未満 | 3. 60分以上 90分未満 | 4. 90分以上 120分未満 | 5. 120分以上 |
|----------|----------------|----------------|-----------------|-----------|

12 必修科目「神道文化基礎演習」は4年間の学習・研究生活に役立ちましたか。

- | | | | |
|----------------------|---------------------|---------------|--------------|
| 1. とても役立つ (→SQ12.1へ) | 2. やや役立つ (→SQ12.1へ) | 3. あまり役立たなかった | 4. 全く役立たなかった |
|----------------------|---------------------|---------------|--------------|

SQ12.1 「1. とても役立つ」「2. やや役立つ」と回答した方に尋ねます。どのような内容が4年間の学習・研究に役立ちましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

- | | | | |
|------------------|-------------------|-------------------|----------|
| 1. 図書館の利用方法 | 2. 基本参考文献の調べ方 | 3. レジюме、レポートの書き方 | 4. 発表の仕方 |
| 5. 神道の基礎知識 | 6. 漢字の読み書き | | |
| 7. 教員とのコミュニケーション | 8. 学生同士のコミュニケーション | | |
| 9. その他() | | | |

13 在学中の学習・研究に必要なが「神道文化基礎演習」に足りない内容はありますか。思いつくことがあればお書きください。



14 必修科目「神道文化演習」は2~4年次の学習・研究生活に役立ちましたか。

1. とても役立った(→SQ14.1へ) 2. やや役立った(→SQ14.1へ) 3. あまり役立たなかった 4. 全く役立たなかった

SQ14.1 「1. とても役立った」「2. やや役立った」と回答した方に尋ねます。どのような内容が2~4年次の学習・研究に役立ちましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

1. 図書館の利用方法 2. 基本参考文献の調べ方 3. レジューメ、レポートの書き方 4. 発表の仕方
5. 3・4年次の演習科目の選択 6. 将来の進路の選択
7. 教員とのコミュニケーション 8. 学生同士のコミュニケーション
9. その他()

15 必修科目「基幹演習」(神道学演習ⅠⅡ・宗教学演習ⅠⅡ・神道史学演習ⅠⅡ)は3~4年次の学習・研究生活に役立ちましたか。

1. とても役立った(→SQ15.1へ) 2. やや役立った(→SQ15.1へ)
3. あまり役立たなかった(→SQ15.2へ) 4. 全く役立たなかった(→SQ15.2へ)

SQ15.1 「1. とても役立った」「2. やや役立った」と回答した方に尋ねます。どのような内容が3~4年次の学習・研究に役立ちましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

1. 図書館の利用方法 2. 基本参考文献の調べ方 3. レジューメ、レポートの書き方 4. 発表の仕方
5. 3・4年次の演習科目の選択 6. 将来の進路の選択
7. 教員とのコミュニケーション 8. 学生同士のコミュニケーション
9. その他()

SQ15.2 「3. あまり役立たなかった」「4. 全く役立たなかった」と回答した方にその理由をお尋ねします。該当するものいくつかでも○をつけてください。ほかに理由があれば「9. その他」に記述して下さい。

1. 演習自体が体質的に苦手だった 2. そもそも人前で発表するのが苦手だった
3. レジューメ、レポートの書き方が身につかなかったため 4. 発表の仕方が身につかなかったため
5. 選択した演習科目が期待通りでなかったため 6. 不本意な演習科目を決められたため
7. 教員とのコミュニケーションがとれなかったため 8. 学生同士のコミュニケーションがとれなかったため
9. その他()

16 学部専任教員とのコミュニケーションについて尋ねます。授業以外でどのような機会にコミュニケーションをとりましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

1. 授業の前後 2. オフィスアワー 3. オフィスアワー以外の時間帯に訪問
4. その他()

17 学部専任教員にどのような相談をしたことがありますか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

1. 学習・研究 2. 進路 3. 人生 4. その他
()

18 在学中に、語学力が伸びましたか。

1. とても伸びた(→SQ18.1へ) 2. やや伸びた(→SQ18.1へ)
3. あまり伸びなかった(→SQ18.2へ) 4. 全く伸びなかった(→SQ18.2へ)

SQ18.1 「1. とても伸びた」「2. やや伸びた」と回答した方に尋ねます。語学力を伸ばすのに、どのような機会が役立ちましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

1. 外国語科目(教養総合) 2. 神道と国際交流Ⅰ・Ⅱ 3. 課外英会話講座 4. 留学・語学研修
5. その他()

SQ18.2 「3. あまり伸びなかった」「4. 全く伸びなかった」と回答した方に尋ねます。理由があればお書きください。

19 在学中に、コンピュータを使いこなす能力が伸びましたか。

1. とても伸びた (→SQ19.1へ) 2. やや伸びた (→SQ19.1へ)
3. あまり伸びなかった (→SQ19.2へ) 4. 全く伸びなかった (→SQ19.2へ)

SQ19.1 「1. とても伸びた」「2. やや伸びた」と回答した方に尋ねます。コンピュータを使いこなす能力を伸ばすのに、どのような機会が役立ちましたか。該当するものいくつかでも○をつけてください。

1. コンピュータ技術演習(教養総合) 2. 神道と情報化社会I・II 3. 夏季特別パソコン講習
4. その他 ()

SQ19.2 「3. あまり伸びなかった」「4. 全く伸びなかった」と回答した方に尋ねます。理由があればお書きください。

()

20 神職子弟ですか。

1. 神職子弟である 2. 神職子弟ではない

21 在学中に神職資格を取得しましたか。

1. 取得した 2. 取得しなかった (→SQ21.1へ)

SQ21.1 「2. 取得しなかった」と回答した方に尋ねます。在学中に神職資格の取得を目指しましたか。

1. 目指した 2. 目指さなかった

22 在学中に、他にどのような資格を修得しましたか。

1. 教職 2. 図書館司書 3. 博物館学芸員 4. 社会教育主事 5. 司書教諭
6. その他 ()

23 卒業後の進路についてお尋ねします。該当するもの1つに○をつけてください。(→7以外はSQ21.3へ)

1. 神職 (→SQ23.1へ) 2. 一般企業(含、自営) 3. 公務員 4. 教員
5. 進学 6. その他 () 7. 未就職 (→SQ21.2へ)

SQ23.1 「1. 神職」と回答した方に尋ねます。次のうち該当するもの1つずつ○をつけてください。

- 業態: 1. 専業 2. 兼業
採用区分: 1. 神主 2. 巫女 3. 事務職 4. 宮内庁(掌典職) 5. その他

SQ23.2 「7. 未就職」と回答した方に尋ねます。理由として該当するものいくつかでも○をつけてください。

1. 公務員再受験 2. 教職再受験 3. 科目等履修生 4. 家事手伝い
5. フリーター 6. その他 ()

SQ23.3 「7. 未就職」以外に回答した方に尋ねます。進路決定に役立ったものがあれば、いくつかでも○をつけてください。

1. 教養総合カリキュラム 2. 専門教育カリキュラム 3. 学内の課外講習会、セミナー
4. 学外の講習会、セミナー 5. 専門学校 6. 就職課の支援
7. 神道研修事務課の支援 8. 教員 9. 先輩や同級生 10. 保護者や親類
11. その他 ()

24 あなたは在学中、留年しましたか。1つだけ○をつけてください。

1. 留年した(→SQ24.1へ) 2. 留年しなかった

SQ24.1 「1. 留年した」に回答した方に尋ねます。理由として該当するものいくつかでも○をつけてください。

1. 出席しなかったから 2. 病気・ケガ等で長期療養したから 3. 授業についていけなかったから
4. 休学したから 5. 停学したから 6. 友人ができなかったから 7. 演習等で発表できなかったから
8. 教員が嫌いだったから 9. アルバイトが原因 10. 不本意入学だったから
11. その他 ()

25 あなたは今、國學院大學に在学したことをどのように考えていますか。1つだけ○をつけてください。

1. 非常に良かった 2. まあまあよかった 3. 少し後悔している 4. 非常に後悔している

平成 28 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに關し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	人間開発学部
事 業 名	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発
平成 28 年度実務担当者名	伊藤英之
事 業 の 概 要	
<p>以下、<u>本年度実施した推進事業の概要</u>について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。</p> <p>人間開発学部は、初等教育・健康体育・子ども支援の各学科が平成 27 年度の本事業にて得られた課題を解決するために、本事業の課題に対して学科ごとにアプローチした。</p> <p>初等教育学科は、「初等教育教員養成における初年次教育の役割－導入基礎演習・総合講座で初等教育学科学生は何を学んでいるのか?」という学科テーマを設定した。導入基礎演習で学ぶ前の「大学生活不安」「コミュニケーションスキル」「社会考慮(マナーの基礎概念)」について調査を実施し、その結果から、「礼儀作法・マナー、コミュニケーションに関する技能」に及ぼす導入基礎演習と総合講座の効果を検証した。これは、平成 27 年度の FD における学生に対するアンケートの分析結果を検討し、「礼儀作法・マナー、コミュニケーションに関する技能」の学習ニーズが最も高いことが推測された点について、学科教員による討議を行い、導入基礎演習等の少人数講義を利用して指導する必要性が指摘されたためであった。</p> <p>健康体育学科は、「教育実習生が実習までに持つべき資質・能力とは?」という学科テーマを設定した。現職の中学・高等学校の保健体育科教員に調査をするために質問紙を作成し、教育実習の実施校や教育インターンシップ実施校を中心に調査を実施し、その結果から教育実習の事前指導に必要な内容を検討した。</p> <p>子ども支援学科は、教育実習後に効力感の向上が見られるようになることを目指し、実習後の指導の在り方を模索するため、実習後の効力感と事後指導後の効力感との関係について調査を行い、その結果について分析を行った。これは、平成 27 年度の本事業において、実習後の効力感の向上要因を探るべく、実習後の効力感と事前指導の修得度および実習についての自己評価、園評価について相関分析を行った結果、事前指導の修得度と実習の自己評価との関連は見られたが、効力感についてはどの項目とも相関は見られず、先行研究で示される効力感の値よりも本学の学生が低い傾向を示すことがあきらかになったためであった。</p> <p>また、各学科の研究結果を学部で共有し、深めるための協議を行う協議会を実施した。さらに、各学科が取り組んだ内容を深めるにふさわしい人物を講師として招き協議を行う協議会も実施した。</p> <p>以上の内容にて、平成 28 年度の本事業を実施した。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、**本年度実施した推進事業の結果**について、年初「学部 FD 推進事業」申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

事業の目的は、「人づくりのプロ」を育てるために、人間開発学部の教員は何を指導するべきか、どのような内容を含むカリキュラムにするべきかについて、特に教職課程に着目して明らかにすることであった。この目的を果たすために、人間開発学部の各学科が、平成 27 年度に実施した本事業より得られた課題を解決する（内容）ための方法を考え、本事業の計画を立案し実行した。

今年度の事業での実施内容において、初等教育学科は、小学校現場から身につけることを望まれているスキルである「礼儀作法・マナー、コミュニケーションに関する技能」を初年次教育のシラバスに加え、効果検証を実施し成果が認められた。

健康体育学科は、中学・高校の教育現場に教育実習生として臨む際に身につけることを望まれている資質・能力・技能について調査し、特にコミュニケーション能力についての指摘が多く、単に挨拶ができるというようなことではなく、授業において技術的な助言や指導を交えて生徒との関わりが持てるようなコミュニケーション能力が望まれており、基礎的な知識の習得やその伝え方などを指導内容に加えていくなど、今後の指導方針を考えるための有益な資料を得ることができた。

子ども支援学科は、教育実習の事後指導の実施時期や方法の改善を行い、その効果を検証し、新たな課題を得ることができた。これらの内容及び得られた成果は、年度当初の計画通りに実施され、本事業の目的を十分に果たすものと考えられる。これらの成果は次年度のシラバス改善や指導内容・方法の改善に役立てていく方針であり、年度当初に想定した本事業の成果を満たすものと考えられる。

また、各学科ともに学部 FD 協議会において研究の成果を報告し議論したことや、学科ごとに開催した外部講師を招いての FD 協議会の実施などにより、学部教員間での成果や課題の共有が図られた。ただし、協議会に全ての教員が参加できたわけではないため、確実に「十分な点検・評価・共有ができた」とは言い難い。したがって、「一定の点検・評価・共有ができた」という自己評価となった。なお、この各 FD 協議会も年度当初の計画通りに実行されたため、目的や内容の評価の「十分達成できた」や「適切であった」という自己評価となったことの一因となっている。

今後の展望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

初等教育学科では、学生が「礼儀作法・マナー、コミュニケーションに関する技能」を導入基礎演習と総合講座によって高めている可能性が示唆された。協議会では、その要因について、学生個々の入学時から総合講座終了時までの変化を示したデータをもとに活発な意見交換が行われた結果、各教員が初年次教育の取り組みを省察し、次年度の改善点を検討できた。このことは、教員の初年次教育における実践を改善する契機になったと考えられる。

健康体育学科では協議会において、中・高校の保健体育教師が教育実習生に対して実習に挑む前に身に付けてほしいと考えている「コミュニケーション能力」を中心に、現場教員の回答の真意や、大学教育において各能力をどのようにして養成していけるか（養成する必要があるのか）などを議論した。この協議会を通して、昨年度の協議会にて議論された「how to の構築」と合わせて、教科教育科目と各科目間との学習内容やカリキュラムをリンクさせていくことや、実技科目の運動方法基礎実習から指導法実習への流れの方針を再検討すること、また、非常勤講師への学習内容についての依頼（何を学ばせてほしいか）も今後議論していくことが確認された。

子ども支援学科では、どのような人材育成像をもつのかということが肝要であり、実習はその養成プロセスの一部でありつつカリキュラム全体との整合性を整えることが必要との確認がなされ、特に、各養成校の学生の実像に合わせた人材育成像の明確化と教職員での共通認識の形成が重要であるとの方向性を確認した。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である（ない）と判断した理由を、平成 29 年度以降の当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

人間開発学部が本事業で得た知見は、初等・中等教育現場の教員が教育実習生に最低限身につけてほしい資質・能力・技能についてである。これは、先行研究や初等教育及び中等教育のいずれでも「コミュニケーション能力」が挙げられており、挨拶や会話ができるなどといった基本的コミュニケーションはもちろん、授業の中で教材に関する助言や指導なども含めたものも求められている。基本的なコミュニケーションについては、初等教育学科の本事業の取り組みから初年次教育の内容に組み込むことでその効果が確認された。また、授業の中でのコミュニケーションについては、当たり前なことではあるが、教職課程科目や関連の専門教育科目の指導方針の確認や科目間リンクをしっかりと行っていく必要性が再確認された。

上記の成果は、学部学科に関係なく、教職課程科目や関連の専門科目及び教養科目を指導する上で、留意すべきことのひとつと考えられるため、汎用性が高いものとする。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基づき執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

本事業の経費の執行については、概ね計画に基づいて執行されたと考える。

中間報告前の前期に必要な物品の購入を済まし、調査や分析に役立てることができた。そのため、中間報告時には概ね「旅費交通費」・「報酬・支払い手数料」・「人件費支出」の項目以外はほぼ執行した状態となった。減額補正についても、「通信運搬費」・「旅費交通費」の減額を行なったが、極めて正当な理由による減額補正であったため問題ないものとする。

中間報告後の後期には、調査で得られたデータの入力補助のアルバイトに「人件費支出」の予算執行を行った。また、調査旅行及び FD 協議会にて「旅費交通費」と「報酬・支払い手数料」を執行を行った。

以上より、年間を通して適切な経費の執行を行なったと考える。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

本事業は、平成 27 年度の FD 推進事業にて得られた課題を解決するために実施した。具体的には、初等教育学科が、教職課程に入っている学生のニーズとして「礼儀作法・マナー、コミュニケーション」に関する指導が挙げられ、これは小学校現場の教員が教職を目指す大学生に身につけてほしい知識や能力や経験を報告した先行研究の示唆と合致していたため、このような指導を初年次教育に盛り込んだ結果、その成果が確認された。また、健康体育学科が、中学・高等学校の現場の教員が教育実習に臨む大学生に身につけておいてほしい資質・能力・技能を明らかにし、授業内での指導や助言によって行う「コミュニケーション能力」の向上が望まれていることを受け、次年度の教職科目や関連の専門科目・教養科目の指導内容や方針の改善を図る予定である。子ども支援学科が、教育実習の事後指導の指導方法や実施時期について改善を図り、新たな課題が得られ、次年度の教職科目や関連の専門科目・教養科目の指導内容や方針の改善を図る予定である。

特に全学で共有したいことは、教育現場では「コミュニケーション能力」が求められているということである。これは、学部学科・教科を超えて教職を目指す学生に必要な不可欠な能力と考えられる。さらに、教職にとどまらず社会人にとって不可欠な能力であり、どんな職業についても専門的知識を絡めたコミュニケーション能力は学生にとっては身につけるべき能力の一つであろう。このようなことを専門教育が本格化する前の早い段階で意識づけるような指導が望まれると考えられる。

平成28年度
「学部FD推進事業」 成果報告会

「人づくりのプロ」を育てる 学部教員の実践的指導力の自己開発

人間開発学部
助教 伊藤 英之



目的

初等教育

初年次教育が
「礼儀」「マナー」
「コミュニケーション」
に影響を与えているか？

子ども支援

効力感の向上に
効果的な教育実習
事後指導の在り方
とは？

『教育実習』に関する
指導方法や方針、内容の検討

健康体育

中学・高校の教員が考える
教育実習生に必要な資質・
能力・スキルとは？



背景—平成27年度のFD推進事業の成果より—

初等教育学科

成果：先行研究の報告と学生の学習ニーズの合致

課題：初年次教育科目に「礼儀作法・マナーやコミュニケーションに関する技能」を高める効果があるのか？

健康体育学科

成果：「How toを構築できる教育実習生」を育成する方針

課題：教育実習受け入れ側の考えは？

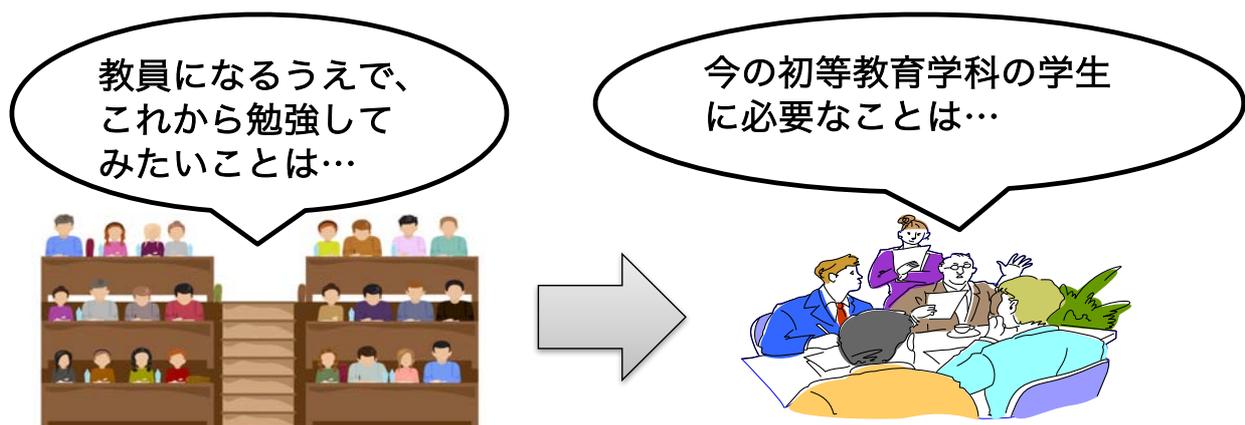
子ども支援学科

成果：教育実習事後指導の実施時期ややり方に課題あり

課題：教育実習実施後できるだけすぐに事後指導をすると効力感が高まるのか？



各学科のアプローチの概要—初等教育—

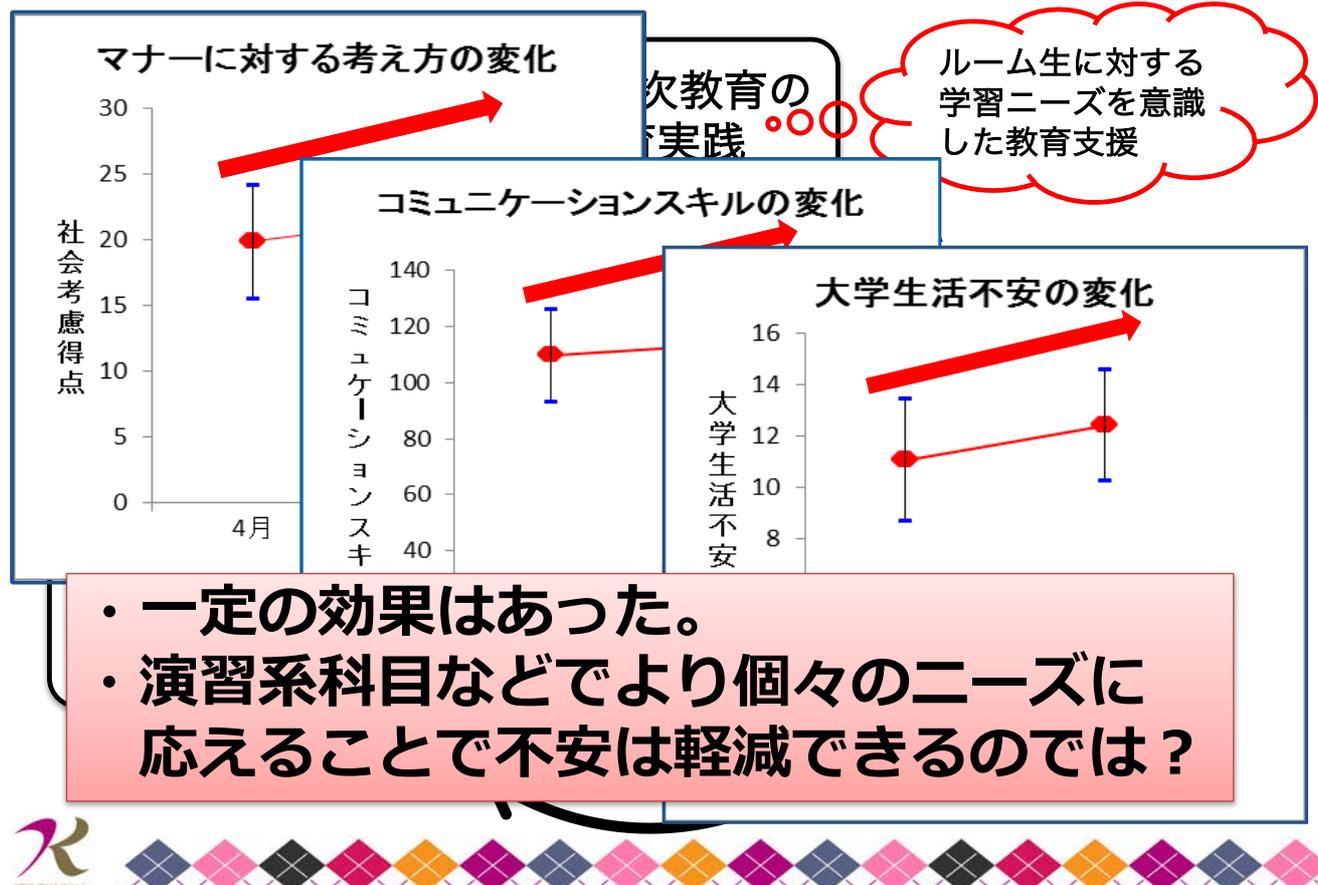


初等教育学科学生の学習ニーズ
「**礼儀作法・マナーやコミュニケーションに関する技能**」

初年次教育（導入基礎演習・総合講座）における効果的な支援を明らかにする



各学科のアプローチの概要—初等教育—



各学科のアプローチの概要—健康体育—

「コミュニケーション能力」

を挙げた教員：40% (11/27名)

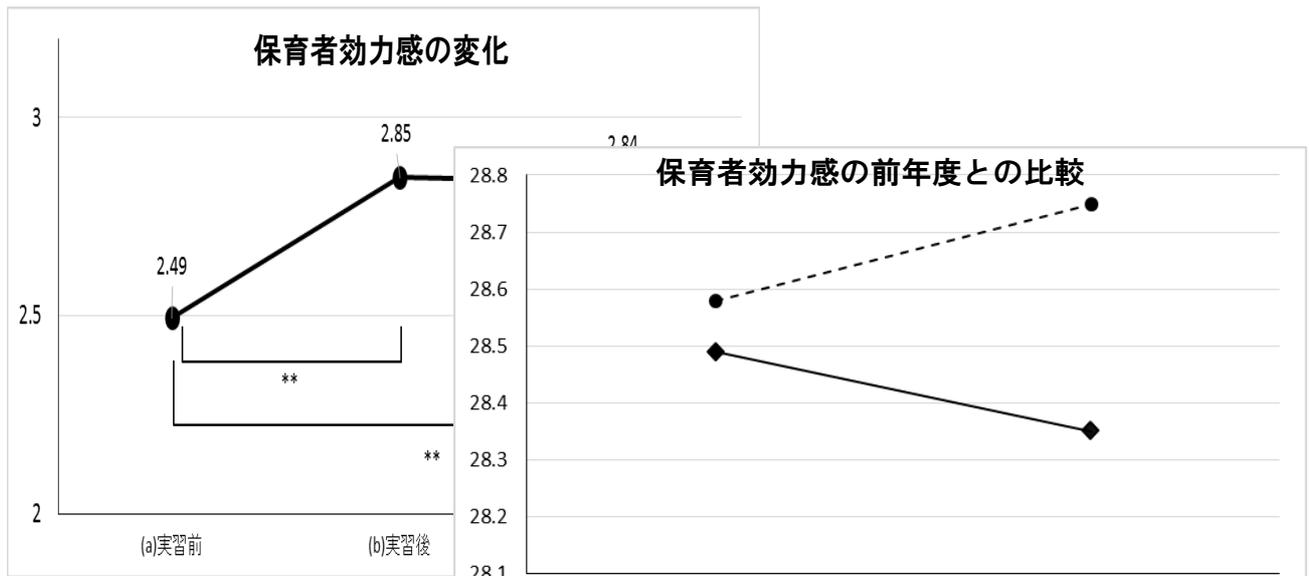
「コミュニケーションに関連した内容」

を挙げた教員：22% (6/27名)

➡ どちらも含めると 63% (17/27名)

- ・現場は「まずはコミュニケーション力」
- ・挨拶などの基本的なものだけでなく、確かな知識で指導や助言などを通じた授業内でのコミュニケーション力が上がる？

各学科のアプローチの概要—子ども支援—



- ・ 時期の変更は影響なし
- ・ 内容を「問題点と改善点」→「成長点」で効果上がるかもしれない？



成果と展望—平成29年度の授業等改善—

初等教育学科

- ・ 初年次教育科目（導入基礎演習・総合講座）にて「礼儀作法・マナーやコミュニケーションの技能」の向上を意識した関わり方
- ・ 教科教育法や演習系授業にて、個々のニーズに応える工夫

健康体育学科

- ・ 専門教育科目と体育科教育法・保健科教育法との連携

子ども支援学科

- ・ 教育実習事後指導にて、振り返りに「成長点」を加える



他学部への汎用性

社会が望んでいる「コミュニケーション」のスキル

基本的な
コミュニケーション

- ・挨拶
- ・御礼
- ・謝罪
- ・・・etc



知識が必要な
コミュニケーション

- ・指導
- ・助言
- ・議論
- ・・・etc

初年次教育科目や
基礎的な演習科目

専門教育科目

スポーツ実技科目



以上、
人間開発学部の報告を終わります

ご静聴ありがとうございました



參考資料

資料1 平成28年度「学部FD推進事業」について（案）（平成27年11月18日開催第7回教育開発センター委員会資料）

平成28年度「学部FD推進事業」について（案）

本学では2012（平成24）年度より学部FD推進事業を実施し、教育内容・方法等の改善を図るための組織的な研修・研究の機会を提供・実施してきた。当該事業は先の認証評価でも比較的高い評価を得たと言われている。しかしながらこれまでのセンター委員会の議論でも明らかなように、課題が散見されることもまた事実である。そこで以下では、これまでに指摘された検討課題を確認した後、平成28年度以降の学部FD推進事業について、①申請書の形式の改定、②成果の共有・検証と学外への情報発信、の2点から具体的な改善案を提示したい。

1. これまでに出た検討課題

- 各事業成果について、学部及び全学での周知・共有を強化
- 学部内で必ず事業効果の検証を実施（アンケート等）
- 学外への成果発信（紀要への掲載、報告書の作成、Web公開）
- 各学部でFD事業の推進を担う担当教員の育成（長期的視点からの検討）
- 申請書の形式の変更（PDCAサイクルの徹底等）

2. 改善案

①：申請書の形式の改定

【改定の意図】これまでの「学部FD推進事業」申請書では、事業の概要（計画期間全体）として、「目的」、「内容」、「計画」、「期待される効果・達成目標」の4項目を記入した。しかしこれらの項目では、

- ① 当該事業の実施方針や実施状況の振り返り、成果の検証というプロセスが不十分であること
- ② 当該学部の授業改善にどのような影響を及ぼすかが不明瞭であること
- ③ 当該事業の成果が学部学科を超えて本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果（汎用性）をもたらすのかが明らかでないこと

という課題があった。そこでこれらの点を勘案するとともに、本事業がPDCAサイクルを自覚的に踏まえつつ企画・運営されていることを明らかにするため、以下の様に申請書の形式を改定することとする。なお申請する事業は、原則として単年度で完了するものとして想定されるが、他方で「教育内容・方法等の不断の改善」という視点から、単年度での予算措置及び申請書作成が求められるものの、1年を超えることを想定した事業計画を策定することも可能とする。ただし最長で2年とする。

改定（各 400 字程度）	現状
<p>○目的（P）：現状認識を踏まえた事業の目的</p> <p>○内容（D）：目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。</p> <p>○計画（P）：どのような計画で、当該事業を実施するのか。</p> <p>○点検・評価（C）：本事業の実施状況並びに成果を、どのように点検・評価するのか。</p> <p>○改善・期待される効果（A）：今後の当該学部教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述して下さい。</p> <p>○汎用性（V）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。* <i>V = versatility</i></p> <p>○経費の妥当性・必要性：教育研究経費支出、人件費支出、設備関係支出について、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述して下さい。</p>	<p>○目的</p> <p>○内容</p> <p>○計画</p> <p>○期待される効果・達成目標</p>

②：成果の共有・検証と学外への情報発信

【改定の意図】申請書の形式を改定しただけでは、各学部の事業成果の共有とはならない。そこで事業成果を確実に学部間で共有させ、かつ汎用的な成果については、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善に結びつけるためにも、成果を共有する機会を設けたいと考える。具体的には「成果報告会」（仮称）を開催し、各学部長ならびに実務担当者を必須の参加者として、広く本学専任教職員に参加を求めることとする。これにより学部での成果（タテ）が、確実に学部間で共有できる（ヨコ）と考えられる。あらかじめ申請書に記載した「汎用性（V）」の観点からの議論も行うことで、より実りある議論も期待できよう。具体的な開催日時や内容については、今後、本センター委員会にて検討しなければならないが、現状での方向性は以下のとおりである。

名 称：成果報告会（仮称）

日 時：年 1 回。年度末実施

参加者：各学部長・実務担当者ならびに本学専任教職員

内 容：①当該年度の学部 FD 推進事業の成果報告会 <学部の Good Practice の共有>

②各学部汎用性（波及効果）についてのディスカッション<本学学士課程教育全体への寄与>

*申請書に *V = Versatility* を記入して頂くことで、ディスカッションの共通議題を予め設定

*成果報告会の議論については、報告書等を作成し機構 HP にて公開

備 考：2 年に 1 度は、隔年で開催される教育開発シンポジウムと関連付けることも可能

また関連企業（インテージ、丸善等）や関東圏 FD（※）との連携も検討課題

例 國學院大學教育改善カンファレンス（仮称）と銘打って・・・

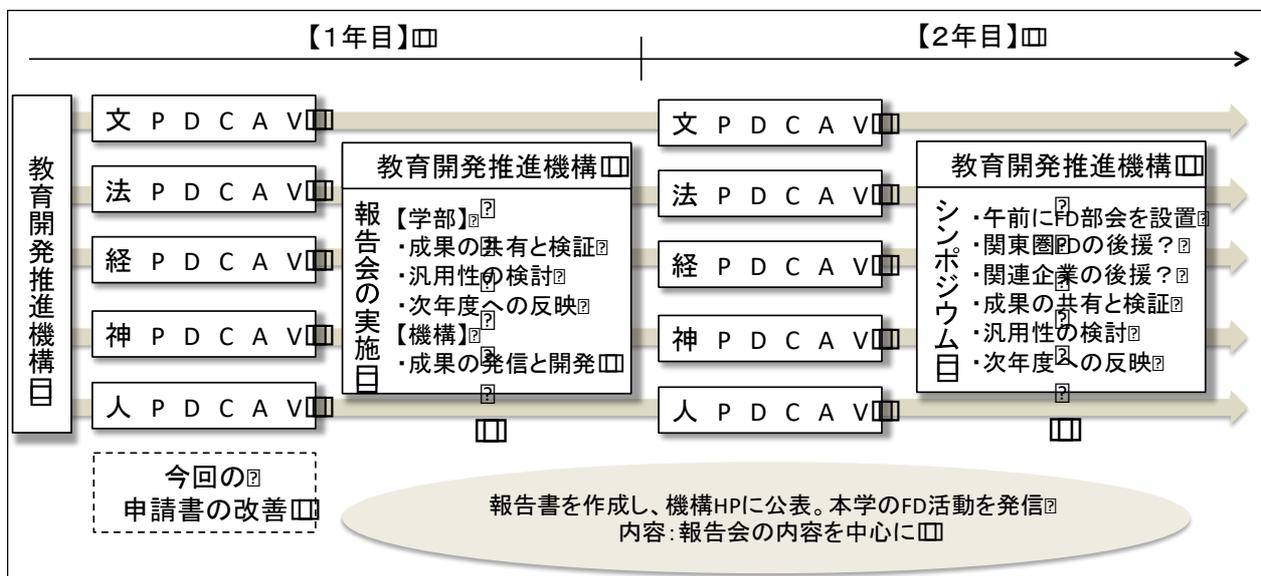
午前：成果報告会

午後：教育開発シンポジウム

※関東圏 FD：法政大学、立教大学、東洋大学、青山学院大学の FD 活動に携わる教職員にて構成される組織的な FD コンソーシアム。本学は今年度より参加。初回会合日は、2015 年 11 月 25 日。

注意：事業によっては「期待どおりの成果が出なかった」・「事業計画に無理があった」というケースが発生することも考えられる。この場合は Good Practice でなくても、その知見を共有すること自体が有益であると考えられるが、学外への公表（報告書等）については、様々な点から検討する必要がある。したがってこの点については、引き続き教育開発センター委員会での検討事項とする。

【平成 28 年度以降の「学部 FD 推進事業」のモデル】



資料2 國學院大學FD推進事業の助成に関する規程(平成29年2月8日開催第7回教育開発センター委員会資料)

國學院大學FD推進事業の助成に関する規程

平成28年12月7日
制 定

(目的)

第1条 この規程は、教育開発推進機構規程第2条及び教育開発センター規程第2条に基づき、本学のFD推進事業を助成するために、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程におけるFDとは、学士課程における教育及び学修の効果を高めることを目的とし、かつ以下の各号のいずれかに関わる取組みをいう。

- (1) カリキュラムの改善又は体系化
- (2) 教育を行う組織及び学修環境の整備
- (3) 教員の教育力開発
- (4) 授業の内容及び方法の工夫改善

(助成対象)

第3条 この規程に定める助成(以下「FD推進助成」という。)の対象は、学部単位で企画、実施する学部FD推進事業(以下「甲」という。)又は2名以上のグループが行うFD推進事業(以下「乙」という。)とする。

- 2 甲の対象は、各学部において機関決定を経た取組みとする。
- 3 乙の対象は、主に前条第3号又は4号に関わる取組みとする。

(申請資格)

第4条 FD推進助成を申請できる者は、本学専任教員とし、甲の申請者は学部長とする。ただし、事業推進の協力者に兼任講師又は職員を含めることができる。

(実施期間)

第5条 FD推進助成の実施は、原則として単年度とする。ただし、内容により最長2年の事業計画を申請することができる。

(申請手続)

第6条 FD推進助成の採択を希望する者は、実施する前年度の1月末日までに、別に定める申請様式に従い、計画調書を教育開発センター長宛に提出しなければならない。

(審査)

第7条 FD推進助成の審査は、別に定める審査基準に基づいて教育開発センター委員会が行い、審査結果に基づき、学長が採択を行う。

(助成金)

第8条 甲に対するFD推進助成金の上限は、1件あたり年間100万円とする。

2 乙に対するFD推進助成金は、採択する取組みの合計が予算内に収まるように調整する。

3 助成金の使途の範囲及び取扱いについては、別に定める。

(設備備品等)

第9条 FD推進助成により購入した設備備品は、大学に帰属する。

(成果の報告、共有及び発信)

第10条 FD推進助成に採択された者は、次の各号に掲げる義務を負う。

(1) 成果検証に基づき、採択された年度の3月末日までに学長へ成果報告書を提出すること

(2) 学内における取組み情報の共有に努めること

(3) 取組みの状況及び成果を学外へ発信すること

(事務)

第11条 FD推進助成金の運用に関わる事務は、教育開発推進機構事務課が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、教育開発センター委員会及び教育開発推進機構運営委員会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

資料3 平成28年度「学部FD推進事業」成果報告会 開催報告

教育開発推進機構では、例年、学部からの申請を受けてFD活動に対する予算支援を行う「学部FD推進事業」を推進しているが、平成28年度からの新たな取り組みとして、事業を通して得られた知見と成果を学内に広く共有するため、「成果報告会」を開催した。

本年度の報告会は下記日程で行われ、各学部の事業実務担当者から、事業の概要・経過・成果・展望等について15分程度で報告を行い、フロアの参加者との間で質疑応答が行われた。以下、当日の各学部の発表題目および発表者、ならびに参加状況について報告する。

【開催概要】

日時：平成29年3月10日（金）13:30～15:30

会場：若木タワー地下1階 02会議室

【報告一覧】

学部	題目	報告者
文学部	「カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討のためのアンケート実施」	金杉武司 教授
法学部	「法学部FD推進事業 ー前提となる新カリキュラムの導入も含めてー」	高橋信行 教授
経済学部	「経済学部平成28年度学部FD推進事業の成果～外部評価からみた基礎演習の課題～」	細井 長 教授
神道文化学部	「学生に対する効率的なアンケート・学力調査ならびに有識者の外部評価による授業運営・学部運営の改善化」	遠藤 潤 准教授
人間開発学部	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発」	伊藤 英之 助教

【参加状況】

学部	参加者数（名）
文学部	2
経済学部	3
法学部	3
神道文化学部	2
人間開発学部	6
研究機構	0
教育機構	4
事務局	2
計	22

以上

資料4 学部FD推進事業一覧（平成24～28年度）

平成24年度

項目	詳細
申請学部	文学部
事業名称	導入教育及び初年次教育科目の授業改善
申請者	野呂 健
実務担当者	石川則夫
申請額	1,000,000 円
申請学部	法学部
事業名称	法学部教育における本格的PDCAサイクル始動のための準備作業
申請者	宮内靖彦
実務担当者	荏田真司
申請額	898,000 円
申請学部	経済学部
事業名称	4年間を見通した教育改善を目的とした学生による主観的な学修の達成度に関する調査
申請者	尾近裕幸
実務担当者	田原裕子
申請額	1,000,000 円
申請学部	神道文化学部
事業名称	アンケートの実施の簡便化による授業運営、学部運営の向上プログラム
申請者	石井研士
実務担当者	西岡和彦
申請額	542,000 円
申請学部	人間開発学部
事業名称	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発
申請者	新富康央
実務担当者	堀江紀子
申請額	1,000,000 円

*総額 4,440,000 円

平成 25 年度

項目	詳細
申請学部	文学部
事業名称	授業改善及びカリキュラム改訂の基本方針策定
申請者	野呂 健
実務担当者	矢部健太郎
申請額	1,000,000 円
申請学部	法学部
事業名称	法学部教育における本格的 PDCA サイクルの準備作業
申請者	宮内靖彦
実務担当者	佐藤秀勝
申請額	999,000 円
申請学部	経済学部
事業名称	在学中の学修達成度と教育改善に関する意識調査
申請者	尾近裕幸
実務担当者	本田一成
申請額	1,000,000 円
申請学部	神道文化学部
事業名称	アンケートの実施の簡便化による授業運営、学部運営の向上プログラム
申請者	石井研士
実務担当者	西岡和彦
申請額	563,000 円
申請学部	人間開発学部
事業名称	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発
申請者	新富康央
実務担当者	柴田保之
申請額	490,000 円

*総額 4,052,000 円

平成 26 年度

項目	詳細
申請学部	文学部
事業名称	授業改善及びカリキュラム改訂の基本方針策定
申請者	野呂 健
実務担当者	柴田紳一
申請額	1,000,000 円
申請学部	法学部
事業名称	法学部教育における本格的 PDCA サイクルの成果検証およびアクティブラーニング導入に関する基礎的研究
申請者	宮内靖彦
実務担当者	佐藤秀勝
申請額	999,000 円
申請学部	経済学部
事業名称	導入教育における主体的な学びの促進
申請者	尾近裕幸
実務担当者	本田一成
申請額	987,000 円
申請学部	神道文化学部
事業名称	アンケートの実施の簡便化による授業運営、学部運営の向上プログラム
申請者	石井研士
実務担当者	西岡和彦
申請額	1,000,000 円
申請学部	人間開発学部
事業名称	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発
申請者	成田信子
実務担当者	柴田保之
申請額	902,000 円

*総額 4,888,000 円

平成 27 年度

項目	詳細
申請学部	文学部
事業名称	授業改善及びカリキュラム改訂の基本方針策定
申請者	野呂 健
実務担当者	白井重範
申請額	648,000 円
申請学部	法学部
事業名称	法学部教育における本格的 PDCA サイクルの成果検証およびアクティブラーニング導入に関する基礎的研究
申請者	宮内靖彦
実務担当者	川合敏樹
申請額	700,000 円
申請学部	経済学部
事業名称	リーダーシップ教育を行うための能力とスキルの獲得
申請者	尾近裕幸
実務担当者	宮下雄治
申請額	1,000,000 円
申請学部	神道文化学部
事業名称	アンケートの実施の簡便化による授業運営、学部運営の向上・改善化プログラム
申請者	武田秀章
実務担当者	遠藤 潤
申請額	600,000 円
申請学部	人間開発学部
事業名称	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発-教育実習・保育実習に焦点をあてて-
申請者	成田信子
実務担当者	伊藤英之
申請額	540,000 円

*総額 3,488,000 円

平成 28 年度 教育開発センター委員

- (委員長) 柴崎 和夫 教育開発推進機構長・教育開発センター長
仙北谷穂高 教育開発センター副センター長・教育開発推進機構事務課長
大久保桂子 共通教育センター長・教務部長
樋口 秀実 文学部教授
森川 隆 法学部教授
中馬 祥子 経済学部教授
遠藤 潤 神道文化学部准教授
神事 努 人間開発学部助教
新井 大祐 教育開発推進機構准教授
小濱 歩 教育開発推進機構准教授
戸村 理 教育開発推進機構助教
中條 豊 教育開発推進機構事務課主幹

* 職名は平成 28 年度

平成 28 年度

学部 FD 推進事業成果報告書

編集・発行 國學院大學 教育開発推進機構
教育開発センター

平成 29 年 4 月 26 日